

明治国際医療大学 保健医療学部

柔道整復学科

講義概要

〔2017〕

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
岡本 武昌 他			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	初年次教育の一環であり、保健医療学部の教員が、オムニバス形式で自身の研究内容や柔道整復学領域における基礎知識などを教授し、大学教育の在り方を深めることをねらいとする。
授業計画	<p>1回目 明治国際医療大学の教育目標と 運動学、動作解析、バイオメカニクスなどの研究を紹介する。大学教育、研究目的を明確に理解することができる。</p> <p>2回目 大学の教育と研究について 高校と大学での教育の違いと研究の目的が理解できる。</p> <p>3回目 大学における一般教養教育と基礎医学教育について（担当：鳴瀬） 1. 一般教養教育と医学基礎教育について 2. 大学教育での生物学、生化学と分子生物学の重要性について 3. 大学における研究室について</p> <p>4回目 柔道整復学科における解剖学の位置付け 柔道整復学科基礎科目としての解剖学の位置付けと国家試験における比重や問題の実例を説明し、1年次における学習の必要性を解説する。 時間があれば、担当教員の研究テーマについても概説する。</p> <p>5回目 柔道整復の大学教育において必要な基礎医学、特に生理学について 1. 大学教育について 2. 大学教育での生理学について 3. 生理学的視点から見た骨について</p> <p>6回目 柔道整復師の資格をもってスポーツ分野にどのようにアプローチできるかを他の医療資格、スポーツ関連資格と対比して解説 本学で取得可能な資格や免除科目を効率的かつ有効的に取得する。</p> <p>7回目 総合復習 これまでの講義内容について要点を解説し、レポート内容を提示する。指定期日までにレポートを提出する。</p> <p>8回目 総合復習 これまでの講義内容について要点を解説し、レポート内容を提示する。指定期日までにレポートを提出する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で出題されたテーマや内容などについて自分で調べ、復習を行う。
教科書	授業中にレジュメを配布するため教科書の指定はなし
参考書	講義中に適宜紹介する
成績評価	レポート試験を実施する。評価はレポート内容を80%、出席率を20%とし、成績評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡本武昌 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 木曜日 17:00~18:00</p> <p>担当教員名 : 松本和久 研究室 : 8号館4階准教授室 メールアドレス : k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日17:00~18:00</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬善久 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : ehiose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 17:00~18:00</p> <p>担当教員名 : 長尾淳彦 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

講義科目名称：現代国語読解

授業コード：2H105

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
下川 篤			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	日本語を読み、理解し、書く能力は学習を進めるアカデミックスキルとして不可欠であり、また社会人、医療人としても必須の能力です。 この講義では、日本語の表記や文章の構成等について学び、小論文を実際に書くことを通して、日本語のリテラシーを身につけ、日本語を正しく使うための基礎的知識を学ぶことを目標とします。		
授業計画	1回目	国語力の確認テスト [到達目標] 自らの国語力を確認する	
	2回目	当初テストの解説、日本語の表記について [到達目標]	
	3回目	文章構成の基本1 [到達目標]	
	4回目	文章構成の基本2 [到達目標]	
	5回目	小論文の書き方。小論文作成1 [到達目標]	
	6回目	小論文1について。小論文作成2 [到達目標]	
	7回目	小論文2について。小論文作成3 [到達目標]	
	8回目	まとめ（評価含む） [到達目標]	
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業で適宜案内します。		
教科書	授業で配布するプリントを使って、日本語の表記や文章の書き方等について学びます。また、読む側が正確に理解できる文章の書き方について練習します。		
参考書	国語辞典（高校時代のものでよい。電子辞書も可。）		
成績評価	出席や提出物、試験、の三項目を総合的に評価します。 出席20%、提出物20%、試験60%で評価します。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：下川 篤（非常勤講師）	
	研究室	：6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	：	
	オフィスアワー	：授業終了後	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	この授業では、大学でどのように学ぶのか、あるいはそのために必要なスキルは如何なものかについて学習する。高等学校までとは異なる大学における学習の方法に慣れること、グループで協力して知識を得ること、さらには大学生活に積極的な姿勢で向き合えるようになることが授業全体を通した目的である。学びの方法や技術を獲得し、その根底にある学びに対する姿勢や態度を理解する。授業はパートごとに川村 茂、河井正隆の二人が担当する。なお、コンピュータを使用した情報収集、情報処理およびプレゼンテーション法については、他の科目で取り扱う。
授業計画	<p>1回目 ” 大学” ってどんなところ！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学について考え、大学で求められる学力、学習態度について理解する。 ・ 高校と大学との学習の違いを理解する。 ・ 明治国際医療大学の歴史を知り、本大学で学ぶことの意義を見いだす。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>2回目 ” 図書館・研究室” ってどんなところ！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生としての” 私” と図書館や研究室との関わりを知る。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>3回目 ” 学習スタイル” を知ろう！</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の学習スタイルを理解する。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>4回目 ” 考える” ってどういうこと！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えることの大切さやその方途を知る。 <p>[備考]</p> <p>『学部長への手紙』の予告</p> <p>5回目 ” 学部長への手紙”</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で『学部長への手紙』を作成する。 <p>6回目 グループ発表の説明、グループ分け、準備</p> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにテーマを決めて、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行う。 <p>[備考]</p> <p>グループ発表準備</p> <p>7回目 グループ発表 (1)</p> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにテーマを決めて、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行う。 <p>[備考]</p> <p>テーマ： ①柔道整復師、②整形外科、③コメディカルスタッフ など</p> <p>8回目 グループ発表 (2)</p> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにテーマを決めて、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行う。 <p>[備考]</p> <p>テーマ： ④医療保険、⑤医療費、⑥統合医療、⑦ターミナルケア など</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	前半の河井担当分では、講義内容や資料をもとに考えるスキルが求められる。また、宿題の提出は携帯電話、スマートフォンおよびパソコンを使用して行う場合がある。後半の川村担当分では、グループで協力してプレゼンテーションを行うことがも定められる。
教科書	とくに指定はしない。
参考書	授業中、指定する場合がある。
成績評価	出席、提出物、授業態度 (いわゆる平常点)、レポート、プレゼンテーションの完成度などの項目を中心に担当教員が評価を行う。 出席点、レポート = 50% グループ発表とディスカッション = 50%

担当教員の基本情報	担当教員名 : 川村 茂 研究室 : 8号館4F講師室 メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後 担当教員名 : 河井正隆 研究室 : 明治東洋医学院専門学校 メールアドレス : kawai@meiji-s.ac.jp オフィスアワー : 授業の前後を充てます。
備考	

講義科目名称：物質と自然の科学

授業コード：2H108

英文科目名称：Physics in Nature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>人体の仕組みを理解する上で必要となる物理、及び数学の基礎知識を習得し、人体の動きに代表される自然界の様々な現象を、物理量によって表現できることを到達目標とする。</p> <p>骨、筋肉、神経など人体の構造と役割を理解する上で必要となる、力学や電磁気学など物理学的な考え方を習得し、呼吸や血液の働きと密接な関わりのある、液体と気体の性質について学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 力のつりあいとモーメント 力学の基礎である力のつりあいとモーメントについて理解できる。</p> <p>第2回 摩擦と運動方程式 力学の基礎である運動方程式が理解できる。</p> <p>第3回 等加速度運動 到達目標：等加速度運動とはどのようなものであるか理解できる。</p> <p>第4回 放物運動 放物運動とはどのようなものであるか数式から理解できる。</p> <p>第5回 慣性力と運動方程式 到達目標：慣性力とはどのようなものであるか、どのようなときに考慮すべき力なのか理解できる。</p> <p>第6回 2つの保存則 到達目標：エネルギー保存則と運動量保存則について理解できる。</p> <p>第7回 中間試験 到達目標：第1回～第6回までの力学の内容を理解できる。</p> <p>第8回 円運動 到達目標：円運動について理解できる。</p> <p>第9回 万有引力 到達目標：万有引力の法則について理解できる。</p> <p>第10回 単振動 到達目標：単振動と等速円運動との関係を理解できる。</p> <p>第11回 電磁気 到達目標：電気の性質を理解し、電気抵抗、電流、電圧の計算ができる。</p> <p>第12回 波動 到達目標：波の動くイメージを理解することができる。</p> <p>第13回 熱力学 到達目標：気体の状態方程式を理解できる。</p> <p>第14回 原子 到達目標：原子の基礎的な物理特性について理解できる。</p> <p>第15回 試験及び総括 講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し理解することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	必ず復習すること。(30分)
教科書	特に指定しない。
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録―新課程 数研出版株式会社(著) ISBN-10: 4410265121
成績評価	試験80%、課題20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○赤澤 淳</p> <p>研究室 : 8号館4階</p> <p>メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 木曜日</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	生物体のなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織へと順に学ぶ。生物の遺伝の原理と発生のしくみを理解し、人間が受精卵というたった1個の細胞からどのようにして発生し、この世に生まれてくるかを知ること、一人一人の人間が生活している不思議さと尊厳さを再認識する。人は、この地球上の多種多様な動物・植物、微生物種やウイルスが存在する広い生物界にいる。人は、この生物界の生存をかけた食物連鎖の中におり、食物をどのようにして食べ、その栄養分をどのように利用してカラダの構成成分を作るかなどを学習し、医療人の一人として人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。
授業計画	<p>1回目 序論：ヒトを含む高等哺乳動物の共通性と特性 [到達目標] この地球上に生息する生物種の分類について説明できる。 [備考] 毎回、講義に必要な部分のプリントを配布。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！ヒトは生まれてから死ぬまで、いったい何をしているのだろうか？（数字でみる人体の不思議）</p> <p>2回目 生体物質 [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。タンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [備考] タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル、水など</p> <p>3回目 生命の実体、細胞と細胞小器官 [到達目標] 細胞とその働きを理解する。組織、器官と器官系の成り立ちについて説明できる。 [備考] 生命の最小単位である細胞。細胞の仕組みと働き。組織、器官、器官系の成り立ち。</p> <p>4回目 生物のカラダの維持と生命活動に必要なエネルギー [到達目標] 呼吸をする、食べる（栄養素の供給）を通してエネルギーの生産および体成分の変化を説明ができる。さまざまな代謝系（代謝経路マップ）の説明ができる。 [備考] 生命維持と活動に必要なエネルギーはどこからくるのか？</p> <p>5回目 動物の体の成り立ち。ホメオスタシス（恒常性） [到達目標] ヒトとは異なる体の生き物も同じような器官・組織系からできていることを理解し説明できる。 [実習と演習] 大学内に棲む生物を探索し観察して見よう！京丹波の生き物を通して生物の多様性を理解する。 [備考] 多種多様な生物の理解。外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節（生体の化学成分はほぼ一定）。代謝。カラダを守る（免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など）</p> <p>6回目 遺伝子の働き（1） [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>7回目 遺伝子の働き（2） [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。 【実習と演習】 遺伝子DNAを見てみよう！ [備考] 生命体の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう！（DNAはどれだけ集めれば肉眼で見えるのか？）</p> <p>8回目 細胞分裂とガン [到達目標] 細胞分裂とガンがおこる仕組みを説明できる。 [備考] 複製、体細胞分裂、細胞周期</p> <p>9回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [備考] メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など</p> <p>10回目 命の誕生（生殖と発生）性の決まるしくみ [到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。</p>

	<p>11回目</p> <p>[備考] 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞（精子、卵子、受精）減数分裂、染色体ヒトの発生</p> <p>[到達目標] ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。</p> <p>12回目</p> <p>[備考] 発生（受精卵の分化、胎児の発育・出生） 発育と老化（寿命）</p> <p>[到達目標] 老化、寿命、死、そして生命をはぐくむ自然環境、有機体元素の循環や食物連鎖について理解できる。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 生命、老化、寿命、死、食物連鎖 生物の起源</p> <p>[到達目標] 生物の多様性と進化のしくみ。 進化論について理解する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 生物起源の仮説：進化論か創造説か？ 生命科学・バイオテクノロジー</p> <p>[到達目標] 現代生物学の発展について理解し、生物学がもたらす未来について考えることができる。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 生命科学の発展と未来について 講義のまとめと試験 1-14回を範囲として筆記試験</p> <p>[備考] 講義の総括。1-14回の講義を範囲として筆記試験を行う。</p> <p>[備考] テストを行い、試験結果を評価する（80%）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義は、生物学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努め、わからない場合は調べ、質問して解決に努めること。また、毎回ではないが、講義内容の確認のために講義中に演習プリントを行い、どの程度自分自身が理解できているのか確認する（講義後提出）。高校で生物を習っていた人も、遅刻、欠席は授業の妨げになるので、必ず出席すること！
教科書	特になし（講義時間ごとにプリントを配布）
参考書	『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修（数件出版） 『高校の生物が根本からわかる本』藤井 恒 著（中経出版） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D・サダヴァ（著）、石崎 泰樹他（翻訳）（ブルーバックス 講談社） 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳（丸善）
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：出席と演習20%、試験80 %
担当教員の基本情報	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 無機・有機・高分子化合物 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p> <p>第15回 試験 期末試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に該当する教科書の部分と配布したプリントを読み返しておくこと。
教科書	「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本－」 中川 徹夫著 (化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎＋化学」 富田 功監修 (Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 出席10%、期末試験を90%として成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
丸井 奈月			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	旅行の際の会話を通して、正確な英文法を知り、その英文がどのような意味なのかをイメージする練習をしていきます。 また復習としてリスニングをすることで、より英語になれることを目標とします。		
授業計画	1回目	ガイダンス：授業に関する注意事項 [到達目標] 英語学習の心構えを確認する。	
	2回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：空港(1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。	
	3回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：空港(2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。	
	4回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：機上で(1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。	
	5回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：機上で(2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。	
	6回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：ホテルチェックイン(1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。	
	7回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：ホテルチェックイン(2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。	
	8回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：観光案内(1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。	
	9回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：観光案内(2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。	
	10回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：ファーストフード店(1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。	
	11回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：ファーストフード店(2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。	

	<p>12回目 [備考] 教科書・辞書の準備。 まとめ (評価含む)</p> <p>13回目 テーマ：レストラン (1) [到達目標] 会話内容把握。キーワードの理解。</p> <p>14回目 [備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：レストラン (2) [到達目標] 会話練習。英語で情報把握。</p> <p>15回目 [備考] 教科書・辞書の準備。 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	付属のCDを使い、リスニングして復習しておいてください。
教科書	「Enjoy Your Trip! English you need abroad 一旅英語の心得」 竹内 真澄 / 中井 延美 / 菅原 千津 著 (南雲堂) ¥2,000+ 税
参考書	特になし
成績評価	確認テストの結果 (30%)、レポート (30%)、出席 (40%) で総合評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 丸井 奈月 (非常勤講師) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後の休憩時間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で医療情報の多くが英語でやりとりされています。グローバルな視野を持って活躍する医療人にとって、英語によるコミュニケーション能力や情報処理能力の育成は、まさに不可欠かつ緊急の課題であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目は、医療・保健・看護にかかわる英語語彙力・読解力・表現力の習得を目指します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかり把握しながら読み進むことなどを当面の目標といたしましょう。さらに、医療現場で使用される英語短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。</p>		
授業計画	第1回	<p>この科目のオリエンテーション</p> <p>〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。</p> <p>〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p>	
	第2回	<p>医療分野の読み物（1）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p>	
	第3回	<p>医療分野の読み物（2）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p>	
	第4回	<p>医療分野の読み物（3）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p>	
	第5回	<p>医療分野の読み物（4）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p>	
	第6回	<p>医療分野の読み物（5）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p>	
	第7回	<p>医療分野の読み物（6）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p>	
	第8回	<p>医療分野の読み物（7）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（7） 医療分野の短文表現（7）</p>	
	第9回	<p>医療分野の読み物（8）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（8） 医療分野の短文表現（8）</p>	
	第10回	<p>医療分野の読み物（9）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（9） 医療分野の短文表現（9）</p>	
	第11回	<p>医療分野の読み物（10）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（10） 医療分野の短文表現（10）</p>	

	<p>第12回 医療分野の読み物 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11)</p> <p>第13回 医療分野の読み物 (12) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (12) 医療分野の短文表現 (12)</p> <p>第14回 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等) について</p>	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。 2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。 3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。 4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。 5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。
<p>教科書</p>	<p>特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)</p>
<p>参考書</p>	<p>英和辞典は授業時に必携です。</p>
<p>成績評価</p>	<p>授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間</p>
<p>備考</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを便利に使い、様々な書類を作成するスキルの獲得を目標とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の習得し、具体的に対処する方法について学びます。</p> <p>4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を習得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCとメールの利用法</p> <p>[到達目標]</p> <p>本学のコンピュータとメールを使うことができる 携帯電話（スマホ）で本学メールを使用できる 学生支援システムの役割を知り、利用できる</p> <p>[備考]</p> <p>授業内で大学メールの携帯転送設定を確認する</p>	
	第2講	<p>情報を探す</p> <p>[到達目標]</p> <p>情報メディア教室で印刷が行える 高度なWeb検索が行える</p> <p>[備考]</p> <p>USBメモリー（容量は問わない）とイヤホン（or ヘッドホン）を持参すること</p>	
	第3講	<p>ワープロで文書を作る、タッチタイピングを身につける</p> <p>[到達目標]</p> <p>ワープロが使える、文書のレイアウトを整えることができる タッチタイピングの習得方法がわかる ショートカットキーを使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出・小テストあり</p>	
	第4講	<p>表計算1：基本操作と便利な使い方を学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトを使って表が作成できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第5講	<p>表計算2：関数とグラフを学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトで棒グラフが作成できる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第6講	<p>表計算3：分散と標準偏差を理解する</p> <p>[到達目標]</p> <p>データのバラツキについて説明できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第7講	<p>表計算4：グラフ、表、数値の読み方</p> <p>[到達目標]</p> <p>種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第8講	<p>表計算5：復習と演習</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算で学習した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第9講	<p>表計算を用いたデータ整理と表示法のテスト</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考]</p> <p>表計算のテストを実施する</p>	
	第10講	<p>プレゼンテーション1：プレゼンテーションソフトを使いこなす</p> <p>[到達目標]</p> <p>プレゼンテーションソフトを使うことができる プレゼンスライド上で様々な表現が行える</p> <p>[備考]</p>	
	第11講	<p>プレゼンテーション2：他者と意見を交える</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>他者と円滑にグループワークが行える ディスカッションの内容に従って、プレゼン資料が作成できる [備考] プレゼンテーション3：自分達の意見を発表する [到達目標] グループの一員として自分の考えを提示できる 他者の意見を傾聴できる [備考] プレゼン発表を実施します</p> <p>第13講 ビジネスでメールを使う [到達目標] メールのCCやBCC、署名が使える ビジネスメールのマナーが実践できる [備考] 課題提出・小テストあり</p> <p>第14講 パスワード管理、悪意のあるプログラムを知る1 [到達目標] 適切なパスワードを作り管理することができる マルウェア（コンピュータウイルス）の実態を説明できる [備考] 小テストあり</p> <p>第15講 悪意のあるプログラムを知る2、ネットの脅威から身を守る [到達目標] マルウェア（コンピュータウイルス）対策を実行できる ネットの脅威から身を守るための対策を実施できる [備考] 課題提出・小テストあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	適宜、復習を行い、コンピュータスキル獲得に努めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」 (NOA出版) 学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle 学外からもアクセスできるホームページ http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture
参考書	「知へのステップ」 学習技術研究会 著 (くろしお出版)
成績評価	評価割合は授業内課題17%、小テスト23%、プレゼン発表20%、第9講で実施するテスト40%とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護と関係づけて、共に考えることである。		
授業計画	1回目	生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 生命倫理的な思考様式を理解する。	
	2回目	生命倫理の原則 [到達目標] SOLとQOL、自己決定とパターンリズムを理解する。	
	3回目	[備考] 課題レポート：生命倫理の原則について（3回目の講義時に提出） 生殖補助医療の現状① [到達目標] 生殖補助医療の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	4回目	生殖補助医療の現状② [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	5回目	[備考] 課題レポート：生殖補助医療について（5回目の講義時に提出） 臓器移植の現状① [到達目標] 臓器移植の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	6回目	臓器移植の現状② [到達目標] 臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	7回目	[備考] 課題レポート：臓器移植について（7回目の講義時に提出） 尊厳死と安楽死① [到達目標] 尊厳死・安楽死について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	8回目	尊厳死と安楽死② まとめ [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。	
		[備考] 課題レポート：尊厳死・安楽死について（別途指定時に提出）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	①事前に配付される講義資料を読み、問題意識を明確にしておくこと。 ②単元ごとにレポートを実施する。		
教科書	使用しない。講義資料を配付する。		
参考書	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
成績評価	授業計画に記した4回のレポートで評価する。 レポートごとに合否を判定し、基準を満たさない場合は再レポートを課す。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：佐別当 義博（非常勤講師）	
	研究室	：6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	：sabetto@kyotogakuen.ac.jp	
	オフィスアワー	：授業終了後	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
確認中			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身に付けることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTRODUCTIONとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 医療概論のまとめ 第1回～第7回の講義のまとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。
教科書	なし（講義でプリントを配布します）
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	研究室 : 鍼灸センター2F教員室(石崎教授室) メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜～金曜 17:00以降
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きを身につける。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれるようにする。 4. 礼法・受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣（上・下・帯）をもっている者は持参し、サイズのチェックを受けてください。柔道衣がない者やサイズが適切でない者は購入してください。サイズが適切な者はゼッケンのみ購入してください。 ※柔道衣がないので、体操服を持参してください。</p> <p>2回目 柔道衣の着方、柔道の概要、礼法 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 柔道の概要（歴史や理念）が理解できる。 3) 礼法（立礼、座礼）ができる。</p> <p>3回目 礼法・受け身・立技 1) 受け身ができる。 2) 礼法ができる。 3) 立技（支釣込足）に対して受け身ができる。</p> <p>4回目 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 抑込技の定義が理解できる。 3) 袈裟固、横四方固ができる。 4) 立技に対して受け身ができる。</p> <p>5回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 抑込技の定義が理解できる。 3) 上四方固、縦四方固ができる。 4) 立技（支釣込足）に対して受け身ができる。</p> <p>6回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 絞技が理解できる。 3) 立技（支釣込足）に対して受け身ができる。</p> <p>7回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 絞技が理解できる。 3) 立技（大腰）に対して受け身ができる。</p> <p>8回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 絞技が理解できる。 3) 立技（大腰）に対して受け身ができる。</p> <p>9回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 関節技が理解できる。 3) 立技（背負投）に対して受け身ができる。</p> <p>10回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 関節技が理解できる。 3) 立技（背負投）に対して受け身ができる。</p> <p>11回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技（払腰）に対して受け身ができる。</p> <p>12回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技（足技）に対して受け身ができる。</p> <p>13回目 受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技（手技・腰技）に対して受け身ができる。</p> <p>14回目 まとめ① 1) 受け身・礼法ができる。 2) 立技に対して受け身ができる。</p> <p>15回目 まとめ②</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
教科書	なし。
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著 (史資料出版協会) 2) 柔道の形 入門[投の形][柔の形] 小俣幸嗣 著 (大泉書店) 3) 投の形 財団法人 講道館 (亀井印刷)
成績評価	平常点20% (出席状況・授業態度など) と実技試験80%によって評価を行います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域に於いては最も基礎となり欠かすことのできないものである。しかしその修得は決して容易ではない。</p> <p>運動器系人体構造学では、基礎生物学、細胞生物学、組織学の各概論に始まり、骨学、筋学をミクロからマクロまでカバーする。特に後半は各論として全身の骨格、筋肉の名称、その部位名、機能をカバーするので内容は広く、深い。しかし柔道整復師になるための基礎中の基礎であり十分な学修が絶対に必要な。上記内容を十分理解し、解剖基礎と運動器系の名称、機能を十分説明できて、柔道整復学の専門講義を理解することができる基礎知識の確立が目標である。</p>
授業計画	<p>1回目1限目 解剖学概論1 [到達目標] 講義の概要と、解剖学をどう学ぶのか、について理解できている。 [備考] 合わせて試験と単位認定について説明する。</p> <p>1回目2限目 解剖学概論2 [到達目標] 人の体の概要について説明できる。 [備考] 解剖用語の解説。人体の各部分の解説。頭蓋腔・脊柱管・胸腔・腹腔・骨盤腔など。</p> <p>2回目1限目 細胞の形態と構造 [到達目標] 細胞の構造について説明できる。 [備考] 細胞の構造、細胞内小器官、その形態と機能。</p> <p>2回目2限目 細胞分裂と生殖 [到達目標] 体細胞分裂と減数分裂について説明できる。 [備考] 一般的な有糸分裂（体細胞系）と生殖細胞分裂（減数分裂）、受精。受精後の初期発生と胚葉分化。</p> <p>3回目1限目 組織、器官、臓器の概論 [到達目標] 組織学全体と上皮組織について説明できる。 [備考] 組織学概論と上皮組織の分類、形態、分布。</p> <p>3回目2限目 結合組織（分類、特徴、分布） [到達目標] 結合組織全体について説明できる。 [備考] 結合組織概論と各論。細胞外マトリックスと結合組織。</p> <p>4回目1限目 骨・軟骨の構造と発生 [到達目標] 骨組織の構成について説明できる。 [備考] 骨組織の構成、骨単位（ミクロ骨学）。骨・軟骨の成長。</p> <p>4回目2限目 骨・軟骨の構造 [到達目標] マクロな視点で骨、軟骨組織について説明できる。 [備考] 硬骨の外観、分類（マクロ骨学）。軟骨の分類と分布。</p> <p>5回目1限目 全身の骨格 [到達目標] 全身の骨格の概要と主要な骨について説明できる。 [備考] 全身の主要な骨格とその名称、部位名。</p> <p>5回目2限目 骨学各論1 体幹部の骨格 [到達目標] 体幹部の骨格について説明できる。 [備考] 椎骨、仙骨、胸郭（胸骨、肋骨）の骨。</p> <p>6回目1限目 骨学各論2 頭部1 [到達目標] 頭部の骨の外観について説明できる。 [備考] 頭骨の連結。頭蓋底、眼窩、鼻腔、下顎の骨。</p> <p>6回目2限目 骨学各論3 頭部2 [到達目標] 頭部の骨の詳細な部分について説明できる。 [備考] 頭部の骨、内頭蓋底・外頭蓋底の各部分。孔・裂孔・管とそこを通るも。</p> <p>7回目1限目 骨学各論4 上肢 [到達目標] 上肢の骨とその連結について説明できる。 [備考] 上肢帯と自由上肢の骨格。肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨。</p> <p>7回目2限目 骨学各論5 下肢 [到達目標] 下肢の骨とその連結について説明できる。 [備考] 下肢帯と自由下肢の骨格（骨盤を含む）。寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨。</p> <p>8回目1限目 前半総括1 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を包括講義。</p> <p>8回目2限目 前半総括2 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を包括講義。</p> <p>9回目1限目 骨の連結1 [到達目標] 骨の連結について説明できる。 [備考] 骨の連結様式、関節の種類と分布。腱・靭帯・関節の構造。関節運動について。</p> <p>9回目2限目 骨の連結2 [到達目標] 主要な関節について説明できる。 [備考] 主要関節部の構成。胸鎖関節、肩関節、肘関節、股関節、手と手根・足と足根関節と靭帯。</p>

10回目1限目	筋学概論 1 [到達目標] 筋細胞・組織について説明できる。 [備考] 筋細胞、筋組織と付属装置。筋組織の分類、特徴、分布。骨格筋、内臓筋、心筋の特徴。
10回目2限目	筋学概論 2 [到達目標] 筋肉の神経支配について説明できる。 [備考] 神経・筋シナプスの構造。シナプスでの情報伝達と筋収縮。
11回目1限目	筋学各論1 頭部の筋 [到達目標] 頭部の筋肉とその機能について説明できる。 [備考] 表情筋、咀嚼筋等。
11回目2限目	筋学各論 2 頸部の筋 [到達目標] 頸部の筋肉とその機能について説明できる。 [備考] 浅・深頸筋、舌骨筋等。
12回目1限目	筋学各論 3 体幹の筋 [到達目標] 体幹の筋群とその機能について説明できる。 [備考] 浅背筋、固有背筋群と腹筋群。
12回目2限目	筋学各論 4 上肢、手の筋 [到達目標] 上肢の筋肉とその機能について説明できる。 [備考] 下肢帯及び自由下肢の筋。手の筋肉と腱。
13回目1限目	筋学各論 5 下肢、足の筋 [到達目標] 下肢、足の筋とその機能について説明できる。 [備考] 下肢帯及び自由下肢の筋。足の筋肉と腱。
13回目2限目	筋学各論 6 その他の筋。 [到達目標] その他の筋肉とその機能について説明できる。 [備考] 筋学各論の予備。
14回目1限目	発生 1 [到達目標] ヒトの発生（初期）について説明できる。 [備考] 受精卵からヒトの初期発生。人体各部の形成と胚葉形成。
14回目2限目	発生 2 [到達目標] ヒトの発生（後期）について説明できる。 [備考] 胎児の成長から出産まで。胎盤の構造。
15回目1限目	後半総括 1 [到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 14回目までの内容を包括講義 1。
15回目2限目	後半総括 2 [到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 14回目までの内容を包括講義 2。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	事前に次回授業範囲を上記参考書で下調べを行い、講義中には必要箇所を速やかにメモし、ノートを作成することが重要となる。また授業後にはノート、配布プリントを見直し、不備な箇所を参考書あるいはテキスト等を参考に訂正あるいは補充しておくように努めて欲しい。憶えなくてはならない医学用語がたくさんあるので、試験前の駆け込み勉強では到底カバーできないので、その日の講義内容についてはその日のうちに復習することを積み上げていくことにより目標に達することができる。
教科書	「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店 7800円 (+税) F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。(ただし全てではない) 「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 7800円 (+税) 岸 清・石塚 寛 編 ※講義で主に使うものではないが国家試験対策に必要。
参考書	なし
成績評価	中間試験(前半部)及び期末試験(後半部)の2度に分けて試験を行い、両方ともに60%以上の点数の場合のみ合格とする。(片方だけでも満たさない場合は不合格) その試験は講義の出席が全体の2/3を満たすもののみ受験資格がある。 評価は2回の試験と出席を総合的に判断して判定する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehrose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後 担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>本講義では神経系全体の概論をまず解説した後に、中枢神経（脳・脊髄神経）と末梢神経（運動神経と自律神経）の概論を展開する。</p> <p>さらに運動神経は各論として、全身の神経の走行と、筋肉支配について解説する。</p> <p>これに付随して感覚器（皮膚感覚器や特殊感覚の受容器）とその情報伝達について解説する。</p> <p>後半は特に外皮系、男性・女性生殖器と内分泌系も含む。</p> <p>神経系の各論は柔道整復の専門の習得には重要な基礎知識であるとともに、国家試験には必ず数題以上出題される分野なので、意欲を持って受講することが望まれる。</p>
授業計画	<p>1回目1限目 神経系概論1 [到達目標] 神経系の概要について説明できる。 [備考] 神経細胞、神経膠細胞と神経組織の概論。情報伝達の仕組み。</p> <p>1回目2限目 神経系概論2 [到達目標] 中枢神経と末梢神経の構成について説明できる。 [備考] 中枢神経と末梢神経の構成 周辺組織</p> <p>2回目1限目 神経系各論1 [到達目標] 脊髄神経と神経叢について説明できる。 [備考] 脊髄神経前枝と代表的な神経叢、その神経線維構成。</p> <p>2回目2限目 神経系各論2 [到達目標] 全身の主要な神経について説明できる。 [備考] 全身の主要な神経神経の解説。運動神経、感覚神経、自律神経を含む神経の解説。</p> <p>3回目1限目 神経系概論3 [到達目標] 脊髄と脊髄反射、脳組織の構成について説明できる。 [備考] 脊髄と脊髄反射。反射弓。脳神経系の構成について。</p> <p>3回目2限目 神経系概論4 [到達目標] 脳の構造と各部位について説明できる。 [備考] 脳の構造、各部位の機能について説明する。大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄。</p> <p>4回目1限目 神経系各論3 [到達目標] 脳神経について説明できる。 [備考] 脳から出る脳神経とその分布、標的器官・臓器とその神経機能。</p> <p>4回目2限目 神経系各論4 [到達目標] 神経伝導路について説明できる。 [備考] 運動（遠心性）・感覚（求心性）神経の主要な伝導路。</p> <p>5回目1限目 神経系各論5 [到達目標] 高次神経機能について説明できる。 [備考] 高次神経機能の中枢内領域と伝導路の解説。</p> <p>5回目2限目 神経系各論6 [到達目標] 自律神経系の種類と機能について説明できる。 [備考] 自律神経系概論。交感・副交感神経とその伝導路、効果器。神経伝達物質と細胞内情報伝達</p> <p>6回目1限目 外皮系1 [到達目標] 外皮系の概略について説明できる。 [備考] 外皮の構造と感覚受容器の種類、分布。上皮、真皮、皮下組織など。</p> <p>6回目2限目 外皮系2 [到達目標] 外皮系の付属器について説明できる。 [備考] 外皮系の付属器（毛、爪）などの構造。</p> <p>7回目1限目 感覚器1 [到達目標] 眼球の構造と光受容について説明できる。 [備考] 眼球の構造、視覚受容と視神経、視覚伝導路（中枢まで）</p> <p>7回目2限目 感覚器2 [到達目標] 聴覚・平衡覚の受容について説明できる。 [備考] 聴覚、平衡覚の受容と内耳の構造。その伝導路。</p> <p>8回目1限目 前半総括1 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を包括講義1（神経系、感覚器、外皮）</p> <p>8回目2限目 前半総括2 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を包括講義2（神経系、感覚器、外皮）</p> <p>9回目1限目 男性生殖器1 [到達目標] 配偶子形成の機構について説明できる。 [備考] 減数分裂と精巣の構造、精子形成。</p> <p>9回目2限目 男性生殖器2 [到達目標] 精路について説明できる。 [備考] 精巣からの精路、精囊、陰茎、付属器。</p> <p>10回目1限目 女性生殖器1</p>

	<p>目</p> <p>[到達目標] 女性生殖器の配置、卵巣について説明できる。 [備考] 女性生殖器の配置と固定装置。卵巣と卵胞成熟。</p> <p>10回目2限目 女性生殖器2</p> <p>[到達目標] 子宮と子宮内膜の構造、その変化について説明できる。 [備考] 子宮の構造、子宮内膜。性周期とホルモンの関係。</p> <p>11回目1限目 女性生殖器3</p> <p>[到達目標] 性周期とホルモンの関係について説明できる。 [備考] 性周期に関係するホルモンの種類とその標的。下垂体以下の経路まとめ。</p> <p>11回目2限目 女性生殖器4</p> <p>[到達目標] 外陰部、乳房の構成について説明できる。 [備考] 外陰部、乳房(乳腺)。受精と着床。初期発生。</p> <p>12回目1限目 女性生殖器5</p> <p>[到達目標] 妊娠と胎児の成長について説明できる。 [備考] 妊娠の成立。胎児の成長と胎盤の構造。分娩。</p> <p>12回目2限目 男性・女性生殖器系のまとめ</p> <p>[到達目標] 男性・女性生殖器系全般について説明できる。 [備考] ※男性・女性生殖器系のまとめ</p> <p>13回目1限目 内分泌系1</p> <p>[到達目標] 内分泌の概要について説明できる。 [備考] 内分泌系概論。外分泌との違い。主要な分泌様式中の位置づけ。</p> <p>13回目2限目 内分泌系2</p> <p>[到達目標] 下垂体の構造と機能について説明できる。 [備考] 下垂体の構造、発生、機能。下垂体ホルモンと神経分泌。</p> <p>14回目1限目 内分泌系3</p> <p>[到達目標] その他の内分泌器官の構造とホルモンについて説明できる。 [備考] 甲状腺、上皮小体、松果体の構造とホルモン、その構造、標的、機能など。</p> <p>14回目2限目 内分泌系4</p> <p>[到達目標] 副腎について説明できる。 [備考] 副腎の構造。皮質と髄質のホルモン、その構造、標的、機能など。 ※内分泌系まとめ</p> <p>15回目1限目 後半総括1</p> <p>[到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 14回目までの内容を包括講義1(男女生殖器系と内分泌系)</p> <p>15回目2限目 後半総括2</p> <p>[到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 14回目までの内容を包括講義2(男女生殖器系と内分泌系)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>事前に次回授業範囲を上記参考書で下調べを行い、講義中には必要箇所を速やかにメモし、ノートを作成することが重要となる。また授業後にはノート、配布プリントを見直し、不備な箇所を参考書あるいはテキスト等を参考に訂正あるいは補充しておくように努めて欲しい。憶えなくてはならない医学用語がたくさんあるので、試験前の駆け込み勉強では到底カバーできないので、その日の講義内容についてはその日のうちに復習することを積み上げていくことにより目標に達することができる。</p>
教科書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで」 西村書店 7800円(+税) F.H. マティーン M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。(ただし全てではない)</p> <p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 7800円(+税) 岸 清・石塚 寛 編 ※講義で主に使うものではないが国家試験対策に必要。</p>
参考書	なし
成績評価	<p>中間試験(前半部)及び期末試験(後半部)の2度に分けて試験を行い、両方ともに60%以上の点数の場合のみ合格とする。(片方だけでも満たさない場合は不合格) その試験は講義の出席が全体の2/3を満たすもののみ受験資格がある。 評価は2回の試験と出席を総合的に判断して判定する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehirose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
中山 登稔			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生体機能を維持するための動物性機能、すなわち神経の基本的機能、筋肉の基本的機能、体性神経系と自律神経系、内臓機能の調節、運動機能の調節について学習する。ヒトとしての自分を知り、柔道整復師としての基礎的知識の獲得を目標とする。
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎について 到達目標：生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス、細胞の機能的構造（核、小胞体とリボソーム、ゴルジ装置、リソソームなど）、細胞膜（細胞膜の構造、拡散、浸透、ろ過、受動輸送、能動輸送、エンドサイトーシス、エクソサイトーシス）、ニューロンとその支持細胞、ニューロンの変性と再生について説明できる。 備考：教科書のp. 1-14を予習する。</p> <p>第2回 神経の基本的機能Ⅰについて 拡散電位と平衡電位、静止膜電位形成の仕組み、活動電位とは、活動電位発生の仕組みについて説明できる。</p> <p>第3回 教科書のp. 14-19を予習する。 神経の基本的機能Ⅱについて 閾刺激、全か無かの法則、不応期、細胞膜とイオンチャネル、電位差動性チャネル、リガンド作動性チャネル、興奮の伝導の三原則について説明できる。 教科書のp. 19-23を予習する。</p> <p>第4回 神経の基本的機能Ⅲについて 興奮の伝導（跳躍伝導、興奮の伝導速度）、複合活動電位、興奮の伝達（シナプス）について説明できる</p> <p>第5回 教科書のp. 23-26を予習する。 神経の基本的機能Ⅳについて 興奮の伝達（興奮性シナプスと抑制性シナプスシ、化学伝達物質ナプス伝達の特徴、シナプス接続の型、シナプス前抑制、シナプスの可塑性について説明できる。 教科書のp. 26-29を予習する。</p> <p>第6回 筋肉の基本的機能Ⅰについて 骨格筋・平滑筋・心筋各々の役割と特徴、骨格筋の構造、筋の収縮のしくみ（筋収縮時の筋節構造の変化、筋収縮過程におけるカルシウムイオンの役割）、筋細胞膜を興奮させる仕組み、骨格筋の収縮の仕方（筋肉の張力と負荷、等張性収縮と等尺性収縮）について説明できる。 教科書のp. 31-39を予習する。</p> <p>第7回 筋肉の基本的機能Ⅱについて 骨格筋の収縮の仕方（単収縮、収縮の加重と強縮）、筋肉の長さとの関係、筋収縮のエネルギー（筋収縮・弛緩とATP、エネルギー供給のためのATP産生過程）、筋の熱発生、筋電図、平滑筋（平滑筋の構造、平滑筋を支配する神経、単ユニット平滑筋、多ユニット平滑筋、平滑筋の収縮の仕組み、心筋について説明できる。 教科書のp. 40-49を予習する。</p> <p>第8回 神経系の構成Ⅰについて 反射と反射弓、脳-脊髄神経系の構成、脊髄（脊髄、灰白質、白質）、脊髄神経系の構成、皮膚節と筋節について説明できる。 教科書のp. 51-54を予習する。</p> <p>第9回 神経系の構成Ⅱについて 脳幹の構造（中脳、橋、延髄、脳幹網様体、生体アミン神経系）、脳神経の構成、体性神経系と自律神経系について説明できる。 教科書のp. 55-58を予習する。</p> <p>第10回 感覚系の構成と機能－感覚の一般的性質について 感覚器、受容器における電気現象、順応、感覚情報の伝達と新皮質感覚野、感覚の種類について説明できる。</p> <p>第11回 教科書のp. 59-62を予習する。 感覚系の構成と機能－視覚Ⅰについて 眼の構造、結像の機序（通光学、模型眼と省略眼、眼の屈折と調節力、結像異常、視力）、光受容器（視物質）について説明できる。 教科書のp. 63-66を予習する。</p> <p>第12回 感覚系の構成と機能－視覚Ⅱについて 光受容機序（電気活動、暗順応）、視覚の伝導路（網膜の神経節細胞、外側膝状体、神経経路の障害）、新皮質視覚野（視覚神経細胞の電気活動、視覚野の方向優位コラムと眼球優位コラム、色覚、視野と両眼視について説明できる。 教科書のp. 67-70を予習する。</p> <p>第13回 感覚系の構成と機能－聴覚Ⅰについて 耳の構造（伝音系、蝸牛管とコルチ器官）、音（音波）について説明できる。 教科書のp. 71-73を予習する。</p> <p>第14回 感覚系の構成と機能－聴覚Ⅱについて 音（音の伝達、電気活動-蝸牛内電位、受容器電位、蝸牛神経線維の活動電位）、聴覚の伝導路と</p>

	<p>新皮質聴覚野について説明できる。 教科書のp. 74-76を予習する。 期末試験 第1回から第14回の講義内容に関する問題を解くことができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1. 受講前に教科書を予習する。 2. 受講後に教科書を熟読・理解し、覚える。 3. 教科書にない図表のプリントを配布しますので、内容について事前に調べる。</p>
教科書	シンプル生理学、改定第7版、貴邑富久子、根来英雄著、南江堂
参考書	<p>生理学テキスト、第7版、大地陸男著、文光堂 標準生理学、第7版、小澤瀨司、福田康一郎 総編集、医学書院 Clinical生体機能学、第1版、富瀬規嗣著、南江堂 やさしい生理学、改訂第6版、彼末一之、能勢博 編集、南江堂</p>
成績評価	期末試験100%（追再試験を行う）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中山登稔 研究室 : 本館2階 中山教授室 メールアドレス : t_nakayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00～18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
林 知也 神内伸晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医学の歴史、柔道整復術および柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領、柔道整復術（概論）、柔道の概要（歴史、理念）について理解する。		
授業計画	1回目	オリエンテーション 本学の歴史について ・学習の取り組み方や方針が理解できる。 ・本学の歴史について理解することができる。	
	2回目	医学・医術の発展と現代医療・柔道整復術および柔道整復師の沿革 ・医学・医術の発展と現代医療までの流れを理解できる。 ・柔道整復術および柔道整復師の沿革を理解できる。	
	3回目	柔道整復師の業務範囲とその心得 ・柔道整復師の業務範囲とその心得について理解できる。	
	4回目	柔道整復学師の役割と展望 ・柔道整復師の社会的役割を把握し将来的にどのような柔道整復師を目指すのか考えることができる。 ・柔道整復師が行う伝統的な治療方法や今後学ぶ医学の重要性について理解することができる。	
	5回目	柔道の歴史と柔道の素養について 本学の歴史について ・柔道の概要（歴史や理念）が理解できる。	
	6回目	医療人（柔道整復師）としての素養や社会的マナーについて ・医療人（柔道整復師）としての素養や社会的マナーについて授業内でディスカッションを行い、大学生として必要なマナーを学ぶ。	
	7回目	総合復習 ・第1～6回までの授業の復習を行い、柔道整復師の歴史や業務範囲などについて深く理解できる。	
	8回目	総合評価（まとめ） ・今までの授業内容を理解できる。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書p1～13を熟読してください。		
教科書	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会監修、社団法人全国柔道整復学校協会、教科書委員会編）		
参考書	なし。		
成績評価	出席状況・授業態度（30%）と筆記試験（70%）によって総合評価する。		
担当教員の基本情報	教員氏名：林 知也 研究室：8号館4階 教授室 オフィスアワー：授業終了日の放課後17：00～18：00 教員氏名：神内伸晃 研究室：8号館4階講師室 オフィスアワー：授業終了日の放課後17：00～18：00		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
大木琢也、泉晶子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	柔道整復師にとって、骨や筋の部位名称、筋の起始・停止を理解し覚えておく事は非常に重要である。本講義では、柔道整復学理論編に記載されている骨折、脱臼、軟部組織損傷に関連する骨の部位名称・筋の名称や起始・停止を理解する。さらに、体表解剖学の講義と連動して、骨指標や筋・腱をより深く骨・筋を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 上肢① 上肢帯の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第2回 上肢② 上腕部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第3回 上肢③ 前腕部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第4回 上肢④ 手指部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第5回 体幹① 頭部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第6回 体幹② 頸部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第7回 まとめ①</p> <p>第8回 体幹③ 脊柱の(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第9回 下肢① 下肢帯の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第10回 下肢② 大腿部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第11回 下肢③ 下腿部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第12回 下肢④ 下腿部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第13回 下肢⑤ 足部の骨(部位名称、指標)・筋肉(起始・停止、支配神経、作用)について理解する。</p> <p>第14回 体表区分・生体計測 体表区分や脈が触知できる箇所について理解する。</p> <p>第15回 まとめ②</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	運動器系人体構造学で学習した骨・筋・神経の知識が基礎となる。授業は事前にプリントを配布するため、各自予習を必ずしておくこと。また、各回の範囲を復習しておくこと。
教科書	機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明
参考書	カラー人体解剖学—構造と機能:マイクロからマクロまで 著：F.H. マティーン、M.J. ティモンズ、M.P. マッキンリ 肉単一ギリシャ語・ラテン語(語源から覚える解剖学英単語集(筋肉編)) 著：原島広至、河合良訓 骨単一ギリシャ語・ラテン語(語源から覚える解剖学英単語集(骨編)) 著：原島広至、監：河合良訓
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する(80%)。試験は①・②に分けて行う。それ以外に、授業態度やワークシート等(20%)も加味し、総合評価する。
担当教員の基本情報	大木琢也、泉晶子 研究室：8号館 4F講師室 オフィスアワー：講義終了後 1時間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>【 授業概要 】 本科目は、柔道整復に関する導入として、骨組織損傷についての基礎知識をわかりやすく解説していく。教科書前半部分の総論が学習の中心であるが、この知識が今後どのようなかたちで必要になるのかを理解してもらうために、一部、各論についての解説も導入する。</p> <p>【 到達目標 】 主に骨折に関する基礎知識を学ぶが、今後の臨床科目へ昇段するための基盤構築をも目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション + 骨損傷の分類について (1) [授業概要] ・ 柔道整復師の社会的な役割 ・ 骨の形態と機能、骨損傷の概説 ・ 骨損傷の分類について (1) [到達目標] ・ 柔道整復師の社会的役割について理解する。 ・ 骨の形態と機能について理解する。 ・ 骨折の性状による分類、程度による分類を理解する。 [備考] オリエンテーション 授業の進め方について 小テストについて 予習・復習について指導を行う</p> <p>2回目 骨損傷の分類について (2) [到達目標] ・ 骨折の数による分類を理解する。 [備考] 前回授業の復習 確認テスト</p> <p>3回目 骨損傷の分類について (3) [到達目標] ・ 骨折の部位による分類を理解する。 ・ 骨折の経過による分類を理解する。 [備考] 前回授業の復習 確認テスト</p> <p>4回目 骨損傷の症状について [到達目標] ・ 骨折の症状について理解する。 ・ 骨折の局所症状 (一般外傷症状) について理解する。 ・ 骨折の局所症状 (固有症状) について理解する。 [備考] 前回授業の復習 確認テスト</p> <p>5回目 骨損傷の合併症と後遺症について [到達目標] ・ 骨折の合併症と後遺症について理解する。 [備考] 前回授業の復習 確認テスト</p> <p>6回目 小児の骨損傷および高齢者の骨損傷の各特徴について [到達目標] ・ 小児の骨損傷および高齢者の骨損傷の各特徴について理解する。 ・ 骨の生理学とリモデリングについて理解する。 [備考] 前回授業の復習 確認テスト</p> <p>7回目 総合復習 (まとめ) [到達目標] ・ 骨損傷の癒合日数について理解する。 ・ 骨折の治癒経過について理解する。 ・ 骨損傷の予後・治癒に影響を与える因子について理解する。</p>

	<p style="text-align: center;">[備 考] 前回授業の復習 確認テスト 8回目 評価（筆記試験） [評 価] 骨折に関する知識が的確に理解されているかどうか筆記試験にて評価する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業前には前回分の復習を行う。 また、各授業終了前に確認テストを行うので、それを次回の授業までに復習しておくこと。 予習として教科書を熟読しておくこと。
教科書	<p>1. 柔道整復学（理論編）改訂第5版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂（平成29年1月に第6版発行予定）</p> <p>2. 柔道整復外傷学ハンドブック 総論 第2版 監修：平澤泰介 医道の日本社</p> <p>※ 授業には、上記の教科書2冊を必ず持参すること。</p>
参考書	標準整形外科学第12版 監修：内田淳正 医学書院
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 出席および授業態度などの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：川村 茂 研究室：8号館4F講師室 メールアドレス：s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>【 授業概要 】 本科目は、関節の構成、関節損傷、脱臼、軟部組織損傷から構成される。</p> <p>【 到達目標 】 柔道整復に関する総論として、関節損傷に関する身体の基礎的状态、外力による生体への影響を理解することを目的とする。また、各組織損傷についてその発生機序、損傷の分類、基礎的治療法の知識を理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 関節の構造について 関節損傷の基礎 [到達目標] ・ 関節の構成組織、構造、各構成組織の役割について理解する。 ・ 関節損傷の基礎について理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>2回目 関節損傷の概説 [到達目標] ・ 関節の各構成組織の損傷について理解する。 ・ 脱臼と捻挫の違いについて理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>3回目 関節損傷の分類について [到達目標] ・ 関節損傷における分類について理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>4回目 損傷される組織について [到達目標] ・ 関節に外力が加わった際、損傷される組織について理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>5回目 鑑別診断に要する類症について [到達目標] ・ 鑑別診断を要する関節障害について理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>6回目 脱臼の概説と脱臼の分類について [到達目標] ・ 脱臼の概説について理解する。 ・ 脱臼の分類について理解する。 ・ 脱臼の発生機序などを理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>7回目 脱臼の症状、合併症など [到達目標] ・ 脱臼の局所症状（一般外傷症状）について理解する。 ・ 脱臼の局所症状（固有症状）について理解する。 ・ 脱臼の合併症について理解する。</p> <p>[備考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。</p> <p>8回目 軟部組織損傷 — 腱損傷について — [到達目標] ・ 腱損傷の基礎について理解する。 ・ 腱の構造を理解する。 ・ 腱損傷の症状などについて理解する。</p>

	<p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 軟部組織損傷 — 筋損傷について —</p> <p>[到達目標] ・ 筋損傷の基礎について理解する。 ・ 筋の構造について理解する。 ・ 筋損傷の症状などについて理解する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 軟部組織損傷 — 靭帯損傷について —</p> <p>[到達目標] ・ 靭帯損傷の基礎について理解する。 ・ 靭帯の構造について理解する。 ・ 靭帯損傷の症状などについて理解する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 軟部組織損傷 — 末梢神経損傷について —</p> <p>[到達目標] ・ 末梢神経の構造について理解する。 ・ 末梢神経の構造について理解する。 ・ 末梢神経損傷の症状について理解する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 軟部組織損傷 — 血管系・リンパ損傷について —</p> <p>[到達目標] ・ 血管系・リンパ損傷の基礎について理解する。 ・ 血管系・リンパの構造について理解する。 ・ 血管系・リンパ損傷の症状について理解する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 軟部組織損傷 — 皮膚損傷について —</p> <p>[到達目標] ・ 皮膚損傷の基礎について理解する。 ・ 皮膚の構造について理解する。 ・ 皮膚損傷の症状などについて理解する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 授業中に復習・予習範囲を指示する。 総合復習（まとめ）</p> <p>[到達目標] ・ 関節損傷について理解しているか確認する。 ・ 脱臼について理解しているか確認する。 ・ 軟部組織損傷について理解しているか確認する。</p> <p>[備 考] 前回の復習 + 確認テストを実施する。 試験に関する説明を行う。 評価（筆記試験）</p> <p>[評 価] 関節損傷、脱臼、軟部組織損傷に関する知識が的確に理解されているかどうか筆記試験にて評価する。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	授業前には前回の復習を行う。 わからない用語については、教科書などを参考にして調べ、ノートに記載するなどして理解しておくこと。 また、各授業終了前に確認テストを行うので、それを次回の授業までに復習しておくこと。 予習として教科書を熟読しておくこと。
教科書	1. 柔道整復学（理論編）改訂第5版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂（平成29年1月に第6版発行予定） 2. 柔道整復外傷学ハンドブック 総論 第2版 監修：平澤泰介 医道の日本社 ※ 授業には、上記の教科書2冊を必ず持参すること。
参考書	標準整形外科学第12版 監修：内田淳正 医学書院
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 出席および授業態度などの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情 報	担当教員名：川村 茂 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
大木琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	次年度から始まる整復学の各論に向けて外傷（ケガ）を理解する。 ・外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)が、どのような機序で発生するのか。 ・身体にどのような外力が加わるのか。を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション&怪我(外傷)とは 授業の概要について説明する。 怪我(外傷)とは何か。発生～治療について柔道整復師の業務範囲を理解する。</p> <p>第2回 外傷とは② 第1回を復習し、さらに外傷について理解を深める。</p> <p>第3回 脱臼とは 脱臼とは何か。 脱臼の発生機序を理解する。</p> <p>第4回 骨折とは 骨折とは何か。 骨折の発生機序を理解する。</p> <p>第5回 軟部組織損傷とは 軟部組織損傷とは何か。 軟部組織損傷の発生機序を理解する。</p> <p>第6回 外傷発生の具体例 実際の外傷名を挙げ具体的に外傷の発生機序について理解を深める。</p> <p>第7・8回 プレゼンテーション①・② 外傷の発生機序についてプレゼンテーションを行う。 自分自身の経験談を元に専門用語を用いて発表する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書の発生機序の所を熟読する。講義等で、わからない部分があれば質問して解決すること。
教科書	柔道整復学・理論編改訂第5版 監:全国柔道整復学校協会 編:全国柔道整復学校協会教科書委員会
参考書	ブルンストローム臨床運動学 原著第6版 原著:Peggy A. Houglum 他 統括監訳者:武田 功
成績評価	出席基準を満たした者について、プレゼンテーションを行い評価する。 それ以外に、出席や授業態度等も加味し、総合評価する。
担当教員の基本情報	研究室：8号館 4F講師室 オフィスアワー：講義終了後 1時間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
泉晶子、大木琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	柔道整復師の治療の中で、「触診」は特に重要な項目であり、どのような状況においても必ず行わなければならない。 本講義では、解剖学で学んだ骨・筋を体表から実際に触診する技術を学ぶ。 柔整師のための骨学・筋学で改めて骨・筋について学び、体表面上からそれらの指標を触診できるよう学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、触診の基礎 オリエンテーション、触診の基礎について理解する。</p> <p>第2回 上肢① 肩部の触診について理解する。</p> <p>第3回 上肢② 上腕部の触診について理解する。 前腕部の触診について理解する。</p> <p>第4回 上肢③ 手部の触診について理解する。</p> <p>第5回 上肢④ 上肢総復習</p> <p>第6回 まとめ①</p> <p>第7回 下肢① 骨盤部の触診について理解する。</p> <p>第8回 下肢② 大腿部の触診について理解する。 膝部の触診について理解する。</p> <p>第9回 下肢③ 下腿部の触診について理解する。</p> <p>第10回 下肢④ 足部の触診について理解する。</p> <p>第11回 体幹① 脊柱部(頸椎・胸椎・腰椎)の触診について理解する。</p> <p>第12回 体幹② 頸部・顔面部・頭部の触診について理解する。</p> <p>第13回 体表区分・生体計測 頸部三角・大腿三角など、動脈拍動部について理解する。 四肢長の計測について理解する。</p> <p>第14回 下肢・体幹 下肢・体幹総復習</p> <p>第15回 まとめ②</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1. 予習：触診を行う上で、皮下には何があるのかを把握しておくことが必要となる。そのために各授業範囲の、解剖学(骨、筋、神経等)を理解しておくこと。</p> <p>2. 復習：触診技術は、スポーツ競技と同様、少しの練習で向上できるものではない。そして体の形状や状態は、人によって様々である。 そのため、出来るだけ多くの人に対して繰り返して練習し、身体でそれらの技術を体得することが重要である。 わからない点があれば積極的に質問をし、解決すること。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学 第2版(社) 全国柔道整復学校協会監修
成績評価	出席基準を満たした者について試験を行う。 実技試験を2回に分けて行い、試験90%、授業態度10%を加味して最終評価とする。
担当教員の基本情報	<p>保健医療学部 臨床柔道整復学講座 泉晶子 e-mail:a_izumi@meiji-u.ac.jp</p> <p>保健医療学部 基礎柔道整復学講座 大木琢也 e-mail:t_ohgi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
泉 晶子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	柔道整復師において施術の基本となる包帯や固定材料に関する講義を行う。 包帯や固定材料の知識、固定における基本原則、目的などを理解する。
授業計画	<p>第1回 授業への導入と包帯法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師における、包帯・固定の重要性について <p>第1章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包帯学の定義(広義・狭義) ・包帯の種類(材料による分類、目的による分類) <p>上記について理解する。</p> <p>第2回 巻軸包帯について</p> <p>第1章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包帯材料のあり方 ・包帯材料(用いられている包帯材料) <p>第2章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻軸帯の種類 ・巻軸包帯実施上の通則 ・包帯の止め方の種類、注意 <p>上記について理解する。</p> <p>第3回 包帯の合併症、包帯交換について</p> <p>第2章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻軸包帯の基本 <p>第3章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包帯の合併症 ・包帯交換を必要とするとき ・包帯交換時の注意 ・包帯交換の方法 <p>上記について理解する。</p> <p>第4回 固定学、特殊包帯法について</p> <p>第4章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定学の定義 <p>第5章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊包帯法(デゾー包帯) <p>上記について理解する。</p> <p>第5回 特殊包帯法について①</p> <p>第5章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デゾー包帯 ・ウェルボー、ジュール包帯 ・副子固定 <p>上記について理解する。</p> <p>第6回 特殊包帯法について②</p> <p>第5章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属副子 ・合成樹脂副子 <p>上記について理解する。</p> <p>第7回 特殊包帯法について③</p> <p>第5章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギプス固定 <p>上記について理解する。</p> <p>第8回 総復習 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業計画を参考に、内容の予習を行うのが望ましい。 最低限、授業中にその日の内容は理解し、授業後の復習を中心とした学習を行うこと。
教科書	授業時に講義用ノートを配布する。

参考書	包帯・固定学 柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編・実技編 柔道整復学校協会監修
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。 評価は、出席状況・授業態度を20%、筆記試験を80%とし、総合評価する。
担当教員の基本情報	保健医療学部 臨床柔道整復学講座 泉晶子 オフィスアワー：授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
泉晶子、赤澤淳、大木琢也、濱口夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	包帯・固定学で得た知識を踏まえながら、柔道整復施術の基本となる巻軸包帯法、三角巾などの技術を中心に学習し、理解を深める。
授業計画	<p>第1回 巻軸包帯の基本法 巻軸包帯の基本 ・軸づくり ・環行帯、螺旋帯、折転帯、蛇行帯、8字帯の巻き方</p> <p>第2回 巻軸包帯法実習①前腕部の被覆包帯：折転帯 巻軸包帯の基本(復習) 前腕部の被覆包帯である折転帯を理解する。</p> <p>第3回 巻軸包帯法実習②手首の被覆包帯：麦穂帯 手首の被覆包帯である麦穂帯(上行・下行)を理解する。</p> <p>第4回 巻軸包帯法実習③肘の被覆包帯：亀甲帯 肘の被覆包帯である亀甲帯(離開・集合)を理解する。</p> <p>第5回 巻軸包帯法実習④肩の被覆包帯：上行麦穂帯 肩の被覆包帯である上行麦穂帯を理解する。</p> <p>第6回 巻軸包帯法実習⑤肩の被覆包帯：下行麦穂帯 肩の被覆包帯である下行麦穂帯を理解する。</p> <p>第7回 復習 第1回～第6回まで学んだ内容を復習する。</p> <p>第8回 巻軸包帯法実習⑥指の包帯：隻指帯・全指帯 指の包帯から隻指帯・全指帯を理解する。</p> <p>第9回 巻軸包帯法実習⑦指の包帯：指頭包か帯・総指包か帯 指の包帯から指頭包か帯・総指包か帯を理解する。</p> <p>第10回 提肘三角巾① 提肘三角筋を理解する。</p> <p>第11回 提肘三角巾② 提肘三角筋を理解する。</p> <p>第12回 厚紙副子固定(手関節捻挫) 厚紙を用いて、手関節捻挫を想定した副子を作成する。</p> <p>第13回 復習 第8回～第12回まで学んだ内容を復習する。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業後に復習を行う。 包帯は授業で学んだ手法を反復し行い、週に4時間程度の練習が必要。
教科書	授業時に講義用ノートを配布する。
参考書	包帯・固定学 柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編・実技編 柔道整復学校協会監修
成績評価	出席基準を満たした者について、授業時間中に実技チェックを行い評価する。 出席状況(10%程度)、実習態度(10%程度)等も加味し総合評価する。 授業中はKCの着用を原則とし、着用していない場合は実習態度で減点対象とする。
担当教員の基本情報	保健医療学部 臨床柔道整復学講座 泉晶子 保健医療学部 基礎柔道整復学講座 赤澤淳 保健医療学部 基礎柔道整復学講座 大木琢也 保健医療学部 スポーツ科学講座 濱口夏花 オフィスアワー：授業終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
泉晶子、赤澤淳、大木琢也、濱口夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	固定学実習は、包帯固定学で得た知識を踏まえながら、柔道整復施術の基本となる下肢の基本包帯法、固定具などに関する技術を中心に学習し、理解を深める。
授業計画	<p>第1講義 基本包帯法1（下腿の被覆包帯：折転帯） 下腿部の被覆包帯法を学ぶ。</p> <p>第2講義 基本包帯法2（膝の被覆包帯：亀甲帯） 膝関節における被覆包帯法を学ぶ</p> <p>第3講義 基本包帯法3（足関節の被覆包帯：鍔帯） 足背部における被覆包帯法を学ぶ。</p> <p>第4講義 基本包帯法4（足関節の被覆包帯：麦穂帯） 足関節における包帯法（上行麦穂帯）を学ぶ。</p> <p>第5講義 基本包帯法5（足関節の被覆包帯：麦穂帯） 足関節における包帯法（下行麦穂帯）を学ぶ。</p> <p>第1講義 基本包帯法6（踵の被覆包帯：亀甲帯・三節帯） 足関節における包帯法（亀甲帯・三節帯）を学ぶ。</p> <p>第6講義 基本包帯法7（足趾の被覆包帯：総趾包か帯） 足趾における被覆包帯法（総趾包か帯）を学ぶ。</p> <p>第7講義 復習 第1講義～6講義で学んだ包帯を復習する。</p> <p>第8講義 厚紙副子固定 厚紙を用いた副子材料の作成方法を学ぶ。</p> <p>第9講義 クラメル副子固定1 はしご状副子（クラメル副子）の作成方法を学ぶ。</p> <p>第10講義 クラメル副子固定2 作成したクラメル副子の装着および、クラメル副子を用いた包帯固定法を学ぶ。</p> <p>第11講義 熱可塑性樹脂材（プライトン）を用いた副子固定 熱可塑性樹脂材（プライトン）を用いた副子の作成および、プライトン副子の包帯固定法を学ぶ。</p> <p>第12講義 ギプス固定1 石膏ギプスによる副子の作成方法について学ぶ。</p> <p>第13講義 ギプス固定2 石膏ギプスを用いた患部の固定法を学ぶ。</p> <p>第14講義 復習 本授業で行った内容について復習し、包帯技術のポイントを理解する。</p> <p>第15講義 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	基本的には授業後の復習を行う。 包帯は授業で学んだ手法を反復し行い、毎日30分程度の練習があれば技術習得は可能である。
教科書	授業時に講義用ノートを配布する。
参考書	1. 包帯・固定学 柔道整復学校協会監修 2. 柔道整復理論（実技編）柔道整復学校協会監修
成績評価	出席基準を満たした者について、授業期間中に実技チェックを行い評価する。 出席状況（10%程度）、実習態度（10%程度）等も加味し総合評価する。 授業中はKCの着用を原則とし、着用していない場合は実習態度で減点対象とする。
担当教員の基本情報	研究室：8号館4F 講師室 オフィスアワー：授業終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	1. ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、自己の健康管理に生かせる知識を学ぶ。 2. 生活習慣病予防と改善のための健康運動の基礎と楽しさを理解し、体力測定方法を学ぶ。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、心肺機能の向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践と体力測定を学ぶ。</p> <p>2回目 ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外ウォーキング1 フォーム・スピード (コースA) ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 ウォーキング2 屋外ウォーキング2 (コースB) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>4回目 ウォーキング3 屋外ウォーキング3 (コースC) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>5回目 体力測定 体力測定の方法 体力測定を通して、その実施方法を理解する。</p> <p>6回目 体力測定 体力測定の結果と評価 体力測定結果を用いて評価法を理解する。</p> <p>7回目 陸上競技(競歩) 屋内で100mウォーキングタイム測定1 ウォーキングタイム測定により、自己の歩行スピードを理解する。</p> <p>8回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定1 立幅跳び測定により、自己の脚筋力・瞬発力を理解する。</p> <p>9回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定1 室内メディシィンボール砲丸投げ測定により、自己の投擲力・筋力を理解する。</p> <p>10回目 陸上競技(ハードル) ミニ・ハードル 巧緻性向上のためのミニ・ハードル走から、自己の歩行・ジョギングスピードを上げる。</p> <p>11回目 陸上競技(競歩) 屋外陸上競技場で100mウォーキングタイム測定2 歩行スピードの向上が生活習慣病予防・健康づくり運動の指標となることを理解する。</p> <p>12回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定2 脚筋力・瞬発力向上が生活習慣病予防・健康づくり運動の指標となることを理解する。</p> <p>13回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ計測2 全身筋力・投擲力向上が生活習慣病予防・健康づくり運動の指標となることを理解する。</p> <p>14回目 トレーニングルーム 利用方法 各種トレーニング機器を使用して、自己の健康・体力づくりを理解する。</p> <p>15回目 まとめ 総括 陸上競技を通して「走る・跳ぶ・投げる」の3要素の重要性を理解し、健康運動の必要性を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席 (75%以上) を中心にし、授業態度及び服装などを加味して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【体力と生涯スポーツ】 授業の前半は、自身の体力がどの程度の体力水準を保持しているのか測定を行い、全国平均値と比較検討を行い、その結果を踏まえて積極的な体力づくりや健康管理のあり方、運動処方能力の修得などを学習します。その後、心拍数を用いた運動の強度設定の方法等を学習し、実際に「ウォーキング」「ジョギング」を用いて実践します。 また、球技種目を中心に様々なスポーツの楽しさを体験することにより生涯スポーツの重要性を理解させます。</p> <p>【水泳・水中運動】 後半は、健康運動実践指導者の資格取得を主目的とし、水の特性を利用した水中ウォーキング、水中でのレジスタンス運動をプールにて実践させます。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習 I のねらいと評価の方法や履修にあたっての諸注意を説明し理解させる。 体力について(1) 体力の概念と分類等について学習し、その後「新体力テスト実施項目」について実施方法等を学習・修得する。 ウォーキング・ジョギングについて (1) 基本的なフォームと安全上の注意ならびに運動効果とエネルギー消費量のプログラムに沿った強度設定（心拍数を用いて）のやり方を学習・修得する。（運動強度と消費エネルギー（METS）も含む） レクリエーションスポーツについて レクリエーション種目を中心に様々なスポーツの基本技術の習得をめざす。 運動・スポーツの楽しさを体験することにより生涯スポーツの重要性を理解する。</p> <p>2 体力について (2) 身長、体重、座高、反復横跳び、長座体前屈、握力、立ち幅跳び、上体起し、シャトルランの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>3 体力について (3) 50M走、ハンドボール投げの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>4 ウォーキング・ジョギング (2) ウォーキングの運動効果とエネルギー消費量のプログラムに沿った強度設定（心拍数を用いて）の体験学習を行ないます。</p> <p>5 グラウンドゴルフ グリップと構え、基本ストローク動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、併せて簡易ラウンドゲームを行わせる。</p> <p>6 ソフトバレーボール／バドミントン 基本動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、その後簡易ゲームを行わせる。</p> <p>7 インディアカ／バスケットボール 基本動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、その後簡易ゲームを行わせる。</p> <p>8 水中運動 (1) 水の特性 浮力・水圧・抵抗について理解する</p> <p>9 水中運動 (2) 様々な泳法について 基本的な泳ぎを習得する</p> <p>10 水中運動 (3) 心拍の測定と目標値について 心拍数の正しい測定法を習得する</p> <p>11 水中運動 (4) キューイング法 目、言葉、動作によるキューイング法について習得する</p> <p>12 水中運動 (5) 水中ウォーキング・水中レジスタンス運動 1 水中での様々な動きを習得する</p> <p>13 水中運動 (6) 水中ウォーキング・水中レジスタンス運動 2 水中運動の指導法を習得する</p> <p>14 水中運動 (7) 水中・水泳運動のまとめ 1 運動プログラムを作成し、指導実習を行う</p> <p>15 水中運動 (8) 水中・水泳運動のまとめ 2 運動プログラムを作成し、指導実習を行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分行うこと。

教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度40%、授業への貢献度20%、実技評価40%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 西尾庄平 研究室 : 本館2階 メールアドレス : s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メールでも受け付ける。</p> <p>担当教員名 : 中才幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療総論 [到達目標] 統合医療の定義、現状、がんと統合医療を理解し、そのあり方を考える。</p> <p>[備考] 統合医療（テキスト）p. 1、p.103-133</p> <p>2回目 補完・代替医療1 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>3回目 補完・代替医療2 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>4回目 補完・代替医療3 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー1 [到達目標] メディカル・アロマセラピーの定義、エッセンシャルオイル、方法、対象疾患・症状とそのレシピなどを理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（参考書3）</p> <p>6回目 日本伝統医学としての漢方1 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>7回目 日本伝統医学としての漢方2 [到達目標] 生薬と漢方方剤を理解する。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎</p> <p>研究室 : 附属統合医療センター</p> <p>メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com</p>

	オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	投の形を通して、崩し・作り・掛けの投技の理論や受け方を身に付ける。 また、立技、固技を学習し、乱取（実践練習）を通して柔道の楽しさを実感しながら身体精神を鍛錬する。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 1) 投の形の目的が理解できる。 2) すり足ができる。 3) 継ぎ足ができる。</p> <p>2回目 投の形Ⅰ・投技・固技の対人的機能Ⅰ 1) 浮落（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ抑込技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>3回目 投の形Ⅰ・投技・固技の対人的機能Ⅰ 1) 背負投（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ絞技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>4回目 投の形Ⅰ・投技・固技の対人的機能Ⅰ 1) 肩車（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ関節技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>5回目 投の形Ⅱ・投技・固技の対人的機能Ⅱ 1) 浮腰（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>6回目 投の形Ⅱ・投技・固技の対人的機能Ⅱ 1) 払腰（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>7回目 投の形Ⅱ・投技・固技の対人的機能Ⅱ 1) 釣込腰（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。</p> <p>8回目 投の形Ⅲ・投技・固技の対人的機能Ⅲ 1) 送足払（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>9回目 投の形Ⅲ・投技・固技の対人的機能Ⅲ 1) 支釣込足（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>10回目 投の形Ⅲ・投技・固技の対人的機能Ⅲ 1) 内股（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>11回目 投の形Ⅳ・投技・固技の対人的機能Ⅳ 1) 手技（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>12回目 投の形Ⅳ・投技・固技の対人的機能Ⅳ 1) 腰技（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>13回目 投の形Ⅳ・投技・固技の対人的機能Ⅳ 1) 足技（投の形）ができる。 2) 相手の動きに合わせ固技ができる。 3) 立技の乱取ができる。</p> <p>14回目 まとめ① 1) 投の形ができる。 2) 受け身ができる。</p> <p>15回目 まとめ②</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	柔道場で準備学習を希望する者は吉田まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。

教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著 (史資料出版協会) 2) 柔道の形 入門[投の形][柔の形] 小俣幸嗣 著 (大泉書店) 3) 投の形 財団法人 講道館 (亀井印刷)
成績評価	平常点20% (出席状況・授業態度など) と実技試験80%によって評価を行います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>人体構造学で扱う分野は分類上系統解剖学に属し、人体をその構造や機能を基にいくつかの器官系に分けて形態的に理解しようというものである。内容的には肉眼解剖学から顕微解剖学（組織細胞学）さらには発生学の分野が含まれる。人体構造学では、人体を器官系に分けて逐次解説し、得られた知識を基に分解された人体を、自ら再び一個の人体として再構築する能力を養いその構造を理解してもらうことを目的とする。</p> <p>本教科では、内臓系に属する諸器官の構造と機能について、循環器系、消化器系、泌尿器系の順に講義する。諸内臓諸器官、組織の位置、形態、機能を十分理解することが必要となるが、とりわけ循環器に関しては全身の血管の名称と走行を各論として解説する。</p>
授業計画	<p>1回目1限目 循環器系概論 1 [到達目標] 循環器系の概要、血管の種類、構造について説明できる。 [備考] 循環器系の器官構成と血管の種類、構造。動脈と静脈の基礎。</p> <p>1回目2限目 循環器系概論 2 [到達目標] 心臓の構造と組織について説明できる。 [備考] 心臓の構造と組織。弁、冠状動脈、神経支配など。</p> <p>2回目1限目 循環器系概論 3 [到達目標] リンパとリンパ系臓器 について説明できる。 [備考] リンパとリンパ節、胸腺、脾臓について。リンパ球を含む血球成分について。</p> <p>2回目2限目 循環器系各論 1 [到達目標] 全身の血管系の概要について説明できる。 [備考] 全身の血管系、その名称と走行。</p> <p>3回目1限目 循環器系各論 2 [到達目標] 体幹部の血管について説明できる。 [備考] 胸腹部の動脈各論。胸大動脈、腹大動脈の枝。内臓諸器官への動脈の走行。</p> <p>3回目2限目 循環器系各論 3 [到達目標] 腹部の静脈について説明できる。 [備考] 腹部の静脈各論。内臓諸器官からの静脈、門脈系などの走行。</p> <p>4回目1限目 循環器系各論 4 [到達目標] 頭・頸部の動静脈について説明できる。 [備考] 頭・頸部の動静脈各論。脳を栄養する血管と脳内の静脈。頸部への連絡と大動脈・大静脈との連絡について。</p> <p>4回目2限目 循環器系各論 5 [到達目標] 上肢帯・上肢について説明できる。 [備考] 上肢帯・上肢の動静脈各論。腋窩から指先までの動静脈の名称と走行。</p> <p>5回目1限目 循環器系各論 6 [到達目標] 下肢帯・下肢について説明できる。 [備考] 下肢帯・下肢の動静脈各論。鼠径部から大腿、下腿、足の動静脈の名称と走行。</p> <p>5回目2限目 循環器系各論 7 [到達目標] 胎児循環について説明できる。 [備考] 胎児循環の特殊性、臍動静脈、静脈管、卵円窩、動脈管など。 ※血管の走行重要ポイントまとめ。</p> <p>6回目1限目 呼吸器 1 [到達目標] 呼吸器の概要、胸腔・縦郭の構造と分布する諸器官、鼻腔・副鼻腔について説明できる。 [備考] 呼吸器の概要、胸腔・縦郭。胸膜。鼻腔と副鼻腔の構造。</p> <p>6回目2限目 呼吸器 2 [到達目標] 咽頭・喉頭について説明できる。 [備考] 咽頭・喉頭・声帯・気管。発声の神経支配。</p> <p>7回目1限目 呼吸器 3 [到達目標] 気管支と肺、肺組織について説明できる。 [備考] 気管支と肺、肺の構造と組織。胸腔と胸膜の関係。呼吸器系の組織と肺胞。</p> <p>7回目2限目 呼吸器 4 [到達目標] 呼吸上皮とガス交換 について説明できる。 [備考] 呼吸上皮とガス交換ガス交換。呼吸運動と呼吸筋群、横隔膜。</p> <p>8回目1限目 前半総括 1 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を総括講義 1（循環器系・呼吸器系）</p> <p>8回目2限目 前半総括 2 [到達目標] 前半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 7回目までの内容を総括講義 2（循環器系・呼吸器系）</p> <p>9回目1限目 消化器系 1 [到達目標] 消化器系概要について説明できる。 [備考] 消化器系概論。消化器全般とその連絡。腹腔と消化器の配置。</p>

9回目2限目	<p>消化器系 2</p> <p>[到達目標] 口腔と歯・舌・大唾液腺について説明できる。 [備考] 口腔と歯・舌・大唾液腺の構成、分布、組織。咀嚼と嚥下の機構。</p>
10回目1限目	<p>消化器系 3</p> <p>[到達目標] 腹部内蔵概要と食道、胃の構造と機能について説明できる。 [備考] 腹部内蔵概論。腹膜・横隔膜。食道と胃の組織構成。</p>
10回目2限目	<p>消化器系 4</p> <p>[到達目標] 胸・腹部臓器の配置について説明できる。 [備考] 胸腹部内蔵（呼吸器・消化器系を含む）の配置詳細。高さ、胸・腹膜との関係。隣接する臓器など。</p>
11回目1限目	<p>消化器系 5</p> <p>[到達目標] 小腸・大腸の構造と機能について説明できる。 [備考] 小腸・大腸 腸管の組織構成。吸収の機構。その神経支配など。</p>
11回目2限目	<p>消化器系 6</p> <p>[到達目標] 直腸・肛門の構造と機能について説明できる。 [備考] 直腸・肛門の構造と機能。排便運動と神経支配。</p>
12回目1限目	<p>消化器系 7</p> <p>[到達目標] 肝臓と胆嚢について説明できる。 [備考] 肝臓と胆嚢の構造。肝臓内の組織と肝細胞機能。管三つ組みと血液循環（門脈）、胆汁路との関係。</p>
12回目2限目	<p>消化器系 8</p> <p>[到達目標] 膵臓の構造と機能について説明できる。 [備考] 膵臓の組織と機能。消化酵素（外分泌系）とホルモン（内分泌系）の分布、その細胞の種類と機能。膵液による消化機構。</p>
13回目1限目	<p>泌尿器系 1 泌尿器系概論</p> <p>[到達目標] 腎臓と腎組織の構造と機能について説明できる。 [備考] 腎臓の配置。腎臓と腎組織。ネフロン（腎小体）の微細構造と濾過機構。</p>
13回目2限目	<p>泌尿器系 2</p> <p>[到達目標] 尿生成と再吸収について説明できる。 [備考] 尿生成と再吸収の解剖的基礎。尿細管における再吸収。ヘンレのループ。尿生成と体液性分の調節分子機構。</p>
14回目1限目	<p>泌尿器系 3</p> <p>[到達目標] 膀胱と尿道の構造と機能について説明できる。 [備考] 膀胱と尿道の位置と組織構成。</p>
14回目2限目	<p>泌尿器系 4</p> <p>[到達目標] 排尿の機構について説明できる。 [備考] 排尿と神経支配。 ※骨盤内蔵の配置についてまとめ。</p>
15回目1限目	<p>後半総括 1</p> <p>[到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 1 4 回目までの内容を包括講義 1（消化器系・泌尿器系）</p>
15回目2限目	<p>後半総括 2</p> <p>[到達目標] 後半の講義内容全般について説明できる。 [備考] 1 4 回目までの内容を包括講義 2（消化器系・泌尿器系）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に次回授業範囲を上記参考書で下調べを行い、講義中には必要箇所を速やかにメモし、ノートを作成することが重要となる。また授業後にはノート、配布プリントを見直し、不備な箇所を参考書あるいはテキスト等を参考に訂正あるいは補充しておくように努めて欲しい。憶えなくてはならない医学用語がたくさんあるので、試験前の駆け込み勉強では到底カバーできないので、その日の講義内容についてはその日のうちに復習することを積み上げていくことにより目標に達することができる。</p>
教科書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店 7800円（+税） F.H. マティーニ M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。（ただし全てではない）</p> <p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 7800円（+税） 岸 清・石塚 寛 編 ※講義で主に使うものではないが国家試験対策に必要。</p>
参考書	なし
成績評価	<p>中間試験（前半部）及び期末試験（後半部）の2度に分けて試験を行い、両方ともに60%以上の点数の場合のみ合格とする。（片方だけでも満たさない場合は不合格） その試験は講義の出席が全体の2/3を満たすもののみ受験資格がある。 評価は2回の試験と出席を総合的に判断して判定する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehiose@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 水、金曜日放課後 担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>講義で学んだ内容を、骨実習および組織学実習を通して、自ら手で触れあるいは顕微鏡的に観察することによって体験的に知識を深め、より確実なものとして定着させる。</p> <p>(1) 骨学実習では本で学んだ骨の名称、部分名の他に、他の骨との連結を手にとって組み立てることにより理解する。</p> <p>(2) 肉眼解剖実習では脳の外観と内部の構造、さらには血管の走行などを多元的に理解する。</p> <p>(3) 組織学では、プレパラードで神経組織、筋組織（横紋筋、平滑筋、心筋）、骨組織、軟骨組織について観察、スケッチする。</p>
授業計画	<p>第1回目 インTRODクシヨンと諸注意 [到達目標] 骨模型の観察、連結、実習手引きによる組み立てができる。 [備考] 全体のINTROクシヨンと諸注意を行なう。 座学ではない模型を人体の構造にそってきちんと組み立てることからスタートする。 また2回目以降の実習試験のデモンストレーションを行なう。</p> <p>第2回目 骨学1 体幹（椎骨、上肢帯：鎖骨と肩甲骨、胸骨、肋骨） [到達目標] 椎骨・上肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明できる。 [備考] 椎骨・上肢帯の名称と特徴、骨各部の名称等。各骨間の関節の名称と特徴および運動様式。肋骨、胸骨の特徴および胸郭。 骨学試験（1）</p> <p>第3回目 骨学2 上肢（自由上肢：上腕骨から手の骨まで） [到達目標] 自由上肢の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明できる。 [備考] 自由上肢と体幹との連結、運動様式等。 骨学試験（2）</p> <p>第4回目 骨学3 下肢（下肢帯：寛骨、大腿骨から足の骨まで） [到達目標] 下肢・下肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明できる。 [備考] 下肢帯の名称と特徴、骨各部の名称。下肢骨間の関節の名称と特徴および運動様式。 骨学試験（3）</p> <p>第5回目 骨学4 頭部A（頭蓋骨内外面：外頭蓋底、内頭蓋底） 骨学5 頭部B（頭蓋骨の孔、裂孔そこを通るもの） [到達目標] 頭蓋を構成する骨について説明できる。 [備考] 骨連結、関節、縫合などを中心とする。 骨学リトリアル試験（1）（2）（3）</p> <p>第6回目 骨学5 頭部B（頭蓋骨の孔、裂孔そこを通るもの） [到達目標] 頭蓋骨に開く孔、裂孔などを説明できる。 [備考] 孔、裂孔を通るもの（神経・血管）や付着する筋肉、靭帯などを含む。 骨学試験（4）</p> <p>第7回目 組織解剖1 顕微鏡の使い方とプレパラート [到達目標] 顕微鏡の各部分とその調整について説明できる。 [備考] 顕微鏡の各部の正しい使用法とプレパラート観察。スケッチ法。</p> <p>第8回目 組織解剖2 上皮組織（上皮組織と皮膚） [到達目標] 上皮組織、外皮組織とその付属器について説明できる。 [備考] 一般的な各種上皮の違いと外皮については付属器（特に受容器）の構造と分布を理解する。</p> <p>第9回目 組織解剖3 筋組織A（骨格筋） [到達目標] 横紋筋組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 喉頭の組織構成（喉頭軟骨、喉頭筋）。骨格筋（横断、縦断）。</p> <p>第10回目 組織解剖4 筋組織B（平滑筋・心筋） [到達目標] 横紋筋以外の筋組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] その他の筋群、平滑筋、心筋の違いを再確認しておく。</p> <p>第11回目 組織解剖5 神経組織 [到達目標] 大脳と脊髄の神経組織の細胞群を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 脳・脊髄の組織構造。神経細胞と神経膠細胞の特徴。</p> <p>第12回目 組織解剖6 軟骨・骨組織（硝子軟骨、弾性軟骨） [到達目標] 軟骨組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 各種軟骨組織を観察し、その違いが認識できる。</p> <p>第13回目 組織解剖7 軟骨・骨組織（線維軟骨、石灰化骨） [到達目標] 骨・軟骨組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 石灰化骨（研磨標本）と脱灰標本で骨層板と骨小腔、骨細管を観察。線維軟骨組織を観察し、その違いが認識できる。</p> <p>第14回目 肉眼解剖1 脳の外観と血管 [到達目標] 脳の外観と連絡する血管など。 [備考] 脳の外観（溝、回）と走行する血管、硬膜などの分布について理解する。</p> <p>第15回目 肉眼解剖2 頭部の断面 [到達目標] 脳の断面の各部を説明できる。 [備考] 脳の領域、核などの他に、脳を包む膜や頭蓋骨との位置関係、脳室なども範囲に含む。 水平断模型やMRI画像を用いる。</p>

<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>配布するテキストを基に、骨学実習では骨の形、部位名だけでなく、その部位にはどのような筋が起始あるいは停止するのか、孔・溝にはどのようなものが通るのか等も調べておく。 肉眼解剖では模型の重要箇所について自分達で調べる。 また組織学実習では、テキストの各項目に掲げた課題を中心に各構造物の特徴、機能等説明できるようにしておく。</p> <p>骨の外観から内部構造、通るものや、組織構成は運動器系・神経系・内臓系人体構造学における基礎知識を一度、復習して総括しておけば、実習のよい予習となる。</p>
<p>教科書</p>	<p>骨学実習、肉眼解剖実習、組織学実習共にテキストを配布</p>
<p>参考書</p>	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店 7800円 (+税) F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。(ただし全てではない)</p> <p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 7800円 (+税) 岸 清・石塚 寛 編 ※講義で主に使うものではないが国家試験対策に必要。 講義で使用したものを実習にも用いるので持ってくるように。</p>
<p>成績評価</p>	<p>骨学実習、肉眼解剖実習に於いては実習中および実習後のミニ試験によって評価し、組織学実習については各実習項目におけるスケッチによって評価する。 骨学試験は、どれか1つでも不合格の場合は単位はない。 またはスケッチ再提出とする。それでも不合格の者は他日に補習をすることになる。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehiose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後</p>
<p>備考</p>	<p>必修実習のため基本的に欠席は認めない。 理由なく欠席した者、諸手続き(病欠の場合には診断書等)を行わずに欠席したものは、以後の出席を認めず、履修取り消しとなり、単位は与えられない。 また理由のある者については事前に廣瀬まで申し出て補習等の時間を確保すること。</p>
	<p>グループごとに分かれて実習を行うが、自由時間ではない。 大声で騒ぐもの、スマホで遊ぶものは即座に退場を命ずることになる。その場合、履修取り消しとなる。</p>
	<p>本実習は解剖学実習であるので、実習中には高い倫理規範を要求される。従って、機器、サンプル、模型等を乱暴に扱ったり、それを以て遊具に模す、あるいは放置して帰宅する、携帯電話を操作するなどの行いがあった者はその場で履修取り消しとなるので、真剣に取り組むこと。</p>
	<p>白衣を購入し、必ず着用すること。 白衣を忘れることは実習準備不十分として大減点、または履修取り消しとする。(ロッカーに置いておくことを薦める)</p> <p>また組織実習スケッチ用に12色程度の色鉛筆を用意しておくこと。(赤、橙、ピンク、紫、青、黒、茶、などは必須)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
中山 登稔			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生体機能を維持するための動物性機能、すなわち中枢神経系の高次機能、感覚の一般的性質、視覚、聴覚、前庭感覚、嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚について学習する。ヒトとしての自分を知り、柔道整復師としての基礎的知識の獲得を目標とする。
授業計画	<p>第1回 感覚系の構成と機能－前庭感覚について 到達目標：平衡感覚系、前庭器官の構造（半規管、耳石器、有毛細胞）、電気活動、伝導路について説明できる。 備考：教科書のpp. 77-79を予習する。</p> <p>第2回 感覚系の構成と機能－嗅覚と味覚について 嗅覚（嗅覚系の構造、においにおい物質、におい分子の受容体、嗅覚の伝導路と中枢）、味覚（味覚系の構造、味覚物質、味覚の伝導路）について説明できる。 教科書のpp. 80-82を予習する。</p> <p>第3回 感覚系の構成と機能－体性感覚Ⅰについて 皮膚感覚（触・圧覚、温覚と冷覚、痛覚－侵害受容性疼痛、痛覚受容体、心因性疼痛）について説明できる。 教科書のpp. 83-85を予習する。</p> <p>第4回 感覚系の構成と機能－体性感覚Ⅱについて 深部感覚（運動感、深部痛覚）、体性感覚の伝導路（触・圧覚と深部感覚、腹外側脊髄視床路、顔面の皮膚感覚）、新皮質体性感覚野、内臓感覚（内臓痛覚、関連痛と放散痛）について説明できる。 教科書のpp. 86-89を予習する。</p> <p>第5回 自律神経と内臓機能Ⅰについて 交感神経系と副交感神経系、化学伝達物質（コリン作動性線維とアドレナリン作動性線維、アセチルコリンとアドレナリンの生合成、受容体）について説明できる。 教科書のpp. 91-93を予習する。</p> <p>第6回 自律神経と内臓機能Ⅱについて 効果器支配の様式、自律神経遠心性線維の分布と作用、いろいろな内臓反射と中枢（内臓－内臓反射、体性－内臓反射、内臓－体性反射）について説明できる。 教科書のpp. 94-97を予習する。</p> <p>第7回 体性神経系と運動機能Ⅰについて 運動機能概説、姿勢の定義、骨格筋の感覚器（筋紡錘、ゴルジ腱器官）、いろいろな体性反射と中枢について説明できる。 教科書のpp. 99-104を予習する。</p> <p>第8回 体性神経系と運動機能Ⅱについて 脊髄の運動機能（脊髄反射－伸張反射、屈曲反射、腱器官の反射活動）、反射の協調、臨床診断上有用な反射（腱反射、皮膚反射、病的反射）、脊髄の損傷（脊髄ショック、ブラウン－セカール症候群）について説明できる。 教科書のpp. 105-107を予習する。</p> <p>第9回 体性神経系と運動機能Ⅲについて 脳幹の運動機能（除脳固縮、脳幹における体性運動反射－頸反射・前庭迷路反射・前庭－眼反射・立ち直り反射）、小脳の運動機能（小脳の構造）について説明できる。 教科書のpp. 108-111を予習する。</p> <p>第10回 体性神経系と運動機能Ⅳについて 小脳の運動機能（小脳による随意運動の協調と姿勢の保持、小脳の運動学習機能、小脳の障害による運動失調）。大脳基底核の運動機能（大脳基底核の運動機能、大脳基底核の機能、大脳基底核の障害による運動失調（筋緊張の亢進と運動減少を特徴とする症候群、筋緊張の減少と運動亢進を特徴とする症候群）について説明できる。 教科書のpp. 112-115を予習する。</p> <p>第11回 体性神経系と運動機能Ⅴについて 新皮質運動野の運動機能（新皮質運動野の構造、新皮質運動野の機能区分、新皮質運動野による運動機能の調節（随意運動における新皮質運動野の役割、熟練運動における新皮質運動野の役割、姿勢保持における新皮質運動野の役割、皮質脊髄路切断の効果） 教科書のpp. 115-119を予習する。</p> <p>第12回 中枢神経系の高次機能Ⅰについて 大脳皮質、視床、脳幹の一般構造（大脳皮質、視床、脳幹－脳幹網様体・種々の神経伝達物質起始核）、大脳皮質の活動レベル、覚醒と睡眠（脳波－正常脳波・異常脳波）、ノンレム睡眠とレム睡眠、睡眠中の生理機能、睡眠のリズム、睡眠中枢と睡眠物質）、睡眠の誘発のメカニズムについて説明できる。 教科書のpp. 121-128を予習する。</p> <p>第13回 中枢神経系の高次機能Ⅱについて 新皮質の構造と神経連絡（層構造と神経細胞の種類、皮質分野、新皮質の機能分化、新皮質の神経連絡）、新皮質連合野の統合機能（後連合野から前連合野への情報流れ、学習記憶（記銘・保持・想起、保持時間による記憶の種類、長期記憶の分類、記憶障害、陳述記憶の回路、陳述記憶のもう一つ回路）について説明できる。 教科書のpp. 129-133を予習する。</p>

	<p>第14回 中枢神経系の高次機能Ⅲについて アルツハイマー型認知症、言語、辺縁系と視床下部の機能（辺縁系の構造、視床下部の構造、辺縁系-視床下部の機能、生物時計機能（内因性リズム、リズム同調）、食欲と摂食行動（満腹中枢と空腹中枢、新しい摂食行動調節機序、末梢からの影響、性欲と性行動、恐れと怒り、逃避行動と攻撃行動について説明できる。 教科書のpp. 133-138を予習する。</p> <p>第15回 期末試験 第1回から第14回の講義内容に関する問題を解くことができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 受講前に教科書を予習する。 2. 受講後に教科書を熟読・理解し、覚える。 3. 教科書にない図表のプリントを配布しますので、内容について事前に調べる。</p>
教科書	シンプル生理学、改定第7版、貴邑富久子、根来英雄著、南江堂
参考書	生理学テキスト、第7版、大地陸男著、文光堂 標準生理学、第7版、小澤濤司、福田康一郎 総編集、医学書院 Clinical生体機能学、第1版、當瀬規嗣、南江堂 やさしい生理学、改訂第6版、彼末一之、能勢博 編集、南江堂
成績評価	期末試験100%（追再試験を行う）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中山登稔 研究室 : 本館2階 中山教授室 メールアドレス : t_nakayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00～18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：生体機能は大きく生命維持に必要な植物性機能と、骨格筋や神経系に代表される動物性機能に分類され、この授業では正常な状態での植物性機能を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液やリンパ液を生体の隅々まで運ぶ仕組み、酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、体液の恒常性維持に必要な腎機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 分子生理と細胞生理(1) 到達目標：生体分子、細胞膜、細胞小器官の機能について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 分子生理と細胞生理(2) 到達目標：体液、物質移動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 血液(1) 到達目標：血球、血漿の機能について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 血液(2) 到達目標：免疫機能、血液凝固、血液型について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 循環(1) 到達目標：心臓の自動能、心筋の特徴、心周期について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 循環(2) 到達目標：心拍出量、心音、心電図について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 循環(3) 到達目標：血管系、血圧、リンパ系について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 循環(4) 到達目標：循環調節、特殊循環系について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 呼吸(1) 到達目標：換気の仕組み、肺容量について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 呼吸(2) 到達目標：ガス交換、呼吸調節について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 腎臓と体液(1) 到達目標：糸球体濾過、クリアランスについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 腎臓と体液(2) 到達目標：再吸収、分泌、排尿について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 腎臓と体液(3) 到達目標：体液調節、酸塩基平衡について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 まとめ1 到達目標：この科目での学習範囲について理解した上で、植物性機能を説明できる。</p> <p>第15回 まとめ2 到達目標：この科目での学習範囲について理解し、その知識を応用して、植物性機能を説明できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	該当分野に関して、教科書を熟読し、その上で配布プリントにて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。
教科書	「シンプル生理学(改訂第7版)」 貴邑富久子、根来英雄 著 (南江堂)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社) 「やさしい生理学(改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集 (南江堂) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト(第7版)」 大地陸男 著 (文光堂)

成績評価	試験の結果（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4F林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:00～18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：生体機能は大きく生命維持に必要な植物性機能と、骨格筋や神経系に代表される動物性機能に分類され、この授業では正常な状態での植物性機能を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収・代謝、生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、種族維持に必要な生殖機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 消化吸収 (1) 到達目標：口腔～胃での消化の仕組みについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 消化吸収 (2) 到達目標：小腸～大腸での消化の仕組みとそれにおける膵臓、胆嚢の働きについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 消化吸収 (3) 到達目標：消化酵素、分泌調節、消化管ホルモンの働き、および排便のしくみについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 消化吸収 (4) 到達目標：吸収の仕組み、および肝臓の働きについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 代謝と体温 (1) 到達目標：エネルギー代謝、栄養素について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 代謝と体温 (2) 到達目標：基礎代謝、産熱、放熱について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 代謝と体温 (3) 到達目標：体温調節、うつ熱、発熱について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 内分泌 (1) 到達目標：ホルモンの定義と分類、分泌調節について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 内分泌 (2) 到達目標：視床下部、下垂体からのホルモン分泌について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 内分泌 (3) 到達目標：甲状腺、膵臓からのホルモン分泌について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 内分泌 (4) 到達目標：副腎からのホルモン分泌、および血中Ca²⁺濃度調節について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 生殖 (1) 到達目標：性分化、生殖腺の発達、および性ホルモンの働きについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 生殖 (2) 到達目標：性周期、および妊娠時の特徴について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 まとめ (1) 到達目標：この科目での学習範囲について理解した上で、植物性機能を説明できる。</p> <p>第15回 まとめ (2) 到達目標：この科目での学習範囲について理解し、その知識を応用して、植物性機能を説明できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	該当分野に関して、教科書を熟読し、その上で配布プリントにて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。
教科書	「シンプル生理学(改訂第7版)」 貴邑富久子, 根来英雄 著 (南江堂)
参考書	<p>※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。</p> <p>「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社)</p> <p>「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社)</p> <p>「やさしい生理学(改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集 (南江堂)</p> <p>「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社)</p> <p>「生理学テキスト(第7版)」 大地陸男 著 (文光堂)</p>

成績評価	試験の結果（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4F林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:00～18:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也, 岡田 薫, 中山登稔			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	講義で得た知識を基に、生命体としてのヒトの機能について学生自身が実験し、データを記録する。得られた結果からそれぞれの機能を分析的・統合的に考察することにより、各臓器・組織の機能、およびそれらの調節機能に関する知識を深めると共に、いかにすれば結果から必要な情報を引き出せるかを理解する。また、科学実験におけるレポートの意味と書き方と重要性を理解する。 具体的には設定された実習項目について1回1項目ずつ担当教員の指導の下に実習を行い、各テーマについて、グループ内で相互に実験者と被験者を体験できるようにする。実習項目および、それに関連する内容を実験実施前と後に討論し、1項目ごとにレポートを作成する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・ミニ講義 到達目標：実習の目的、内容を把握し、実習実施にあたっての注意事項を確認する。ミニ講義を実施し、知識の確認を行う。 授業時間外学習の指示：配布の実習書を熟読する。	
	第2回	循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第3回	循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第4回	循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第5回	循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第6回	代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第7回	代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第8回	代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第9回	代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。	
	第10回	誘発筋電図の実習 到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。	

	<p>授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p> <p>第11回 誘発筋電図の実習 到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p> <p>第12回 誘発筋電図の実習 到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p> <p>第13回 脳波の実習 到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p> <p>第14回 脳波の実習 到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p> <p>第15回 脳波の実習 到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 授業時間外学習の指示：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布する実習書を熟読し、その内容が理解できるように、必要な知識を参考書等にて確認する。
教科書	人体の機能実習書、生理学教室 編
参考書	生理学テキスト 第7版、大地陸男 著、文光堂 標準生理学 第7版、小澤瀨司、福田康一郎 総編集、医学書院 ギャノン生理学 原書22版、岡田泰伸 他 訳、丸善 コスタンプ明解生理学、岡田 忠、菅屋潤壹 監訳、エルゼビア・ジャパン
成績評価	実習態度(10%)、口頭試問(10%)、出席回数・レポート(80%)の採点により判定する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 林(知) 教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 岡田 薫 研究室 : 5号館3階 生理学教室 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 中山登稔 オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
森永 敏博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	運動のメカニズムや運動器の構造について理解し、疾病や傷害によって生じる運動機能障害に対する治療に必要な基礎知識を習得することを目標にする。 運動学の意義、基礎運動力学、運動エネルギーの生成や消費など総論的知識を学習した後、身体各部の運動について詳述する。 また基本的動作としての起立、歩行分析について学習し、麻痺性疾患や疼痛性疾患によって惹起される異常歩行の種類や治療法について述べる。
授業計画	<p>1回目 運動学とは？その内容、領域、対象、運動の定義（運動の法則、面と軸、こて）について [到達目標] これから学ぶ運動学の内容、意義を認識する。</p> <p>[備考] 教科書17p～を読んでおくこと。</p> <p>2回目 運動と関節について [到達目標] 運動器の構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書61p～を予習しておくこと。</p> <p>3回目 運動と筋について [到達目標] 筋の収縮と張力、運動との関係について知る。</p> <p>[備考] 教科書67p～ 生理学の参考書などで復習</p> <p>4回目 運動と神経および反射について [到達目標] 随意運動と感覚・反射の関係について理解する。</p> <p>[備考] 教科書83p～ 解剖学の復習をしておくこと。</p> <p>5回目 運動発達と運動学習について [到達目標] 正常の運動発達と運動の学習について理解する。</p> <p>[備考] 教科書421p～ 生理学、解剖学の復習。</p> <p>6回目 運動と栄養代謝について [到達目標] 運動によるエネルギー消費と供給について知る。</p> <p>[備考] 教科書186p～の予習</p> <p>7回目 運動と血液循環について [到達目標] 心臓や血管の機能と運動との関係について知る。</p> <p>[備考] 教科書168p～ 教科書の予習をしておくこと。</p> <p>8回目 運動と酸素供給、体力について [到達目標] 呼吸運動と酸素摂取、体力の意味を理解する。</p> <p>[備考] 教科書313p～ 生理学の復習をしておくこと。</p> <p>9回目 上肢帯と肩関節の運動 [到達目標] 解剖学的構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書203p～ 教科書の予習をしておくこと。</p> <p>10回目 肘関節と手の運動について</p>

	<p>[到達目標] 解剖学的構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書216p～ 解剖学の復習をしておくこと。 下肢帯と股関節の運動</p> <p>[到達目標] 解剖学的構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書235p～ 解剖学の復習をしておくこと。 膝関節と足部の運動</p> <p>[到達目標] 解剖学的構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書245p～ 解剖学の復習をしておくこと。 正常歩行とは</p> <p>[到達目標] 解剖学的膝構造と機能について理解する。</p> <p>[備考] 教科書361p～ 解剖学の復習をしておくこと。 異常歩行とその原因</p> <p>[到達目標] 正常歩行の構成、筋活動について</p> <p>[備考] 教科書392p～ 教科書の予習をしておくこと。 まとめと評価</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	生理学、解剖学との関連性が強く、授業項目の内容に応じてこれらの復習をしっかりとしておくこと。
教科書	「基礎運動学」 中村隆一他著 (医歯薬出版)
参考書	特になし
成績評価	試験70%、小テスト20%、平常点 (出席) 10%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森永敏博 研究室 : 四條畷学園大学リハビリテーション学部 メールアドレス : morinaga@reha.shijonawate-gakuen.ac.jp オフィスアワー :
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、疾患の原因や成り立ちを理解するために学ぶ基礎と臨床の架け橋となる学問です。誰でも皆、病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには病気をよく知らないといけません。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、そのために臓器や組織・細胞がどのように変化するのかを学びます。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な疾患の原因や成り立ちを理解し説明できること。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは [到達目標] 病理学で学ぶこと全般について理解し説明できる。 [備考] 次回（疾病について・病因）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第2回 疾病について [到達目標] 疾病についてについて理解し説明できる。 [備考]次回（病因）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第3回 病因 [到達目標] 病因について理解し説明できる。 [備考]次回（循環障害）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第4回 循環障害 [到達目標] 循環障害について理解し説明できる。 [備考]次回（退行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第5回 退行性病変1 [到達目標] 退行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回（退行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第6回 退行性病変2 [到達目標] 退行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回のまとめ試験1に向け、疾病についてから退行性病変までの確認問題を復習しておく。</p> <p>第7回 まとめ試験1 [到達目標] 疾病についてから退行性病変までの範囲で学んだことが説明できる。 [備考]次回（進行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第8回 進行性病変 [到達目標] 進行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回（炎症）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第9回 炎症 [到達目標] 炎症について理解し説明できる。 [備考]次回（腫瘍）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第10回 腫瘍1 [到達目標] 腫瘍について理解し説明できる。 [備考]次回（腫瘍）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第11回 腫瘍2 [到達目標] 腫瘍について理解し説明できる。 [備考]次回（免疫異常・アレルギー）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第12回 免疫異常・アレルギー [到達目標] 免疫異常・アレルギーについて理解し説明できる。 [備考]次回（先天性異常）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第13回 先天性異常</p>

	<p>第14回</p> <p>[到達目標] 先天性異常について理解し説明できる。 [備考]次回のまとめ試験2に向け、進行性病変から先天異常までの確認問題を復習しておく。 まとめ試験2</p> <p>第15回</p> <p>[到達目標] 進行性病変から先天異常までの範囲で学んだことが説明できる。 [備考] 次週の期末試験に向け全範囲の確認問題の復習をしておく。 期末試験</p> <p>[到達目標] 病理学で学んだ疾患の原因・成り立ちについて説明できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・配布資料を読んで予習をし、授業初めのプレテストに答えられるようにしておく。質問がある場合は確認問題の自由記述スペースやアンケート用紙に記入するか、オフィスアワーなどで担当教員が対応しますので、わからないことは解決してください。
教科書	「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版
参考書	「新訂版クイックマスター病理学」堤寛著 サイオ出版 「新版 病気の地図帳」山口和克監修 講談社
成績評価	筆記試験80%、確認問題10%、授業に取り組む姿勢10%により総合的に評価します。合格基準は60%以上です。 出席率60%未満の方には受験資格が与えられないので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。		
授業計画	第1回	衛生・公衆衛生の目的および衛生行政 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。	
	第2回	衛生統計と疫学 [到達目標] わが国の衛生統計の現状と変化・公衆衛生の問題点について理解する。 疫学の意義を理解する。	
	第3回	疾病の予防と健康管理 [到達目標] プライマリー・ヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。	
	第4回	生活習慣病と老人保健 [到達目標] 生活習慣に由来する危険因子について理解する。 老人保健の現状と問題点について理解する。	
	第5回	母子保健 [到達目標]妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。	
	第6回	学校保健 [到達目標] 学校保健に関わる現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。	
	第7回	精神保健、産業保健 [到達目標]精神保健に関わる現状と課題について理解する。 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。	
	第8回	中間試験（第1回～第7回）、地球環境 [到達目標] 地球環境の形成過程と現状の問題点について理解する。 環境汚染の成因について理解する。	
	第9回	気圏の環境と健康 [到達目標] 気圏環境と健康、気候の健康への影響、大気汚染について理解する。	
	第10回	水圏の環境と健康 [到達目標] 水圏環境と健康、上水および下水、水質汚濁について理解する。	
	第11回	土壌環境と健康、廃棄物 [到達目標] 土壌環境と健康、土壌汚染について理解する。 廃棄物処理の現状と問題点、廃棄物と環境汚染について理解する。	
	第12回	公害、放射線障害 [到達目標] 公害の歴史と現状、公害による健康被害について理解する。 電離放射線障害について理解する。	
	第13回	感染症の予防と対策1 [到達目標] 微生物の分類、感染症成立における宿主・寄生体・感染経路について理解する。	
	第14回	感染症の予防と対策2 [到達目標] 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点について理解する。 感染症法、予防接種法について理解する。	
	第15回	期末試験（第8回～第14回）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめておくこと。 (分からない場合は質問に来ること。)		

教科書	「STEP SERIES 公衆衛生 第13版」高橋茂樹 西基 (海馬書房)
参考書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 「衛生試験法・注解」(日本薬学会) 「シンプル公衆衛生学2016」(南江堂) 「わかりやすい公衆衛生学(第4版)」(ヌーベルヒロカワ)
成績評価	出席が6割に満たないものは中間試験および期末試験の受験を認めない。 中間試験および期末試験を90%、出席を10%として成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ、千葉章太 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp、s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:40-13:30
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	疾病の要因としての病原微生物について、その特徴、感染症の発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物、特徴、感染経路、予防、診断と治療について学ぶ。さらに、健康管理、衛生管理の意義を理解する。		
授業計画	第1回	微生物と感染症、細菌の形態・生理・代謝・遺伝、感染と発症のメカニズム [到達目標] 1. 病原微生物の分類・基本的な特徴を理解する。 2. 細菌の形態・生理・代謝・遺伝の基本を理解する。 3. 発症に関わる病原体側因子および宿主側因子について理解する。	
	第2回	化学療法、細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫の特徴 [到達目標] 1. 感染症の治療に用いられる化学療法剤の分類・特徴・作用機構および副作用について理解する。 2. 細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫の特徴・構造・増殖様式およびそれらの関わる感染症について理解する。	
	第3回	呼吸器感染症 [到達目標] 呼吸器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第4回	消化器感染症 [到達目標] 消化器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第5回	全身感染症、神経系感染症および眼感染症 [到達目標] 1. 全身感染症を起こす病原微生物の特徴、全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. 神経系感染症および眼感染症の予防及び感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第6回	尿路・性器感染症および皮膚軟部組織感染症 [到達目標] 1. 尿路・性器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. 皮膚軟部組織感染症の予防及び感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第7回	ウイルス性肝炎、レトロウイルス・プリオン [到達目標] 1. ウイルス性肝炎の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. レトロウイルス感染症の予防・感染と発症のメカニズムおよびプリオン症について理解する。	
	第8回	試験 試験範囲：第1回～第7回講義	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に配布プリントおよび該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめること。 (分からない場合は質問に来ること。)		
教科書	「シンプル微生物学」東 匡伸、小熊恵二 編 (南江堂)		
参考書	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著 (南山堂) 「Simple Step 感染症」平山 謙二監修 (海馬書房) 「戸田細菌学」吉田・柳 編 (南江堂)		
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 試験90%、出席10%で成績を評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：糸井マナミ	
	研究室	：5号館2階 免疫・微生物学教室	
	メールアドレス	：m_itoi@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	：月曜日・金曜日12:40-13:30	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>体を守る仕組み（自然治癒力）についての科学的理解を進めることは、医療人として必須である。基礎免疫学では、免疫を担う細胞や器官の特徴を学び、免疫応答の細胞学的背景・分子的背景や遺伝子背景を理解する。臨床免疫学では、感染防御の仕組み、免疫不全症のメカニズムと易感性、アレルギーの仕組み、移植免疫および自己免疫疾患について、免疫応答の神経系・内分泌系による調節について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 生体防御系の成り立ち：免疫系の細胞と器官 [到達目標] 1. 異物に対する反応系：生体防御系の全体像を理解する。 2. 骨髄球系細胞およびリンパ球系細胞の特徴と機能およびリンパ系の組織・器官について理解する。</p> <p>第2回 自然免疫と急性炎症、補体 [到達目標] 1. 自然免疫のしくみと自然免疫における急性炎症の枠割を理解する。 2. 自然免疫および獲得免疫における補体の役割を理解する。</p> <p>第3回 T細胞の分化・活性化と機能 [到達目標] 1. T細胞分化の分子・遺伝子背景を理解する。 2. T細胞の活性化のしくみと活性化T細胞（エフェクターT細胞）の機能を理解する。</p> <p>第4回 B細胞の分化・活性化と機能、抗体の機能 [到達目標] 1. B細胞分化の分子・遺伝子背景を理解する。 2. B細胞の活性化・抗体産生細胞への分化のしくみおよび抗体のクラスとその機能を理解する。</p> <p>第5回 免疫不全症、HLAと移植免疫 [到達目標] 1. 免疫不全症の発症機序を理解する。 2. HLA(MHC)拘束性による自己認識の仕組みと移植時の非自己HLA分子への免疫応答を理解する。</p> <p>第6回 アレルギーと自己免疫疾患 [到達目標] I～IV型アレルギーの発症のメカニズムおよび自己免疫疾患の発症のメカニズムを理解する。</p> <p>第7回 免疫応答調節、免疫学的検査法 [到達目標] 1. 免疫応答の調節および神経内分泌による免疫系の調節について理解する。 2. 病院等における免疫学的検査法：免疫能の検査について理解する。</p> <p>第8回 試験 試験範囲：第1回～第7回講義</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめること。 (分からない場合は質問に来ること。)</p>
教科書	『シンプル免疫学』 中島泉ほか (南江堂)
参考書	『もっとよくわかる！免疫学』 河本宏 (羊土社) 『メディカル免疫学』 A. ロアット (西村書店) 『免疫生物学』 笹月健彦 訳 (南江堂) 『マンガでわかる免疫学』 河本宏 (ビーコムプラス)
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 試験90%、出席10%で成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:40-13:30</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
辻村 敦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解（代謝）の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ [到達目標] 生化学の基礎を理解。アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [備考] 毎回、講義プリントを配布する。人体を構成、ならびに調整する成体分子を理解する。生命活動維持のために重要な必須成分と酵素の働きを理解。</p> <p>2回目 糖質と糖質代謝（1） [到達目標] 糖質の化学構造と性質について説明できる。 [備考] 糖質のその主な働きであるエネルギー産生とその性質を理解。</p> <p>3回目 糖質と糖質代謝（2） [到達目標] 糖質の生体内での消化、吸収、動態について説明できる。 [備考] 糖質の代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路</p> <p>4回目 脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質の代謝を理解。</p> <p>5回目 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。アンモニアと尿素について。</p> <p>6回目 核酸（ヌクレオチド）の代謝 [到達目標] 核酸合成と分解について説明できる。 [備考] 核酸（ヌクレオチド）の合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。核酸のプリン、尿酸と痛風について。</p> <p>7回目 ビタミン、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解。ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>8回目 総括と試験 [備考] 全講義の総括を行い、試験を行う。 講義内容の理解度として作成した演習と試験で、総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること！</p>
教科書	<p>特になし（講義時間ごとにプリントを配布）</p>
参考書	<p>『栄養科学イラストレイテッド 生化学』 菌田 勝/編（羊土社） 『マンガでわかる生化学』 武村 政春他（オーム社） 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他（翻訳） 原書5版（丸善出版）</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：（試験点数 60%以上を合格とする）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○辻村 敦 研究室：京都府立医科大学 基礎老化学 メールアドレス：atsuji@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー：講義内容について、講義後またはメールで質問してください。</p>

	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
桂 昌司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業概要は、薬物療法学（＝薬物治療学）総論と各臓器の生理・疾患を簡単に復習した後、臨床応用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について解説します。</p> <p>薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。</p>
授業計画	<p>1回目 薬理学総論 [到達目標] 薬物の作用点という概念について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>2回目 末梢神経作用薬 [到達目標] 自律神経および自律神経節作用薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>3回目 中枢神経作用薬 [到達目標] 中枢神経作用薬および精神疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>4回目 循環器系作用薬・利尿薬 [到達目標] 循環器疾患および高血圧治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>5回目 抗炎症薬・抗アレルギー薬・血液作用薬 [到達目標] 炎症、アレルギーおよび血液疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>6回目 消化器作用薬・内分泌疾患治療薬 [到達目標] 消化器疾患、糖尿病およびホルモン疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>7回目 化学療法薬・漢方薬 [到達目標] 感染性疾患治療薬および漢方薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>8回目 期末試験 [到達目標] 授業目標が到達出来ているかを確認する。 [備考] 試験終了時にポイントを示し、出題された全問題について解答とその解説を作る。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義で用いた資料を用いて、薬物名、作用機序および副作用についてよく理解できるよう必ず復習してください。
教科書	特に指定しない（関係資料は配布します）。
参考書	<p>「コメディカルのため薬理学」岩月和彦・渡邊泰秀 著（朝倉書店） 「カラー図解 これならわかる薬理学」佐藤俊明（訳）（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 「イラストで学ぶ薬理学（第2版）」田中越郎 著（医学書院） 「ビジュアルノート（第4版）」茨木 保 著（MEDIC MEDIA）</p>
成績評価	期末試験（80%）、課題レポート（ノートを含む）提出（10%）および授業態度（10%）により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：桂 昌司 研究室：附属病院 1階薬剤部 メールアドレス：m_katsura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	東洋医学を实践するうえで必要な臨床医学について、医療面接技法、身体診察技法などについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 はじめに 診断学を学ぶにあたって、はじめに知っておきたいこと。</p> <p>第2回 診察の概要 診察から診断にいたる過程（プロセス）を学ぶ。</p> <p>第3回 診察の方法 医療面接 医療面接の意義と方法、注意事項を知る。</p> <p>第4回 診察の方法 視診と触診 身体診察のうち、最も基本的な診察法が視診である。また、触診は患者の体に触れることで所見を得る診察法である。これらの意義と方法について理解する。</p> <p>第5回 診察の方法 打診と聴診 打診と聴診の方法とその意義について学ぶ。</p> <p>第6回 診察の方法 測定法 計測により異常の有無を判定する診察法について知る。</p> <p>第7回 生命徴候（バイタルサイン）の診察 その1 生命を維持するために、最も基本的で重要な徴候すなわちバイタルサインについて理解する。</p> <p>第8回 生命徴候（バイタルサイン）の診察 その2 バイタルサインの各項目について詳しく講義する。</p> <p>第9回 全身の診察 その1 顔貌、精神状態、言語に関する診察を学ぶ。</p> <p>第10回 全身の診察 その2 栄養状態、姿勢、歩行についての診察を理解する。</p> <p>第11回 全身の診察 その3 皮膚、粘膜、爪、リンパ節その他に関する診察について学ぶ。</p> <p>第12回 局所の診察 その1 局所の診察を3回に分けて講義する。 その1：頭頸部</p> <p>第13回 局所の診察 その2 局所の診察を3回に分けて講義する。 その2：胸部</p> <p>第14回 局所の診察 その3/ 授業総括 局所の診察を3回に分けて講義する。 その3：腹部 最後に授業の総括を行う。</p> <p>第15回 期末試験 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	一患者を診ずに本だけで勉強するのは、全く航海に出ないに等しいと言えるが、反面、本を読まずに疾病の現象を学ぶのは、海図をもたずに航海するのに等しい—臨床教育の先駆者であるWilliam Oslerの言葉を学生諸君に送る。関連書籍をたくさん熟読することで知識を増やし、安心・尊敬・信頼される医療者をめざすこと。
教科書	東洋医学学校協会編 「臨床医学総論 第2版」 医師葉出版
参考書	必要ない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院内科部長 教授室：病院2階 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜午後
備考	私語は厳に慎むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	運動器疾患の病態把握を正確にとらえるために、前年度学んだ解剖学の知識を実際の身体に応用し、後期の「機能解剖学実習」と次年度の「関節評価法」および「関節評価法実習」に繋がる、ヒトの関節の動きと全身の動きの関係を理解することを目標とする。そのために、上肢、下肢の構造と運動機能を詳細に講義し、触診・理学検査を踏まえた演習を行う。
授業計画	<p>第1講義 オリエンテーション [授業概要] 本演習の講義内容および到達目標について説明し、運動機能解剖学の学習方法について教授する。 [到達目標] 柔道整復師に運動機能解剖学が必要である理由が説明できる。</p> <p>第2講義 上肢（1） 肩関節の構造 [授業概要] 肩関節を構成する骨、関節、筋について教授する。 [到達目標] 肩関節を構成する骨、関節、筋について説明できる。</p> <p>第3講義 上肢（2） 肩関節の運動機能 [授業概要] 肩関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肩関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 肩関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肩関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第4講義 上肢（3） 肩関節の運動機能学的触診 [授業概要] 肩関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肩関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 肩関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肩関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第5講義 上肢（4） 肘・前腕の関節の構造と運動機能 [授業概要] 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第6講義 上肢（5） 肘・前腕の関節の運動機能学的触診 [授業概要] 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第7講義 上肢（6） 手関節の構造と運動機能 [授業概要] 手関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる手関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 手関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる手関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第8講義 上肢（7） 手関節の運動機能学的触診 [授業概要] 手関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる手関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 手関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる手関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第9講義 上肢（8） 指関節の構造と運動機能 [授業概要] 指関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる指関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 指関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる指関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第10講義 上肢（9） 指関節の運動機能学的触診 [授業概要] 指関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる指関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 指関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる指関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第11講義 下肢（1） 股関節の構造と運動機能</p>

	<p>第12講義 [授業概要] 股関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる股関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 股関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる股関節の運動機能について説明できる。 下肢（2） 股関節の運動機能学的触診</p> <p>第13講義 [授業概要] 股関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる股関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 股関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる股関節の運動機能について説明できる。 下肢（3） 膝・足関節の構造と運動機能</p> <p>第14講義 [授業概要] 膝・足関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる膝・足関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 膝・足関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる膝・足関節の運動機能について説明できる。 下肢（4） 膝・足関節の運動機能学的触診</p> <p>第15講義 [授業概要] 膝・足関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる膝・足関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 膝・足関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる膝・足関節の運動機能について説明できる。 まとめ 全体を通じて理解できにくかった内容について、再度、教授する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	二回目以降の講義前に、講義範囲の教科書を熟読（動画を含む）しておくこと。
教科書	動画でマスター！ 機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット 監修 林 典雄 定価 5,400円（税込）メジカルビュー社 上記または、 運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社
参考書	特になし
成績評価	出席状況と授業中の態度（50%）、講義直後に実施する小テストの結果（50%）により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：講義日程が決定し次第、講義にて連絡する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
大木 琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	肩関節部周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状や治療法(診断、整復、固定、後療)について教授する。 本講義を通して、肩関節周囲の疾患に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、医療人として適切な処置を講ずるための知識を修得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 肩関節損傷の診断と治療 肩関節損傷の診断と治療について、基本となる治療方針、治療体系を理解する。</p> <p>第2回 鎖骨骨折① 鎖骨骨折の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第3回 鎖骨骨折② 鎖骨骨折の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第4回 肩甲骨骨折① 肩甲骨骨折の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第5回 肩甲骨骨折② 肩甲骨骨折の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第6回 鎖骨の脱臼① 胸鎖関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第7回 鎖骨の脱臼② 肩鎖関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第8回 肩関節脱臼① 肩関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第9回 肩関節脱臼② 肩関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第10回 肩関節周辺の軟部組織損傷① 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第11回 肩関節周辺の軟部組織損傷② ベネット損傷、SLAP損傷、肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第12回 肩関節周辺の軟部組織損傷③ 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第13回 肩関節周辺の軟部組織損傷④ 五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症の発生機序、症状、治療法、後療法について学ぶ。</p> <p>第14回 総復習 これまでの講義の復習を行い理解を深める。</p> <p>第15回 定期試験</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習を行ってください。講義時間内で理解できない場合はすぐに質問しに来てください。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第5版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編) 柔道整復学・実技編 改訂第2班(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	標準整形外科学 第12版(内田淳正 監修、医学書院)
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価します。 それ以外に、出席、授業態度や小テスト等も加味し、総合評価する。
担当教員の基本情報	研究室：8号館4階 講師室 オフィスアワー：講義終了後1時間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
泉 晶子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	この科目では、上腕骨近位端部から肘関節、前腕周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、上腕骨の骨折① 上腕骨近位端部骨折(骨頭・解剖頸・外科頸)について学ぶ。</p> <p>第2回 上腕骨の骨折② 上腕骨近位端部骨折(外科頸・大結節・小結節)について学ぶ。</p> <p>第3回 上腕骨の骨折③ 上腕骨骨幹部骨折について学ぶ。</p> <p>第4回 上腕骨の骨折④ 上腕骨遠位端部骨折(顆上)について学ぶ。</p> <p>第5回 肘関節の骨折⑤ 上腕骨遠位端部骨折(外顆・内側上顆)について学ぶ。</p> <p>第6回 肘関節の脱臼① 前腕両骨後方脱臼について学ぶ。</p> <p>第7回 肘関節の脱臼② 前腕両骨脱臼について学ぶ。 橈骨単独脱臼について学ぶ。</p> <p>第8回 肘関節の脱臼③ 肘内障について学ぶ。</p> <p>第9回 前腕骨の骨折① 前腕骨近位端部骨折、橈骨近位端部骨折、肘頭骨折について学ぶ。</p> <p>第10回 前腕骨の骨折② 前腕骨骨幹部骨折、橈骨単独骨折・ガレアジ骨折、尺骨単独骨折・モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折について学ぶ。</p> <p>第11回 肘関節の軟部組織損傷① 肘関節周辺の筋・腱の損傷について学ぶ</p> <p>第12回 肘関節の軟部組織損傷② 肘関節のスポーツ障害(野球肘・テニス肘・前腕コンパートメント症候群)について学ぶ</p> <p>第13回 肘関節の軟部組織損傷③ 不安定症と末梢神経障害(正中神経障害・橈骨神経麻痺・尺骨神経障害)について学ぶ</p> <p>第14回 肘関節の軟部組織損傷④ その他の疾患(パンナー病・変形性肘関節症)について学ぶ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習してくるのが望ましい。 授業後は、配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版南江堂
参考書	・解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 第2版
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。また単元ごとに小テストを行い、その成績も加味して総合評価とする。 平常点(小テスト、授業出席)20%、試験80%で総合評価する。
担当教員の基本情報	保健医療学部 臨床柔道整復学講座 泉晶子 e-mail:a_izumi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
秋津 知宏・大木 琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	肩関節部周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷の治療法(診断、整復、固定、後療)について実技形式で学習します。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・クラーメル副子作製① クラーメル副子の作製方法を学ぶ。	
	第2回	クラーメル副子作製② クラーメル副子の作製方法を学ぶ。	
	第3回	鎖骨骨折① 鎖骨骨折の知識を復習し、座位整復法と座位固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第4回	鎖骨骨折② 鎖骨整復台を使用した整復法、固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第5回	上腕骨外科頸骨折① 上腕骨外科頸骨折の知識を復習し、整復法について実技を交えて学ぶ。	
	第6回	上腕骨外科頸骨折② 上腕骨外科頸骨折の整復法の復習し、固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第7回	肩鎖関節脱臼① 肩鎖関節脱臼の知識を復習し、整復法と固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第8回	肩鎖関節脱臼② 肩鎖関節脱臼の整復法と固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第9回	肩関節脱臼① 肩関節脱臼の知識を復習し、整復法について実技を交えて学ぶ。	
	第10回	肩関節脱臼② 第9回の復習し、固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第11回	肩関節脱臼③ 第9回、第10回の復習し、肩関節脱臼のその他の整復法について実技を交えて学ぶ。	
	第12回	肩関節の軟部組織損傷① 肩関節の軟部組織損傷の知識を復習し、疾患の診かたについて実技を交えて学ぶ。	
	第13回	肩関節の軟部組織損傷② 肩関節の軟部組織損傷の知識を復習し、治療法について実技を交えて学ぶ。	
	第14回	予備日	
	第15回	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習を行ってください。講義時間内で理解できない場合はすぐに質問しに来てください。		
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2班(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)		
参考書	柔道整復学・理論編 改訂版第5版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)		
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価します。 授業出席20%、試験80%で総合評価します。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋津 知宏 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間 担当教員名 : 大木 琢也 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_ohgi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	柔道整復師が扱う骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷について、発生機序、原因、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを教授する。到達目標は骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、医療人として適切な処置を講ずるための知識を修得することである。		
授業計画	授業概要	<p>ガイダンス・オリエンテーション 授業概要について 授業構造と授業進行方法・位置づけを知る。 各授業の項目・内容の連繋・授業構成について熟知する。</p> <p>1回目 股関節脱臼 股関節脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 股関節周辺の構造を予習すること。</p> <p>2回目 股関節の軟損①(鼠径部痛, 弾発股, 梨状筋症候群) 股関節の軟損の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 股関節と殿部周辺の軟部組織の構造を予習すること。</p> <p>3回目 股関節の軟損②(ペルテス病, 大腿骨頭すべり症他) 股関節の軟損の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 股関節の構造を予習すること。</p> <p>4回目 股関節の軟損③(単純性・変形性股関節炎他) 股関節の軟損の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 股関節の構造および関節組織構造を予習すること。</p> <p>5回目 大腿骨近位端部骨折① 大腿骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 大腿骨周辺の構造を予習すること。</p> <p>6回目 大腿骨近位端部骨折② 大腿骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 大腿骨周辺の構造を予習すること。</p> <p>7回目 大腿骨骨幹部骨折 大腿骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>8回目 大腿骨遠位端部骨折 大腿骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>9回目 下腿骨近位端部骨折 下腿骨骨折の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>10回目 膝蓋骨骨折 膝蓋骨骨折の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>11回目 下腿骨骨幹部骨折 下腿骨骨折の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>12回目 膝蓋骨脱臼 膝蓋骨脱臼の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>13回目 膝関節脱臼 膝関節脱臼の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。 膝関節の構造を予習すること。</p> <p>14回目 大腿部の軟損(大腿部打撲, 肉ばなれ, 骨化性筋炎) 大腿部の軟損の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを理解する。</p> <p>試 験 評 価 筆記試験による評価</p>	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	身体各部の構造すなわち解剖学的知識、特に授業ですすめていく骨盤部から大腿部および膝部の領域の身体構造を理解するために、授業前に解剖学書などで自学自習を行うこと。
教科書	「柔道整復学・理論編 第5版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)
参考書	「標準整形外科学 第12版」内田淳正 監修(医学書院) 「解剖学 第2版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(医歯薬出版)
成績評価	成績評価は、所定の授業出席数を満たした者を対象として、筆記試験80%、出席状況や授業態度20%の割合で評価する。合格点は60点以上とする。
担当教員の基本情報	川村 茂、基礎柔道整復学講座(8号館4F準教授室)、オフィスアワーは随時とする。 大木琢也、基礎柔道整復学講座(8号館4F講師室)、オフィスアワーは随時とする。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦・秋津 知宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷を正しく理解する。柔道整復師の業務範囲の判別・鑑別を行えるようにする。保存療法の限界を知り、範疇の損傷についての処置を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・下腿骨近位端部骨折 下腿骨近位端部骨折の理解</p> <p>第2回 下腿骨骨幹部骨折 下腿骨骨幹部骨折の理解</p> <p>第3回 下腿骨遠位端部骨折 下腿骨遠位端部骨折の理解</p> <p>第4回 足関節の脱臼骨折 足関節の脱臼骨折（ラウゲ・ハンセンの分類）の理解</p> <p>第5回 足根骨骨折 足根骨骨折の理解</p> <p>第6回 中足骨骨折 中足骨骨折の理解</p> <p>第7回 外傷性膝関節脱臼・足部の脱臼 外傷性膝関節脱臼の理解 ショパール・中足、足指部脱臼の理解</p> <p>第8回 膝関節部の軟部組織損傷：成長期、半月板 膝関節部の軟部組織損傷の理解</p> <p>第9回 靭帯損傷、腸脛靭帯炎 膝関節部の軟部組織損傷の理解</p> <p>第10回 P F 障害、関節包、O A 膝関節部の軟部組織損傷の理解</p> <p>第11回 下腿部の軟部組織損傷 コンパートメント症候群・アキレス腱など</p> <p>第12回 足部の軟部組織損傷 足部の軟部組織損傷の理解</p> <p>第13回 足関節捻挫 足関節捻挫の理解</p> <p>第14回 足の有痛性疾患 足の有痛性疾患の理解</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読し予習・復習を行う。授業時毎に配布する資料に授業内で理解または体得出来ない部分を記載して次の授業までに自習または教員に聞き、理解・体得する。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第5版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編) 柔道整復学・実技編 改訂第2班(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	教員作成資料
成績評価	出席基準を充たした者に筆記試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 長尾 淳彦 研究室 : 八号館4階・教授室 メールアドレス : a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時</p> <p>担当教員名 : 秋津 知宏 研究室 : 八号館4階・講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
神内 伸晃 泉晶子 大木琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>柔道整復師が扱う、骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷の診察法と柔道整復施術における整復法、固定法を実習を通して学ぶ。 授業目標は、骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、医療人として適切な処置を講ずるための技能を修得することを目標とする。</p>		
授業計画	第1回	<p>ガイダンス・オリエンテーション・骨盤骨折（骨盤骨単独骨折、骨盤骨輪骨折） 授業構造と授業進行方法・位置づけを知る。 各授業の項目・内容の連繋、授業構成について熟知する。 骨盤骨折の分類や症状を教授し、柔道整復師が行う観察法ならびに施術法（整復法・固定法）などを体得する。骨盤骨折の分類、症状を予習しておくこと。</p>	
	第2回	<p>股関節の可動域検査 股関節の外傷およびスポーツ障害などで重要となる股関節の可動域検査を学び、股関節における可動域検査を実施できることを目的とする。</p>	
	第3回	<p>股関節の体表解剖および触診法 股関節の外傷およびスポーツ障害などで重要となる股関節の体表解剖と触診の技術を学び、解剖学的な部位を体表から触察できることを目的とする。</p>	
	第4回	<p>股関節後方脱臼の整復法（回転法） 股関節脱臼の発生機序、症状、観察法ならびに柔道整復術法（整復法）を学び、実施できることを目的とする。</p>	
	第5回	<p>股関節前方脱臼および後方脱臼の様々な整復法 股関節前方脱臼・後方脱臼の様々な整復方法を学び、実施できることを目的とする。</p>	
	第6回	<p>大腿骨骨折（大腿骨近位端部骨折・大腿骨骨幹部骨折）の整復・固定法1 ・大腿骨骨折の分類や症状を学び、柔道整復師が行う観察法ならびに施術法（整復法・固定法）を体得する。 ・大腿骨骨折のシーネ固定法を学び、固定範囲・固定肢位を確保し、下肢の固定を行えることを目的とする。</p>	
	第7回	<p>大腿骨骨折（大腿骨遠位端部骨折）の整復・固定法2 ・大腿骨骨折の分類や症状を学び、柔道整復師が行う観察法ならびに施術法（整復法・固定法）を体得する。 ・大腿骨骨折のシーネ固定法を学び、固定範囲・固定肢位を確保し、下肢の固定を正しく行えることを目的とする。</p>	
	第8回	<p>膝蓋骨骨折・脱臼における固定法1 膝蓋骨骨折・脱臼時に用いるリング固定法を学び、固定範囲・固定肢位を確保し、膝関節部の固定を正しく行えることを目的とする。</p>	
	第9回	<p>膝蓋骨骨折・脱臼における固定法2 膝蓋骨骨折・脱臼時に用いる厚紙を用いた固定法を学び、固定範囲・固定肢位を確保し、膝関節部の固定を正しく行えることを目的とする。</p>	
	第10回	<p>股関節疾患（脱臼・股関節炎）における理学検査1 股関節疾患を鑑別するための理学検査方法を学び、個々の疾患を鑑別するための理学検査を正しく実施できることを目的とする。</p>	
	第11回	<p>股関節疾患（弾発股、ペルテス病、大腿骨頭すべり症などにおける理学検査2 股関節疾患を鑑別するための理学検査方法を学び、個々の疾患を鑑別するための理学検査を正しく実施できることを目的とする。</p>	
	第12回	<p>大腿部の軟部組織損傷の評価と方法（打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎） 大腿部の軟部組織損傷の軟損の分類、症状、観察法ならびに固定法を学び、診察の流れ、固定方法を実施できることを目的とする。 大腿骨周辺の軟損（打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎）を予習しておくこと。</p>	
	第13回	<p>大腿部の軟部組織損傷の固定方法、後療法（打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎） 大腿部の軟部組織損傷の軟損の固定法、後療法を学び、臨床的な施術方法を実施できることを目的とする。 大腿骨周辺の軟損（打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎）を予習しておくこと。</p>	
	第14回	<p>総合復習1 股関節部における疾患の理学検査の復習を行い、実施方法、手順について確認することを目的とする。 大腿部・膝関節部における疾患の発生機序、固定方法などの復習を行い、実施方法、手順について確認することを目的とする。</p>	
	第15回	<p>総合評価（まとめ） 本授業で行った内容を確認し評価を行う。</p>	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	身体各部の構造すなわち解剖学的知識、特に授業ですすめていく骨盤部から大腿部および膝部の領域の身体構造を理解するために、授業前に解剖学書などで自学自習を行うこと。
教科書	「柔道整復学・理論編 第5版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂) 「柔道整復学・実技編 第2版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)
参考書	「標準整形外科学 第12版」内田淳正 監修(医学書院) 「解剖学 第2版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(医歯薬出版)
成績評価	成績評価は、所定の授業出席数を満たした者を対象として、実技試験80%、出席状況20%の割合で評価する。合格点は60点以上とする。
担当教員の基本情報	担当教員名1：神内伸晃、スポーツ科学講座(8号館4F講師室)、オフィスアワー：授業日の放課後17:00～18:00。 担当教員名2：泉 晶子、臨床柔道整復学講座(8号館4F講師室)、オフィスアワー：授業日の放課後17:00～18:00。 担当教員名3：大木琢也、基礎柔道整復学講座(8号館4F講師室)、オフィスアワー：授業日の放課後17:00～18:00。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
岡本武昌 神内伸晃 泉晶子 大木琢也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目では、物理療法機器に関する知識や物理療法の生理的作用を学び、安全に物理療法機器を使用できることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 物理療法学演習の目的・内容説明・授業方式の説明について 柔道整復施術の種類と刺激・疼痛緩和・拘縮緩和・関節制限緩和・筋の強化・組織治療促進の適応の使用について教授する</p> <p>第2回 柔道整復施術の種類と後療法における物理療法の位置づけなどを教授する。 温熱療法の施術目的、種類および熱物理学・温熱の生理学的作用について ホットパックについて（湿熱について） 温熱療法機器の種類、位置づけ、柔道整復施術における医療的役割などを理解する。 ホットパック（湿式）の使用法の講義を行い、肘関節の屈筋・伸筋に適応し、適応前・適応5分、10分、15分、適応除去後5分、10分の温度測定、屈曲、伸展の角度測定を行う。</p> <p>第3回 遠赤外線療法の使用法について 遠赤外線の使用法の講義を行い、肘関節の屈筋・伸筋に適応し、適応前・適応5分、10分、15分、適応除去後5分、10分の温度測定、屈曲、伸展の角度測定測定を行う。</p> <p>第4回 極超短波療法の電磁波としての特徴と生体への作用についての生理学的生体照射時の適応や弊害作用について 極超短波療法の電磁波としての特徴と生体への作用についての講義を行い、肘関節の屈筋・伸筋に適応し、適応前・適応5分、10分、15分、適応除去後5分、10分の温度測定、屈曲、伸展の角度測定を行う。</p> <p>第5回 ホットパック（湿式）、極超短波および遠赤外線などの温熱療法の生理学的原理・機序について ホットパック（湿式）、極超短波および遠赤外線などの温熱療法の生理学的原理・機序について理解する。</p> <p>第6回 温熱療法の適応と禁忌事項について 温熱療法の適応と禁忌事項について理解する</p> <p>第7回 ホットパック、遠赤外線および極超短波の角度のデータのまとめ ホットパック、遠赤外線および極超短波の角度のデータをエクセルによりデータ化し提出する。</p> <p>第8回 ホットパック、遠赤外線および極超短波などの温熱機器についてのまとめ ホットパック、遠赤外線および極超短波などの温熱機器についての評価を行う。</p> <p>第9回 低周波治療器の生体計測1について 低周波電流を肘関節の屈筋・伸筋に適応し、肘関節の屈曲・伸展の角度測定を行う。</p> <p>第10回 低周波治療器の生体計測2について 低周波電流（TENS）を肘関節の屈筋・伸筋に適応し、肘関節の屈曲・伸展の角度測定を行う。</p> <p>第11回 治療的電気療法の種類、鎮痛効果、生体適応時の効果、弊害について 神経筋電気刺激、経皮的電気刺激、機能的電気刺激の柔道整復施術における医療的役割について理解する。</p> <p>第12回 超音波療法について超音波の特徴と生体への作用についての生理学的、生体照射時の適応や弊害作用について 超音波の特徴と生体への作用についての生理学的、生体照射時の適応や弊害作用について理解をする。</p> <p>第13回 レーザー療法の施術目的、種類およびレーザー光線の生理学的作用について レーザー光線療法の柔道整復施術における医療的役割などを理解する。</p> <p>第14回 低温療法および極低温療法の施術目的、種類および適応法の生理学的作用について理解する。 低温療法および極低温療法の柔道整復施術における医療的役割などを理解する。</p> <p>第15回 総合評価（まとめ） 物理療法機器の使用法と目的の理解度をみる。柔道整復師が使用可能な機器と適応疾患に対する理解度をみる。資格取得時に即施術可能な技術を身につけたかを確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時間内に時間外学習について指示をする。
教科書	物理療法学；編集網本 和、医学書院、定価4935円
参考書	参考書の指定はしない。
成績評価	出席点、授業態度および中間評価 学期末試験により総合評価する。
担当教員の基本情報	教員氏名：岡本武昌、神内伸晃、泉晶子、大木琢也 オフィスアワー：授業終了日の放課後（18：30～19：30） 場所：8号館4F講師室
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
岡本武昌、泉晶子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1年次に学習した身体の構造に対し、より理解を深めるために、ストレッチを通じて学習する。また、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復施術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。		
授業計画	第1回	徒手療法の概念と種類① 徒手整復を行う上での基本的な概念と種類について学ぶ。	
	第2回	徒手療法の概念と種類② 徒手整復を行う上での基本的な概念と種類について学ぶ。	
	第3回	ストレッチ概要 ストレッチの目的と効果、種類についてについて学ぶ。	
	第4回	スタティックストレッチ① スタティックでのセルフストレッチについて学ぶ。	
	第5回	スタティックストレッチ② スタティックでのセルフストレッチについて学ぶ。	
	第6回	スタティックストレッチ③ スタティックでのセルフストレッチについて学ぶ。	
	第7回	スタティックストレッチ④ スタティックでのペアストレッチについて学ぶ。	
	第8回	スタティックストレッチ⑤ スタティックでのペアストレッチについて学ぶ。	
	第9回	スタティックストレッチ⑥ スタティックでのペアストレッチについて学ぶ。	
	第10回	ダイナミックストレッチ① ダイナミックでのセルフストレッチについて学ぶ。	
	第11回	ダイナミックストレッチ② ダイナミックでのペアストレッチについて学ぶ。	
	第12回	PNFストレッチ ペアで行うPNFストレッチについて学ぶ。	
	第13回	徒手療法の実際① 授業の内容をふまえ、実際の患者(学生)を対象に徒手療法のデモを行う。	
	第14回	徒手療法の実際② 授業の内容をふまえ、実際の患者(学生)を対象に徒手療法のデモを行う。	
	第15回	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 		
参考書	指定なし。		
成績評価	実技試験を行い評価する。試験結果を80%とし、その他の出席状況や授業態度を20%として総合評価とする。実技の授業を行う際にはKCの着用を原則とし、着用がない場合は授業態度の項目から減点するので注意すること。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：岡本 武昌	
	研究室	：8号館4階教授室	
	オフィスアワー	：講義終了後の1時間	
	担当教員名	：泉 晶子	
	研究室	：8号館4階講師室	
	オフィスアワー	：講義終了後の1時間	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	この科目は、前期に実施した「運動機能解剖学」を基礎として、柔道整復師が患者を診る上で重要な機能解剖について臨床的な観点を含めた知識と技能の基礎を学び、人体の構造について知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1講義	オリエンテーション 〔 授業概要 〕 本自習の講義内容および到達目標について説明し、機能解剖学実習の学習方法について教授する。 〔 到達目標 〕 柔道整復師に機能解剖学実習が必要である理由が説明できる。	
	第2講義	上肢の動作1 〔 授業概要 〕 物を「握る」動作は、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 「握る」動作時の各関節可動域と「握る」動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第3講義	上肢の動作2 〔 授業概要 〕 物を「つまむ」動作は、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 「つまむ」動作時の各関節可動域と「つまむ」動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第4講義	上肢の動作3 〔 授業概要 〕 物を「触る」動作は、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 「触る」動作時の各関節可動域と「触る」動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第5講義	座位保持動作 〔 授業概要 〕 座位で「握る」、「つまむ」、「触る」動作を実施する際の体幹・下肢の各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 「握る」、「つまむ」、「触る」動作を実施する際の体幹・下肢の各関節可動域と座位保持動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第6講義	立位保持動作 〔 授業概要 〕 立位で「握る」、「つまむ」、「触る」動作を実施する際の体幹・下肢の各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 「握る」、「つまむ」、「触る」動作を実施する際の体幹・下肢の各関節可動域と立位保持動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第7講義	立ち上がり動作 〔 授業概要 〕 立ち上がり動作は、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 立ち上がり動作時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第8講義	歩行 〔 授業概要 〕 歩行において、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 歩行時の各関節可動域と歩行に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第9講義	関節可動域制限がある際の立ち上がり動作（股関節） 〔 授業概要 〕 正常な立ち上がり動作と比較して、関節可動域制限を有する場合には、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔 到達目標 〕 正常な立ち上がり動作と比較して、関節可動域制限を有する立ち上がり動作時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。	
	第10講義	関節可動域制限がある際の歩行（股関節） 〔 授業概要 〕	

	<p>第11講義 正常な歩行と比較して、関節可動域制限を有する場合には、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔到達目標〕 正常な歩行と比較して、関節可動域制限を有する歩行時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。 関節可動域制限がある際の立ち上がり動作（膝関節） 〔授業概要〕</p> <p>第12講義 正常な立ち上がり動作と比較して、関節可動域制限を有する場合には、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔到達目標〕 正常な立ち上がり動作と比較して、関節可動域制限を有する立ち上がり動作時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。 関節可動域制限がある際の歩行（膝関節） 〔授業概要〕</p> <p>第13講義 正常な歩行と比較して、関節可動域制限を有する歩行時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。 筋力低下がある際の立ち上がり動作 〔授業概要〕</p> <p>第14講義 正常な立ち上がり動作と比較して、筋力低下を有する場合には、各関節がどのように可動し、その関節運動に各筋がどのように関与しているかについて教授する。 〔到達目標〕 正常な立ち上がり動作と比較して、筋力低下を有する立ち上がり動作時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。 筋力低下がある際の歩行 〔授業概要〕</p> <p>第15講義 正常な歩行と比較して、筋力低下を有する歩行時の各関節可動域と立ち上がり動作に関与する筋などが解剖学的用語を用いて説明できる。 まとめ 実習全体を通じて理解しにくい部分について再度教授する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	前期に実施した「運動機能解剖学」を復習しておく。
教科書	特になし。
参考書	動画でマスター！ 機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット 監修 林 典雄 定価 5,400円（税込）メジカルビュー社 上記または、 運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社
成績評価	出席状況と授業中の態度（50%）、講義中に記述する提出物（50%）により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：講義日程が決まり次第、講義にて連絡する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
森 利夫			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るべきものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を持つ必要がある。健康の三原則について学び、現在の自分の生活を見直すことから始める。		
授業計画	1回目	オリエンテーション 健康の概念 健康とは [到達目標] 健康についての理解ができる	
	2回目	[備考] 新聞の健康関連を探す 現代社会と健康 [到達目標] 現代社会の状況が理解でき対応策を考えることができる	
	3回目	生活習慣病とその予防 [到達目標] 生活習慣病が理解できる	
	4回目	[備考]新聞の健康関連記事を探す 新聞の健康関連を探す ヘルスプロモーションとわが国の取り組み [到達目標] 健康日本21が理解できる	
	5回目	体力の考え方 体力とは [到達目標] 体力とは何かが理解できる	
	6回目	健康増進のための方法論・健康の三原則 [到達目標] 健康の三原則が理解できる	
	7回目	健康と栄養（1） [到達目標] 食品の栄養成分が理解できる	
	8回目	[備考] 食品の栄養成分表を集める 健康と栄養（2） [到達目標] 栄養を考えた食事に関心を持つことができる	
	9回目	肥満とその予防 [到達目標] 肥満についての理解と予防がわかる	
	10回目	健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係が理解できる	
	11回目	休養：ストレス解消法 [到達目標] 休養の方法が理解できる	
	12回目	嗜好品（タバコ、アルコール、コーヒー等）について [到達目標] 嗜好品の影響について理解できる	
	13回目	[備考] 嗜好品の成分を調べる ドーピング、薬物について [到達目標] ドーピング・薬物についての危険性を理解できる	
	14回目	生涯スポーツについて [到達目標] 生涯スポーツの必要性が理解できる	
	15回目	健康・スポーツをめぐる現状と今後の課題 [到達目標] 現状と今後の課題が理解できる	
授業時間外の学習（準備学習等）について	特になし		

教科書	使用しない
参考書	健康運動指導のための「健康管理概論」中村栄太郎編 杏林書院
成績評価	毎時間の授業終了時の小テスト(30%)、課題提出(新聞の切り抜き等)(20%)、最終試験(50%)で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森 利夫 研究室 : 広報推進室 メールアドレス : to_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
松久 ミユキ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック（有酸素的）な運動やスポーツを通して生活習慣病の予防や改善をはかる指導法の実際を学ぶ。（特に、レクリエーション・スポーツ、エアロビックダンス、ストレッチング、レジスタンス・トレーニング）		
授業計画	1	エアロビック運動やスポーツを通して、それぞれの特性や安全性を理解させ、その正しい基本動作を学習する。 運動生理学などで得た知識を基に、年齢や体力などを考慮した運動プログラムを作成し、誰でも手軽に安全に行える健康づくり運動やレクリエーション・スポーツの指導法などを実践する。	
	2	オリエンテーション 指導者としての資質や態度について	
	3	ジョギング・ウォーキングの特性について 準備運動の重要性と実際	
	4	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	5	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	6	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	7	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	8	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	9	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	10	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	11	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	12	エアロビックダンスについての説明 簡単なエアロビックダンスの実際	
	13	エアロビックダンスの特性についての説明 ベーシックなウォーミングアップの実際	
	14	エアロビックダンスの効果についての説明 ベーシックなメインダンス（アップとダウン）の実際	
	15	ベーシックなプログラムの作り方 パフォーマンスの説明（ステップの種類）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	健康運動実践指導者用テキストのDVDを学習する（レジスタンス） エアロビック・ダンスのDVDを学習すること		
教科書	健康運動実践指導者用テキストを利用する。		
参考書	なし		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席5分の4以上（評価50%） ・授業中の実技小テスト（評価25%） ・授業態度（評価25%） 		
担当教員の基本情報	担当教員名：松久 ミユキ（非常勤講師） 研究室： メールアドレス：m-matsuh@hanazono.ac.jp（URL） http://www.hanazono.ac.jp/ オフィスアワー： 担当教員名：山元 正史（非常勤講師） 研究室： メールアドレス：s-yamamo@hanazono.ac.jp（URL） http://www.hanazono.ac.jp/		
備考	トレーニングウエア上下・体育館シューズ		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>授業の前半では、スプリントドリルを中心に器具（ラダー・ミニハードルなどetc）を用いての運動や動的ストレッチを行いウォーミングアップの基本・実践を通して理解を深めさせる。 その後、陸上競技を中心とした三種目（短距離・跳躍・投擲）を行いスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。</p> <p>授業の後半では、エアロビック運動実習の選択科目でもあるバドミントンを中心に球技種目（バレーボール）を通してスポーツの幅広い知識や考え方を育てると共に、試合形式のゲームを通して技能・体力向上を図る。実習を通じて、スポーツの楽しさを実感してもらうことを目的とする。</p>
授業計画	<p>1 [授業概要] ガイダンス [到達目標] エアロビック運動実習の狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。</p> <p>2 [授業概要] ウォーミングアップ [到達目標] 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョッグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。</p> <p>3 [授業概要] 動的ストレッチ [到達目標] 動的ストレッチ（ダイナミック）の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点（関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運転などetc）がある事を理解させ実践させる。</p> <p>4 [授業概要] ラダートレーニング・ミニハードル [到達目標] ラダートレーニング・ミニハードルを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。</p> <p>5 [授業概要] 短距離走（基本・ドリル） [到達目標] 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>6 [授業概要] 三種競技（100m走） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。</p> <p>7 [授業概要] 跳躍種目（基本・ドリル） [到達目標] 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>8 [授業概要] 三種競技（走り幅跳び） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。</p> <p>9 [授業概要] 投擲種目（基本） [到達目標] 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>10 [授業概要] 三種競技（ボール投げ） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。 （なお10種競技・7種競技にボール投げ競技は無いため、男女共、槍投げの得点を使用する）</p> <p>11 [授業概要] バドミントン① 基本・基礎・ルール [到達目標] グリップの握り方・ストローク・サーブの基本から戦術的に使われるドロップ・ロブ・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュまでそれぞれ説明・反復練習を行い理解させる。 ゲームの進め方やルールを説明・理解させての反復練習を行い修得させる。</p> <p>12 [授業概要] バドミントン② ゲーム [到達目標] チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってダブルスゲームを行わせる。</p>

	13	[授業概要] バレーボール①基礎応用・ルール・ゲーム [到達目標] サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス・スパイクを中心に説明・反復練習を行い理解させる。 ゲームの進め方やルールの説明・理解させての反復練習を行い修得させる。
	14	[授業概要] バレーボール② 基礎応用・ゲーム [到達目標] チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってゲームを行わせる。
	15	[授業概要] バレーボール③ ゲーム [到達目標] チームを再編成し、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってゲームを行わせる。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度 50% 実技評価 30% 授業の貢献度 20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考		

講義科目名称：スポーツ心理学

授業コード：2H233

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
山本 世志男			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ心理学は、スポーツ活動と心理との関連性を扱う学問で、本科目では、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのスポーツ（一般スポーツ）によって生じる心理学的現象について学習するとともに、自らがスポーツを実践する場面、親として子供に接する場面等に应用できる行動様式・知識について具体的に学習する。		
授業計画	1回目	スポーツと心理とは スポーツとは	
	2回目	スポーツと心理（スポーツと心） スポーツ、こころ、健康	
	3回目	スポーツにおける動機づけ 動機づけ	
	4回目	コーチングの心理（1） 技能の練習と指導	
	5回目	コーチングの心理（2） プレイヤーの個人的指導と心理的問題	
	6回目	コーチングの心理（3） チームの指導と心理的問題	
	7回目	コーチングの心理（4） コーチング評価	
	8回目	メンタルマネージメント メンタルマネージメント	
	9回目	リラクセーション リラクセーション	
	10回目	イメージトレーニング イメージ	
	11回目	集中力のトレーニング 集中力	
	12回目	心理的コンディショニング コンディショニング	
	13回目	あがり、スランプ ストレス管理	
	14回目	指導者のメンタルマネージメント 指導者	
	15回目	総括（まとめ）	
授業時間外の学習 （準備学習等）について	テキストの他に次に示す本も読むこと。 林 成之（著）：「〈勝負脳〉の鍛え方」（講談社現代新書）		
教科書	「公認スポーツ指導者 養成テキスト 共通科目ⅠⅡ」（財団法人 日本体育協会）		
参考書	「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（財団法人日本体育施設協会）		
成績評価	出席状況及び小テスト、課題提出、期末試験をもとに総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：山本世志男（非常勤講師）	
	研究室	：	
	メールアドレス	：授業終了後	
	オフィスアワー	：授業終了後	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也, 川喜田健司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ・運動時の循環，呼吸，神経，筋，およびエネルギー代謝などの生体諸機能の変化および反応について，運動生理学的な視点から学習する。目的に応じた効果を得るためのトレーニング方法について，運動生理学的観点から考察できるようにする。
授業計画	<p>第1回 骨格筋の構造と機能 到達目標：オリエンテーション，筋の構造，興奮収縮連関，骨格筋のタイプについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第1章）</p> <p>第2回 筋力と筋パワー、筋肥大と損傷 到達目標：筋収縮の様式，筋力に影響する因子，筋パワー，トレーニングと筋力の変化，筋肥大のメカニズムについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第2章，第7章）</p> <p>第3回 神経系による運動の調節 到達目標：神経系の構造，ニューロンの構造，運動単位，筋力調節，反射運動，随意運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第3章）</p> <p>第4回 運動と筋ATP代謝 到達目標：ATP，エネルギー供給源，持久トレーニング，スプリントトレーニング，酸素摂取量，換気性作業閾値（VT），AT概念，エネルギー代謝，酸素利用能と基質利用との関連について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第4章）</p> <p>第5回 運動時の物質代謝 到達目標：糖質代謝，脂質代謝，蛋白質代謝，運動時の代謝，酸素借，EPOC，呼吸商，METs，乳酸代謝について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第6，10章）</p> <p>第6回 運動時のホルモン分泌 到達目標：ホルモン分泌と視床下部調節，運動とストレスホルモン，運動と脳，運動適応について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第5章）</p> <p>第7回 運動と呼吸・循環-1 到達目標：肺換気のメカニズム，死腔と肺胞換気量，呼吸の調節機構，運動時の心拍出量変化，スポーツ心臓について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第8章）</p> <p>第8回 運動と循環-2 到達目標：運動と血流配分，トレーニングによる血流の変化，毛細血管とトレーニングについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第9章）</p> <p>第9回 運動と酸化ストレス・骨代謝 到達目標：酸素と酸化ストレス，活性酸素の生成，運動と活性酸素，運動と骨量，運動時と不活動時のモデリング・リモデリング，運動ストレスと骨量変化 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第10章）</p> <p>第10回 運動と環境 到達目標：暑熱環境での運動と熱中症，水中での運動の特質，高地でのトレーニング効果について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第11章）</p> <p>第11回 運動と発達発育と加齢 到達目標：成長期のトレーナビリティ，筋系の発育発達パターン，加齢にともなう神経と筋の変化，高齢者のトレーニング効果について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第17，18章）</p> <p>第12回 生活習慣病と運動 到達目標：肥満と運動，高脂血症と運動，高血圧と運動，糖尿病と運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第16章）</p> <p>第13回 運動処方 到達目標：体力測定，健康と運動の関係，高齢者の運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第15章）</p> <p>第14回 水分と栄養摂取 到達目標：栄養の概念，栄養と身体の構成，運動時の糖補給について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。（第14章）</p> <p>第15回 まとめ 到達目標：この科目での学習範囲について理解した上で，スポーツ・運動時の機能変化，及び適切なトレーニングを説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	該当分野に関して，教科書を熟読し，その上で配布プリントにて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし，それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。

教科書	『運動生理学20講（第3版）』勝田 茂, 征矢英昭 編著（朝倉書店）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学, スポーツ生理学関連の本
成績評価	期末試験の結果（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階 林（知）教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 川喜田健司 研究室 : 1号館2階 川喜田教授室 メールアドレス : k_kawakita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日17:00-18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：8コマ	授業形態：講義	

授業目標	現代医学における分子遺伝学・遺伝子工学の急速な進歩は、それを理解する知識がなければ新世紀の医療の発展に全く無頓着になってしまう。本講義は学生諸子の基礎的な生物学の知識を前提として展開する予定である。染色体とDNAの複製・組換えに加え、翻訳後の蛋白質の分解を講義した後に、先端医療の文献に披露される諸項目が少しでも身近に感じられるように、先端遺伝子工学を解説する。気楽にしかし意欲を持って参加してもらいたい。
授業計画	<p>第1回目 細胞とDNA、クロマチン、染色体 [到達目標] DNA、染色体の物質的、機能的根本について説明できる。 [備考] 細胞とDNA、クロマチン、染色体の構造。分子遺伝学の中心教義。</p> <p>第2回目 DNA複製 [到達目標] クロマチン、染色体の構造と複製機構について説明できる。 [備考] クロマチンの構造とDNA複製機構。複製起点と複製機序。</p> <p>第3回目 複製と校正、相同組換え、DNA損傷修復 [到達目標] 複製酵素と校正。相同組換えについて説明できる。 [備考] DNA損傷の修復。組換え機構と遺伝の関係。DNA損傷の修復の意義を理解する。</p> <p>第4回目 遺伝子発現調節、転写を中心に [到達目標] 転写の基本とmRNAプロセッシングについて説明できる。 [備考] 非翻訳領域の機能。遺伝子転写と転写産物のその後の分子機構。</p> <p>第5回目 転写後調節（翻訳と翻訳調節） [到達目標] タンパク質への翻訳機構とその調節について説明できる。 [備考] 遺伝子発現調節の最終ステップとしての翻訳調節の分子機構を理解する。</p> <p>第6回目 先端遺伝子工学1（タンパク質分解） [到達目標] タンパク質の寿命と変性、その処理からタンパク質の品質管理について説明できる。 [備考] 変性蛋白質の分解、オルガネラの分解機構について、プロテアソームやオートファゴソームまでの新しい知見を紹介する。</p> <p>第7回目 先端遺伝子工学2 [到達目標] 遺伝子操作の概論とその応用について説明できる。 [備考] 遺伝子操作の概論とその応用範囲の例を紹介する。</p> <p>第8回目 先端遺伝子工学3 [到達目標] 先端遺伝子工学について説明できる。 [備考] 時事問題に関連した先端遺伝子工学の例について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	特に準備は必要ないが、基礎生物学、生化学に関連する分野をきちんと理解している必要はある。入学後のこれらの講義をきちんと受講すること。化学反応や化学構造式にアレルギーがあるようでは難しい。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	細胞の分子生物学 (Molecular Biology of the Cell 日本語版 B. Alberts 他) ニュートンプレス Essential細胞生物学 B. Alberts 他 南江堂
成績評価	出欠をとり、2/3の出席に満たない者は単位がない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehiose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
糸井 啓純			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>観血的治療としての外科学の基礎を総論と各論に分けて理解する。近年の外科学の進歩は目を見張るものがある。この半世紀に外科系の臨床医学は手術、麻酔、消毒、輸液等の進歩で飛躍的に発展を遂げた。しかし、外科学において普遍的に押さえておくべきポイントがある。前半の総論は外科学の基本である損傷、炎症、外科的感染症などについて、後半の各論は臓器別に外科的治療を解説する。講義へ積極的に参加し、幅広い医学的知識をもつことをこの講義の目標とする。</p> <p>外科学の講義は基礎医学（解剖学・生理学・病理学など）と臨床医学（内科学）の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点をメモし、教科書や参考書に戻って、再確認することが大切です。国家試験に出題される外科分野の問題は、たとえば、救急蘇生がその例で、新しい知識、考え方が要求されています。大規模災害やAEDの登場で、一般人の知識レベルが格段に上がっている中で、医療に携わる者として、必要不可欠な知識をしっかり学んでいただきたい。</p>
授業計画	<p>1回目 外科学概論 損傷と創傷（熱傷を含む） 糸井教授 外科学概論、損傷と創傷（機械的、非機械的損傷）について、その病態と治療を学ぶ。とくに熱傷を理解する。「創」と「傷」の違いを理解する。 授業時間外学習の指示等：外科とは何か予習する。創傷、特に熱傷について復習する。受験ポイントマスター(103-110, 135-138)</p> <p>2回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、感染症の概念を理解する。外科的感染症の治療（外科的処置）を理解する。無菌法、消毒法の実際を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：消毒法について予習する。外科的処置、消毒法について復習する。受験ポイントマスター(111-116)</p> <p>3回目 腫瘍の診断と治療、外科的栄養管理 糸井教授 腫瘍の検査法と治療法（手術・化学、放射線療法）を学ぶ。栄養管理（輸液・経腸栄養）を学び、栄養サポートチーム(NST)の意義を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍の診断と治療ならびに栄養管理（輸液・経腸栄養）について、予習する。受験ポイントマスター(117-126, 128-132)</p> <p>4回目 ショック、出血と止血法、輸血法、心肺蘇生法 神山教授 ショックの概念・分類を学ぶ。ショックに対する心肺蘇生法、一次救命処置を、AEDを含めて理解する。出血に対する止血法、輸血法を学ぶ。あわせて移植医療を理解する。 授業時間外学習の指示等：AEDについて予習する。心肺蘇生法、一次救命処置、輸血法、移植医療を復習する。受験ポイントマスター(126-131, 145-151)</p> <p>5回目 消化器外科の外科治療と内視鏡手術 糸井教授 消化器癌（食道癌・胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌・胆嚢癌など）の外科治療を学ぶ。とくに胃癌の外科手術を理解する。最新の腹腔鏡手術を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍について予習する。受験ポイントマスター(117-126) 消化器癌の外科治療を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 135-138)</p> <p>6回目 急性腹症（腹部外傷を含む）の診断と治療 糸井教授 腹部外傷を含めた腹部外科疾患から急性腹症の診断と治療、とくに腸閉塞、腹膜炎について、学ぶ 授業時間外学習の指示等：配布したプリントをもとに、手術が必要な疾患を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 170-172)</p> <p>7回目 胸部外傷と呼吸器外科 糸井教授 胸部外傷（気胸・血胸）の胸腔ドレナージなどの外科的処置を理解する。肺癌の診断、治療を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：気胸について予習する。胸部外傷、気胸・血胸の病態と治療を復習する。受験ポイントマスター(42-46, 161-165)</p> <p>8回目 血管外科と内分泌外科（乳腺疾患） 神山教授 血管疾患の外科治療 大動脈瘤・動脈閉塞症・静脈疾患の外科治療について理解する。内分泌外科では乳腺疾患の外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：受験ポイントマスター(169-170, 166,) 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>外科学の総論・各論について 外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。それでも解決できない場合は、講義終了後やオフィスアワーに質問をしてください。</p>
教科書	<p>「外科学概論。改訂第4版 炭山嘉伸編（全国柔道整復学校協会監修）」（南江堂） 「受験ポイントマスター 柔道整復編 執筆小委員会編著」（医道の日本社）絶版</p>
参考書	<p>「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 決編（金芳堂）絶版 「標準外科学」第14版 小柳 仁編（医学書院） 「国民衛星の動向2016/2017」（厚生労働統計協会）</p>
成績評価	<p>定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。</p>

担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井 啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00 担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
野村 麻由子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	現代医学に置いて外科手術の様に身体に取って大きな侵襲を加える処置は不可欠である。このような処置を安全に行う手段として、意識を取り痛みを抑え身体の安定を図る医療技術として麻酔科学は発展してきた。現代医学を理解する上で避けて通れない麻酔科学の概要を 代表的な薬剤の働きと病態生理学的背景を通して理解することが本講義の目標である。麻酔科学を元に発展して来た鎮痛法に関しても合わせて解説する。		
授業計画	1	総論 麻酔の意義、歴史、種類（全身麻酔と局所麻酔） 麻酔科関連領域（集中治療、ペインクリニック、緩和医療など）	
	2	全身麻酔に用いる薬剤 全身麻酔薬、筋弛緩薬など	
	3	全身管理に必要な生体監視装置（モニター） 意識消失時の危険 呼吸器系モニター、循環器系モニター、その他	
	4	全身麻酔の実際① 術前のリスク評価と準備	
	5	全身麻酔の実際② 術中の全身管理	
	6	痛みのメカニズムと各種鎮痛薬、術後疼痛管理 痛みの伝達機構	
	7	局所麻酔 局所麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔 神経ブロック法など	
	8	まとめ 試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義ではレジメを配布しますが、講義を聞かずにそれだけを勉強するのは理解が難しく、また非効率的です。麻酔科学は、基礎では解剖学・生理学・薬理学、臨床では内科学や外科学とも深い関連があります。必ず授業計画の備考欄にあげた予習あるいは復習をしてくるようにしてください。		
教科書	指定しない		
参考書	標準麻酔科学(第6版) 医学書院		
成績評価	講義の出席と定期試験により評価を行います。		
担当教員の基本情報	担当教員名	野村 麻由子	
	研究室	附属病院2階医局	
	メールアドレス	m_nomura@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	火曜日12:00-13:00	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏・秋津 知宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	整形外科学は運動器の医学であり、柔道整復学と関連しているところが存在する。整形外科学で取り扱う部位としては脊柱・骨盤・四肢で、対象とする組織は骨・関節・筋・靭帯・腱・脊髄・神経であり、これらの組織の外傷・障害・炎症・腫瘍などについて診断・治療・研究をすすめていく学問である。 整形外科学各論においては、運動器の種々の損傷・障害について教授され、医療人として、適切な処置を講ずるための知識を修得することを目標とする。
授業計画	<p>1回目 講義概要、整形外科各論について、疾患別各論：感染性疾患 1. 講義の概要と授業のすすめ方を理解する。 2. 感染性疾患の種類・原因・症状・検査・診断・治療法等を学ぶ。</p> <p>2回目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍 1. 骨および軟部腫瘍の種類・原因・症状・検査を学ぶ。 2. 骨および軟部腫瘍の診断・治療法等を学ぶ。</p> <p>3回目 疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患 1 1. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患を学ぶ。 2. 非感染性軟部・骨関節疾患の疾患概念・症状・診断・治療を学ぶ。 ※関節の構造について予習しておくこと。</p> <p>4回目 疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患 2 1. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患を学ぶ。 2. 非感染性軟部・骨関節疾患の疾患概念・症状・診断・治療を学ぶ。 ※関節の構造について予習しておくこと。</p> <p>5回目 疾患別各論：全身性骨・軟部疾患 1. 全身性骨・軟部疾患の定義を学ぶ。 2. 全身性骨・軟部疾患の種類・疾患概念・症状・検査またはX線像・治療を学ぶ。 ※骨の部位別障害について予習しておくこと。</p> <p>6回目 疾患別各論：骨端症、四肢循環障害 1. 骨端症の種類・疾患概念・症状・検査またはX線像・治療を学ぶ。 2. 四肢循環障害の疾患概念・症状・診断・予防法・治療等を学ぶ。 ※四肢・体幹部の脈管について予習しておくこと。</p> <p>7回目 疾患別各論：神経・筋疾患、神経麻痺と絞扼神経障害、腕神経叢損傷、分娩麻痺 1. 神経麻痺と絞扼神経障害の疾患概念・症状・診断・治療等を学ぶ。 2. 腕神経叢損傷、分娩麻痺等の疾患概念・症状・診断・治療等を学ぶ。 ※脊髄神経について予習しておくこと。</p> <p>8回目 疾患別各論：神経・筋疾患、全身性の神経・筋疾患 1. 全身性の神経・筋疾患の疾患概要を知る。 2. 脊髄腫瘍の疾患概念・症状・診断・治療等について学ぶ。 3. 脊髄損傷の疾患概念・症状・診断・治療等について学ぶ。 ※脊髄について予習しておくこと。</p> <p>9回目 まとめ 1 1. 感染性疾患・骨および軟部腫瘍および非感染性軟部・骨関節疾患、全身性骨・軟部疾患、神経・筋疾患の原因、症状、鑑別診断、施術目的・方法、施術上の注意ならびに生活指導等の理解度を確認する。 ※上記疾患について習熟しておくこと。</p> <p>10回目 身体部位別各論：体幹；頸部、胸部、腰部の損傷 1. 頸部・胸部・腰部の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 頸部・胸部・腰部の損傷について学ぶ。 ※頸部・胸部・腰部の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>11回目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 1；肩・肩甲帯、上腕・肘関節の損傷 1. 肩・肩甲帯、上腕・肘関節の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 肩・肩甲帯、上腕・肘関節の損傷について学ぶ。 ※肩・肩甲帯、上腕・肘関節の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>12回目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 2；前腕、手関節、手・手指の損傷 1. 前腕、手関節、手・手指の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 前腕、手関節、手・手指の損傷について学ぶ。 ※前腕、手関節、手・手指の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>13回目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 1；骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷 1. 骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷について学ぶ。 ※骨盤・股関節、大腿・膝関節の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>14回目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 2；下腿・足関節、足・足趾の損傷 1. 下腿・足関節、足・足趾の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 下腿・足関節、足・足趾の損傷について学ぶ。 ※下腿・足関節、足・足趾の機能解剖について予習しておくこと。 3. 体幹、肩甲帯および上肢、骨盤および下肢の疾患について理解度を確認する。</p> <p>15回目 まとめ 2 1. 体幹、肩甲帯および上肢、骨盤および下肢の疾患における損傷および疾患の成因、症状、診</p>

	<p>断、治療等の習熟度を確認する。 ※身体部位における損傷および疾患について習熟しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>各授業計画の項目内に※印で示す予習内容を記載している。 また授業後においては教授内容の復習をおこなうものとする。</p>
教科書	<p>整形外科学 改訂第3版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂</p>
参考書	<p>「標準整形外科学 第12版」 内田淳正 監修 (医学書院) 「柔道整復学・理論編 第5版」 (社) 全国柔道整復学校協会 監修 (南江堂) 「解剖学 第2版」 (社) 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)</p>
成績評価	<p>成績評価は、所定の授業出席数を満たした者を対象として、筆記試験(中間試験と前期末試験)80%、出席状況20%の割合で評価する。合格点は60点以上とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、17-18時</p> <p>担当教員名 : 秋津知宏 研究室 : 8号館4F講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
木村 篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>【教育目標】本講では、リハビリテーション総論と各論に大別して講義を進める。総論ではリハビリテーションの概念、歴史的な位置付けと医学的リハビリテーションについて学習し、各論では各疾患に対する具体的なリハビリテーションと、臨床で実際行われている運動療法とそれに関する運動メカニズムについて学習する。</p> <p>【教育概要】総論では、リハビリテーションの概念と歴史的な位置付け、また医学的リハビリテーションの対象、評価方法などについて講義する。</p> <p>各論では、脳卒中、脳性麻痺、脊髄損傷、運動器疾患、呼吸器疾患、心疾患など多くの疾患の具体的な内容をあげ、その疾患と障害についての各々のリハビリテーションについて教授する。また、柔道整復学科においては、骨折後のリハビリテーションに関する知識が重要であることから、具体的な内容を挙げそれらに対するリハビリテーションについて教授する。</p>
授業計画	<p>1回 日本における医学の歴史とリハビリテーション [授業概要] 日本における医学の歴史、特に伝統医学とリハビリテーションの関連について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>2回 リハビリテーション総論1 [授業概要] 西洋医学におけるリハビリテーションの歴史について学習する。 国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>3回 リハビリテーション総論2 [授業概要] 評価について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>4回 リハビリテーション各論 脳血管障害1 [授業概要] 脳卒中の種類と発生機序について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>5回 リハビリテーション各論 脳血管障害2 [授業概要] 脳卒中と脳の障害（高次脳機能障害）に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>6回 リハビリテーション各論 脳血管障害3 [授業概要] 脳卒中と脳の障害（運動麻痺）に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>7回 リハビリテーション各論 脊髄損傷 [授業概要] 脊髄損傷に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>8回 リハビリテーション各論 脳性麻痺・切断 [授業概要] 脳性麻痺・切断に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>9回 リハビリテーション各論 呼吸器・循環器疾患 [授業概要] 呼吸器疾患、心疾患に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>10回 リハビリテーション各論 神経難病・高齢者 [授業概要] 神経難病・高齢者に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>11回 リハビリテーション各論 運動器疾患 [授業概要] 肩関節疾患・腰痛・変形性関節症などの運動器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p>

	12回	骨折 総論 [授業概要] 骨折の分類・治癒過程などについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。
	13回	リハビリテーション各論 骨折 上肢 [授業概要] 鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨など、上肢の骨折に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。
	14回	リハビリテーション各論 骨折 下肢 [授業概要] 骨盤、大腿骨、下腿骨、足根骨などの骨折に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。
	15回	試験の実施 第1回～第14回の講義内容を踏襲した試験を実施。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習として、次講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。また復習として、講義内容に関して再度教科書を熟読するとともに、講義内に実施した確認テストの内容を再度確認し、内容に不明な点があれば該当する教科書および参考書の項目を熟読すること。それでも解決しない場合は、担当教員にメールで連絡し、オフィスアワーに質問すること。	
教科書	社団法人全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 リハビリテーション医学 南江堂 Hoppenfeld, S. & Murthy, V. L著/江藤文夫他監訳 骨折の治癒とリハビリテーション 南江堂	
参考書	平澤泰介、田島文博 (編集) リハビリテーション医療 金芳堂	
成績評価	学年末試験の得点から、正当な理由のない欠席は10点、遅刻は5点をその回数分減点し、その点数により成績を評価する。その結果、合格点に達しない場合は追試験を実施する。	
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：なし (附属病院総合リハビリテーションセンターまで) メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本演習では、関節における傷害の評価と障害の評価について教授する。関節における傷害の評価とは、柔道整復師の業務のうち外傷直後に対応できる能力を養うものであり、関節における障害の評価とは、外傷後に生じる可能性のある障害を予測・予防する能力を養うものであり、そのための各種検査法の実践的な運用方法ならびに判断基準を教授する。
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション 〔 授業概要 〕 本演習の履修目的を解説し、関節における傷害と障害を理解し、柔道整復師として「やらなければならないこと」、「やってはならないこと」を教授する。 〔 到達目標 〕 前年度からの繋がりとして本演習の履修目的を説明することができる。</p> <p>2 回目 肩関節の関節評価法 〔 授業概要 〕 肩関節における傷害の評価を教授する。 〔 到達目標 〕 肩関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>3 回目 肩関節の関節評価法 （ 2 ） 〔 授業概要 〕 肩関節における傷害の評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 肩関節における傷害の評価を実施することができる。</p> <p>4 回目 肘・前腕の関節の関節評価法 （ 1 ） 〔 授業概要 〕 肘・前腕の関節における傷害の評価を教授する。 〔 到達目標 〕 肘・前腕の関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>5 回目 肘・前腕の関節の関節評価法 （ 2 ） 〔 授業概要 〕 肘・前腕の関節における傷害の評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 肘・前腕の関節における傷害の評価を実施することができる。</p> <p>6 回目 手関節の関節評価法 （ 1 ） 〔 授業概要 〕 手関節における傷害の評価を教授する。 〔 到達目標 〕 手関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>7 回目 手関節の関節評価法 （ 2 ） 〔 授業概要 〕 手関節における傷害の評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 手関節における傷害の評価を実施することができる。</p> <p>8 回目 手指関節の関節評価法 （ 1 ） 〔 授業概要 〕 手指関節における傷害の評価と評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 手指関節における傷害の評価を説明し、評価を実施することができる。</p> <p>9 回目 股関節の関節評価法 （ 1 ） 〔 授業概要 〕 股関節における傷害の評価を教授する。 〔 到達目標 〕 股関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>1 0 回目 股関節の関節評価法 （ 2 ） 〔 授業概要 〕 股関節における傷害の評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 股関節における傷害の評価を実施することができる。</p> <p>1 1 回目 膝関節の関節評価法 （ 1 ） 〔 授業概要 〕 膝関節における傷害の評価を教授する。 〔 到達目標 〕 膝関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>1 2 回目 膝関節の関節評価法 （ 2 ） 〔 授業概要 〕 膝関節における傷害の評価の実際を教授する。 〔 到達目標 〕 膝関節における傷害の評価を実施することができる。</p>

	<p>1 3 回目 足関節の関節評価法 (1) [授業概要] 足関節における傷害の評価を教授する。 [到達目標] 足関節における傷害の評価を説明することができる。</p> <p>1 4 回目 足関節の関節評価法 (2) [授業概要] 足関節における傷害の評価の実際を教授する。 [到達目標] 足関節における傷害の評価を実施することができる。</p> <p>1 5 回目 まとめ 演習全体を通じて理解が不十分であった部分を再度教授する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義範囲について事前に教科書を熟読しておくこと。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	出席状況と授業中の態度 (50%)、講義直後に実施する小テストの結果 (50%) により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワー : 講義日程が決まり次第、講義にて連絡する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	本実習では、前年度履修した「機能解剖学実習」と前期に履修した「関節評価法」および「後療法技術学演習」の知識・技術を用いて、関節傷害により生じる可能性のある関節障害を予測し予防する、あるいは生じた関節障害を改善するための手法を選択する判断基準となる評価法を習得することを目標とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 〔授業概要〕 本実習は次年度の「臨床実習」を可能にするための知識・技術の習得を目的とし、初年時の「解剖学」、二年時の「運動機能解剖学」、「機能解剖学実習」、三年前期の「関節評価法」、「後療法技術学演習」の知識・技術を基盤とし、それを臨床的に応用できる能力を習得することが目的であることを解説する。 〔到達目標〕 本実習の目的を説明することができる。</p> <p>2回目 肩関節の関節評価法 (1) 〔授業概要〕 肩関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 肩関節に生じている現象を説明することができる。</p> <p>3回目 肩関節の関節評価法 (2) 〔授業概要〕 肩関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 〔到達目標〕 肩関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>4回目 肘・前腕の関節の関節評価法 (1) 〔授業概要〕 肘・前腕の関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 肘・前腕の関節に生じている現象を説明することができる。</p> <p>5回目 肘・前腕の関節の関節評価法 (2) 〔授業概要〕 肘・前腕の関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 〔到達目標〕 肘・前腕の関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>6回目 手関節の関節評価法 (1) 〔授業概要〕 手関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 手関節に生じている現象を説明することができる。</p> <p>7回目 手関節の関節評価法 (2) 〔授業概要〕 手関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 〔到達目標〕 手関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>8回目 股関節の関節評価法 (1) 〔授業概要〕 股関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 股関節に生じている現象を説明することができる。</p> <p>9回目 股関節の関節評価法 (2) 〔授業概要〕 股関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 〔到達目標〕 股関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>10回目 膝関節の評価法 (1) 〔授業概要〕 膝関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 膝関節に生じている現象を説明することができる。</p> <p>11回目 膝関節の評価法 (2) 〔授業概要〕 膝関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 〔到達目標〕 膝関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>12回目 足関節評価法 (1) 〔授業概要〕 足関節に生じている現象を理解するための手法を教授する。 〔到達目標〕 足関節に生じている現象を説明することができる。</p>

	<p>1 3 回目 足関節評価法 (2) [授業概要] 足関節に生じている現象に対して実施すべき手法を教授する。 [到達目標] 足関節に生じている現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>1 4 回目 体幹の評価法 [授業概要] 体幹に生じている現象を理解し、その現象に対して実施すべき手法を教授する。 [到達目標] 体幹に生じている現象とその現象に対して実施すべき手法を説明することができる。</p> <p>1 5 回目 まとめ 実習全体を通じて理解不十分な部分について、再度教授する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	履修した内容の模倣ができるように、自らの日常生活の中で、自らの身体を用いて反復学習を行うこと。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	出席状況と授業中の態度 (50%)、講義中に記載する評価の内容 (50%) により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワー : 講義日程が決定し次第、講義にて連絡する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
神内 伸晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	手関節・手指における骨折・脱臼・軟部組織損傷についての発生機序、症状、治療方法について学び、各外傷について理解することを目標とする。		
授業計画	第1講義	授業オリエンテーション・前腕骨の骨折（コーレス骨折・スミス骨折） 本授業の概要と学習方法について説明を行う。その後、上記テーマについての授業を行う。 前腕骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第2講義	前腕骨の骨折（ショーファー・パートン骨折） 前腕骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第3講義	手根骨骨折（舟状骨骨折）について 手根骨骨折（舟状骨骨折）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第4講義	月状骨骨折とその他の手根骨骨折について 月状骨骨折とその他の手根骨骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第5講義	中手骨の骨折について 中手骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第6講義	第1中手骨基部骨折、基節骨の骨折について 第1中手骨基部骨折、基節骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第7講義	中節骨・末節骨の骨折（マレットフィンガー）について 中節骨・末節骨の骨折（マレットフィンガー）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第8講義	手関節および手指部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼）について 手関節および手指部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第9講義	手根中手関節脱臼について 手根中手関節脱臼における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第10講義	近位指節間（PIP）関節脱臼について 近位指節間（PIP）関節脱臼における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。	
	第11講義	手関節および手指部の障害（キーンバック病・ばね指・ドゥケルバン病）について 手関節および手指部の障害（キーンバック病・ばね指・ドゥケルバン病）発生機序、症状、固定、後療法について学ぶ。	
	第12講義	ロッキングフィンガー、末梢神経障害について ロッキングフィンガー、末梢神経障害における発生機序、症状、固定、後療法について学び理解することを目的とする。	
	第13講義	手指における疾患・手指の変形を生じる疾患について 手指の変形をきたす疾患における発生機序、症状、固定、後療法について学び理解することを目的とする。	
	第14講義	総合復習 本授業で行った内容について再度復習し、理解を深めることを目的とする。	
	第15講義	総合評価（まとめ） 本授業で行った内容について評価を行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各分野の外傷または障害について理解する。授業内で理解できない部分を記載して次の授業までに自習または担当教員に質問を行い理解するようにする。		
教科書	柔道整復学・理論編 全日本柔道整復学校協会編、南江堂 7665円（税込）		
参考書	「標準整形外科学」第12版：著者 松野丈夫 医学書院		
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。 筆記試験90%、出席および授業態度10%		
担当教員の基本情報	教員氏名：神内伸晃 研究室：8号館4階講師室 オフィスアワー：授業日の17：30～18：30		
備考			

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
秋津 知宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	この科目では、柔道整復師が診る上で重要な肘関節周辺の外傷である骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・上腕骨骨幹部骨折 上腕骨骨幹部骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第2回	上腕骨顆上骨折 上腕骨顆上骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第3回	上腕骨外顆骨折 上腕骨外顆骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第4回	肘頭骨折 肘頭骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第5回	モンテギア骨折・ガレアジ骨折 モンテギア骨折・ガレアジ骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第6回	橈・尺両骨骨幹部骨折 橈・尺両骨骨幹部骨折における整復法、固定法、後療法について理解し整復法・固定法を行えることを目的とする。	
	第7回	橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折①） 橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における整復法、固定法、後療法について実技を交えて学ぶ。	
	第8回	橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折②） 橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における整復法、固定法、後療法について実技を交えて学ぶ。	
	第9回	肘関節脱臼① 肘関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法について実技を交えて学ぶ。	
	第10回	肘関節脱臼② 第9回の内容を復習し、肘関節脱臼におけるその他の整復法について実技を交えて学ぶ。	
	第11回	肘内障 小児の関連疾患についての知識を復習し、小児の問診などの注意点をふまえて肘内障の整復法について実技を交えて学ぶ。	
	第12回	肘関節部の軟部組織損傷① 肘関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、理学検査、固定法、後療法について実技を交えて学ぶ。	
	第13回	肘関節部の軟部組織損傷② 肘関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、理学検査、固定法、後療法について実技を交えて学ぶ。	
	第14回	予備日	
	第15回	まとめ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。		
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）		
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第5版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）		
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。 授業態度20%、試験80%で総合評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋津 知宏 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間		
備考			

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
秋津 知宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	頭部・顔面・脊椎に生じる骨折・脱臼・軟部組織損傷について理解し、それらに対する発生机序、症状、検査法、治療法などを習得することを目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 顔面部の骨折① 頭蓋骨骨折、眼窩底破裂骨折、上顎骨骨折などを理解する。	
	第2回	顔面部の骨折② 頬骨骨折、鼻骨骨折、下顎骨骨折などを理解する。	
	第3回	顔面部の脱臼 顎関節脱臼などを理解する。	
	第4回	顔面部の軟部組織損傷① 外傷性顎関節損傷、頭部や顔面部打撲などを理解する。	
	第5回	顔面部の軟部組織損傷② 顎関節症を理解する。	
	第6回	胸部の骨折 肋骨骨折、胸骨骨折などを理解する。	
	第7回	胸部の軟部組織損傷 胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲などを理解する。	
	第8回	脊椎部の骨折① 頸椎骨折、胸椎および腰椎骨折などを理解する。	
	第9回	脊椎部の骨折② 頸椎骨折、胸椎および腰椎骨折などを理解する。	
	第10回	脊椎部の骨折③ 頸椎骨折、胸椎および腰椎骨折などを理解する。	
	第11回	脊椎部の脱臼 頸椎脱臼、胸椎脱臼などを理解する。	
	第12回	脊椎部の軟部組織損傷① 頸部捻挫、頸部の疾患などを理解する。	
	第13回	脊椎部の軟部組織損傷② 胸背部と腰部の軟部組織損傷などを理解する。	
	第14回	総復習 今までの講義を振り返り、総復習を行う。	
	第15回	総合評価	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書の発生机序の所を熟読する。 講義等で、わからない部分があれば質問して解決すること。		
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第5版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)		
参考書	「標準整形外科学 第12版」 内田淳正 監修 (医学書院)		
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。 それ以外に、授業態度等も加味し、総合評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋津 知宏 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
秋津 知宏・濱口 夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷を正しく理解する。柔道整復師の業務範囲の判別・鑑別を行えるようにする。保存療法の限界を知り、範疇の損傷についての処置を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・膝包帯 膝関節の基礎包帯を復習し、応用包帯を習得する。</p> <p>第2回 下腿包帯 下腿部の基礎包帯を復習し、応用包帯を習得する。</p> <p>第3回 足関節包帯 足関節の基礎包帯を復習し、応用包帯を習得する。</p> <p>第4回 膝関節の圧痛点 前回までの包帯を復習し、膝関節疾患の圧痛点を確認する。</p> <p>第5回 膝軟部組織損傷の徒手検査1 膝関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、徒手検査の方法を習得する。</p> <p>第6回 膝軟部組織損傷の徒手検査2 膝関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、徒手検査の方法を習得する。</p> <p>第7回 膝軟部組織損傷の固定1 厚紙副子を用いた膝関節部の固定を習得する。</p> <p>第8回 膝軟部組織損傷の固定2 厚紙副子を用いた膝関節部の固定を習得する。</p> <p>第9回 足関節の圧痛点・徒手検査 前回までの包帯を復習し、足関節疾患の圧痛点の確認をし、徒手検査の方法を習得する。</p> <p>第10回 足関節捻挫の固定1 アキレス腱断裂の症状、治療法について理解し、治療を行えることを目的とする</p> <p>第11回 足関節捻挫の固定2 足関節捻挫における症状、検査法、固定方法について理解し、検査、固定法を行えることを目的とする</p> <p>第12回 下肢軟部組織損傷の後療法 下肢軟部組織損傷の後療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>第13回 まとめ 本実習で行った内容について復習し、理解を深めることを目的とする。</p> <p>第14回 まとめ 本実習で行った内容について復習し、理解を深めることを目的とする。</p> <p>第15回 まとめ 本実習で行った内容について復習し、理解を深めることを目的とする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を熟読し予習・復習を行う。授業時毎に配布する資料に授業内で理解または体得出来ない部分を記載して次の授業までに自習または教員に聞き、理解・体得する。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2班(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	教員作成資料
成績評価	試験80%、授業出席20%の総合評価を行う
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 秋津 知宏 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_akitsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : n_hanaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
神内 伸晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>体幹部（頭部・顔面・脊椎）の領域における損傷について、柔道整復師が扱う傷害に対する観察（診察）方法ならびに傷害に応じた施術（治療）方法および生活指導などを実技を通して教授する。</p> <p>授業目標は、体幹部の領域における損傷に対して柔道整復術の適否をみきわめ、医療人として適切な処置を施す技能を修得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>授業概要 ガイダンス・基礎知識の確認 授業の進行動態を理解する。 頭部・顔面部の解剖学的構造と機能を理解する。</p> <p>授業各論 1 頭部・顔面の損傷（顎関節脱臼）の診察法・治療法 顎関節脱臼の分類・発生機序・症状等を復習するとともに、診察・所見ならびに治療法（整復法・固定法）を体得する。 顎関節の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 2 頭部・顔面の損傷（顎関節症）の診察法・治療法 顎関節症の分類や症状等を復習するとともに、咀嚼筋障害に対する治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。 顎関節周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 3 頸部の損傷（頸部捻挫：寝違え、むちうち損傷ほか）の診察法 頸部捻挫の分類や症状等を復習するとともに、頸部捻挫を分類・鑑別するための診察法（理学検査：知覚、反射、筋力等）を体得する。 頸椎周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 4 頸部の損傷（頸部捻挫：寝違え、むちうち損傷ほか）の治療法 頸部捻挫の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。 頸椎周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 5 頸部の疾患（胸郭出口症候群）の診察法 胸郭出口症候群の分類や症状等を復習するとともに、胸郭出口症候群を分類・鑑別するための診察法を体得する。 胸郭出口周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 6 頸部の疾患（胸郭出口症候群）の治療法 胸郭出口症候群の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。 胸郭出口周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 7 胸部の損傷（肋骨骨折・肋軟骨骨折）の診察法・治療法 肋骨骨折・肋軟骨骨折の発生機序、骨折転位および症状等を復習するとともに、肋骨骨折・肋軟骨骨折の治療法特に固定法を体得する。 胸郭の解剖学的構造・機能を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 8 前半部復習 前半部領域（顎関節、頸部、胸郭出口部および胸郭・肋骨等）における損傷に対して、的確な柔道整復術が行えるように復習する。</p> <p>授業各論 9 中間評価 前半部領域（顎関節、頸部、胸郭出口部および胸郭・肋骨等）における損傷に対して、的確な柔道整復術が行えるかを評価する。</p> <p>授業各論 10 腰部の損傷（軟部組織損傷：関節性・靭帯性・筋・筋膜性等）に対する診察法 腰部軟部組織損傷について、患者の年齢、症状、所見等から病態を鑑別・分類できる知識と技能を養う。 腰部の筋・関節・靭帯を主に解剖学的構造を予習しておく。</p> <p>授業各論 11 腰部の損傷（軟部組織損傷：関節性・靭帯性・筋・筋膜性等）に対する治療法 腰部軟部組織損傷に対する非観血的治療法として、腰痛体操をとりあげ、その手法を習熟する。 腰部の筋・関節・靭帯を主に解剖学的構造を予習しておく。</p> <p>授業各論 12 腰部の疾患（腰部椎間板ヘルニア等）に対する診察法 腰部椎間板ヘルニアの鑑別診断に用いる徒手検査法ならびに腰部椎間板ヘルニアの高位診断に用いられる検査法（神経学的検査法：脊髄神経の分節性知覚領域、徒手筋力検査法、反射所見等）を習得する。 神経学的検査法の判定法を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 13 腰部の疾患（腰部椎間板ヘルニア等）に対する治療法 腰部椎間板ヘルニアの症状に応じた治療法（手技療法、物理療法等）を習得する。 腰部から下肢にかけての解剖学的構造（筋、神経等）を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 14 後半部復習 腰・下肢の損傷・疾患に対する診察法と治療法に関する総復習をおこなう。 腰部の損傷・疾患、検査法、治療法を予習しておくこと。</p> <p>授業各論 15 評価 腰・下肢の損傷・疾患の症状、施術目的・施術方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などの習熟状況を評価する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）に	<p>身体各部の構造すなわち解剖学的知識、特に授業ですすめていく頭部・顎関節部から頸部、胸部および腰部の領域の身体構造を理解するために、授業前に解剖学書などで自学自習を行うこと。</p>

ついて	
教科書	「柔道整復学・理論編 第5版」 (社) 全国柔道整復学校協会 監修 (南江堂) 「柔道整復学・実技編 第2版」 (社) 全国柔道整復学校協会 監修 (南江堂)
参考書	「標準整形外科学 第12版」 内田淳正 監修 (医学書院)
成績評価	成績評価は、所定の授業出席回数を充たした者に対して、中間試験 (実技試験中心) と期末試験 (実技試験中心) で80%評価とし、残りの20%は出席点および授業態度として加味する。60点以上の得た者を合格とする。
担当教員の基本情報	1. 池内隆治: 基礎柔道整復学講座 (8号館教授室)、オフィスアワーは随時 2. 神内伸晃: 基礎柔道整復学講座 (8号館講師室)、オフィスアワーは随時 3. 大木琢也: 基礎柔道整復学講座 (8号館教授室)、オフィスアワーは随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	この科目では、骨折・脱臼、軟部組織損傷における後療法の知識および技術習得すること目的とする。		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション 〔 授業概要 〕 後療法の概要について教授する。 〔 到達目標 〕 後療法の概要について説明できる。	
	第2回	骨折と後療法 〔 授業概要 〕 骨折に伴う障害に対する後療法について教授する。 〔 到達目標 〕 骨折に伴う障害に対する後療法について説明できる。	
	第3回	軟部組織損傷と後療法 〔 授業概要 〕 軟部組織損傷に伴う障害に対する後療法について教授する。 〔 到達目標 〕 軟部組織損傷に伴う障害に対する後療法について説明できる。	
	第4回	後療法の基礎（1） 〔 授業概要 〕 後療法の一つである物理療法について教授する。 〔 到達目標 〕 後療法の一つである物理療法について説明できる。	
	第5回	後療法の基礎（2） 〔 授業概要 〕 後療法の一つである手技療法について教授する。 〔 到達目標 〕 後療法の一つである手技療法について説明できる。	
	第6回	後療法の基礎（3） 〔 授業概要 〕 後療法の一つである運動療法について教授する。 〔 到達目標 〕 後療法の一つである運動療法について説明できる。	
	第7回	後療法の実際（1） 〔 授業概要 〕 上肢（前腕および手関節部）における後療法の実際について教授する。 〔 到達目標 〕 上肢（前腕および手関節部）における後療法の実際について説明できる。	
	第8回	後療法の実際（2） 〔 授業概要 〕 上肢（肘関節および肩関節部）における後療法の実際について教授する。 〔 到達目標 〕 上肢（肘関節および肩関節部）における後療法の実際について説明できる。	
	第9回	後療法の実際（3） 〔 授業概要 〕 下肢（足関節および膝関節部）における後療法の実際について教授する。 〔 到達目標 〕 下肢（足関節および膝関節部）における後療法の実際について説明できる。	
	第10回	後療法の実際（4） 〔 授業概要 〕 下肢（股関節および腰部）における後療法の実際について教授する。 〔 到達目標 〕 下肢（股関節および腰部）における後療法の実際について説明できる。	
	第11回	後療法の実際（5） 〔 授業概要 〕 頸部および体幹における後療法の実際について教授する。 〔 到達目標 〕 頸部および体幹における後療法の実際について説明できる。	
	第12回	ロールプレイング演習 1 〔 授業概要 〕 ロールプレイング演習の目的と方法を解説し、グループごとに決定した疾患とその患者に生じる障害を設定する。 〔 到達目標 〕 ロールプレイング演習の目的と方法を理解し、グループごとに決定した疾患とその患者に生じる障害を設定することができる。	
	第13回	ロールプレイング演習 2 〔 授業概要 〕	

	<p>各グループは術者役と患者役に分かれ、模擬的な後療法を実施する様子を発表する。 〔到達目標〕 術者役と患者役に分かれた各グループの構成メンバーは、模擬的な後療法を実施する中で、それぞれの役割を果たすことができる。 ロールプレイング演習3</p> <p>〔授業概要〕 各グループは術者役と患者役に分かれ、模擬的な後療法を実施する様子を発表する。 〔到達目標〕 術者役と患者役に分かれた各グループの構成メンバーは、模擬的な後療法を実施する中で、それぞれの役割を果たすことができる。 第15回 まとめ（総合復習） ロールプレイング演習に対する総評を行い、後療法に関するまとめを行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業時間内に指示する。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	授業出席(50%)、ロールプレイングでの発表結果(50%)で総合評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：講義日程が決定し次第、講義において連絡する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
林 知也, 廣瀬英司, 神内伸晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行うことによって、既に学習した人体構造学、人体機能学、柔道整復学の科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復師国家試験の合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1回 人体構造学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体構造学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。</p> <p>第2～5回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。 人体構造学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学の内容を理解し、説明できる。</p> <p>第6回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。 人体機能学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体機能学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。</p> <p>第7～10回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。 人体機能学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学の内容を理解し、説明できる。</p> <p>第11回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。 柔道整復学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、柔道整復学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。</p> <p>第12～14回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。 柔道整復学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、各学生グループごとに配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復学の内容を理解し、説明できる。</p> <p>第15回 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。 まとめ 到達目標：柔道整復師に必要な人体構造学、人体機能学、柔道整復学の重点ポイントを理解し、応用できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	当該授業で演習した内容について、十分に復習し、理解するようにする。配布された演習問題については、各自理解するようにし、特にプレゼンテーションの分担が指示された問題については、他の学生が理解できるように周辺知識をしっかりと身につける。分からない点は、教科書、参考書を利用して理解を深め、それでも分からない点があれば質問等にて、積極的に解決すること。
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳（西村書店） 「シンプル生理学(改訂第6版)」 貴邑富久子, 根来英雄 著（南江堂） 「柔道整復学(理論編)改訂第5版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂）
成績評価	(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 課題に対するレポートとプレゼンテーション（30%）、及び期末試験（70%）で評価する。

担当教員の基本情報	<p> 担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 放課後 </p> <p> 担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 木, 金曜日 放課後 </p> <p> 担当教員名 : 神内伸晃 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 木曜日 放課後 </p>
備考	

講義科目名称：附属病院実習

授業コード：2H318

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
苗村 建慈			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：実習	

授業目標	(概要) 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を、外来診療各科において見学し、現代医学的診察法および患者に対する診療方法を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士等院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設(臨床検査部等の中央診療施設、MRセンター等)を見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深める。3) それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。また、4) 医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるようにそのあり方を学ぶ。		
授業計画	苗村建慈	実習ガイダンス 8月上旬～9月上旬および2月上旬～3月上旬の間で、計3週間分の実習を行う。 各診療科を班ごとにローテーションするため、実習簿で自分の実習日や診療科を確認しておくこと。	
	苗村建慈	実習の概要 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を外来診療各科において見学し、現代医学的診察法および患者の接し方を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、薬剤師など院内における医療スタッフの業務を見学し、理解する。また、附属施設(臨床検査部、放射線科などの検査施設)も見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深め、それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法について学ぶ。3) 医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるようにそのあり方について学ぶ。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、該当する科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	レポートにより評価する。 出席回数を満たしていること。		
担当教員の基本情報	担当教員名	苗村 建慈	
	研究室	病院2階病院長室	メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日16:30-17:00	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
田邊 美彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵまでで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、頸部と肩関節周囲に関する骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。		
授業計画	第1回	顎関節脱臼 顎関節脱臼の発生機序、症状、施術法、固定法について理解し、実践する。	
	第2回	顎関節捻挫 顎関節捻挫の発生機序、症状、施術法、固定法について理解し、実践する。	
	第3回	頸部捻挫の診察（視診・問診・触診） 頸部捻挫の診察（視診・問診・触診）について理解し、実践する。	
	第4回	頸部捻挫における固定・手技の技術習得 頸部捻挫における固定・手技の技術習得について理解し、実践する。	
	第5回	胸鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 胸鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第6回	肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第7回	肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第8回	肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第9回	肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第10回	上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法 について理解し、実践する。	
	第11回	上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法 上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第12回	上腕骨骨幹部骨折の診察法・整復・固定方法 上腕骨骨幹部骨折の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第13回	肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチ 肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチについて理解し、実践する。	
	第14回	肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチ 肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチについて理解し、実践する。	
	第15回	総復習 これまでの実習をふまえて総復習を行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前配布してある資料を読みこむ、授業後に復習する。		
教科書	・柔道整復学（理論編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版 ・柔道整復学（実技編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版		
参考書	授業時間内に指示する。		
成績評価	出席や授業態度を加味し、総合評価とする。		
担当教員の基本情報	田邊 美彦(タナベ ヨシヒコ) 大阪府池田市で開業、行岡医療専門学校非常勤講師		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
並川 一利 濱口 夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ（学校協会柔道整復理論編の全内容）までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、肘関節、手関節週における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>第2回 上腕骨顆上骨折における診察・固定・整復について 上腕骨顆上骨折における診察・固定・整復について理解する</p> <p>第3回 肘頭骨折における診察・整復・固定法 肘頭骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第4回 肘関節後方脱臼における診察・整復・固定法 肘関節後方脱臼における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第5回 野球肘における診察・整復・固定法 野球肘における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第6回 コーレス骨折・スミス骨折における違いと診察・整復・固定法 コーレス骨折・スミス骨折における違いと診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第7回 舟状骨骨折における診察・整復・固定法 舟状骨骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第8回 ボクサー骨折における診察・整復・固定法 ボクサー骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第9回 手指の骨折における診察・整復・固定法（1） 手指の骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第10回 手指の骨折における診察・整復・固定法（2） 手指の骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第11回 月状骨脱臼における診察・整復・固定法 月状骨脱臼における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第12回 手・指部における軟部組織損傷について 手・指部における軟部組織損傷について理解する。</p> <p>第13回 総合復習 1 第1～12回までの授業内容の復習を行う。</p> <p>第14回 総合復習 2 第1～12回までの授業内容の復習を行う。</p> <p>第15回 総合評価</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時間内に指示する。
教科書	・柔道整復学（理論編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版 ・柔道整復学（実技編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版
参考書	授業時間内に参考書を指示する。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワーの時間 授業終了後から1時間 場所：8号館 4F非常勤講師室
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
中川 達雄			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復施術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p><教育概要> 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形学を基礎とし、人体構造、特に四肢（下肢および上肢）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて四肢関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか鑑別診断を行い、考察を行う。次に、その診断に基づき、関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、マイクロ牽引法を教授する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション これから学ぶ徒手療法、手技療法についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>2回目 肘関節1：肘関節の触診実習 肘関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：肘関節の解剖学</p> <p>3回目 肘関節2：肘関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 肘関節屈曲検査法とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの習得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>4回目 肘関節3：肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘回旋検査P110-115</p> <p>5回目 肘関節4：肘関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘伸展検査P104-105</p> <p>6回目 肘関節5：肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘外/内方可動性検査P104-107、120-123</p> <p>7回目 まとめ 1回目～6回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>8回目 膝関節1：膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項 膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項の理解と検査技術の修得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝屈曲検査P80-83</p> <p>9回目 膝関節2：膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝伸展検査P84-87</p> <p>10回目 膝関節3：膝関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 膝関節伸展検査と異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p>

	<p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝回旋検査P88-95 膝関節4：膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の解説 膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の修得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝外/内方可動性検査P96-99 膝関節5：膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝P80-99 膝関節障害に対する膝関節検査法と治療法の総復習 膝関節障害のための関節可動性検査とその関連技術の修得</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：足関節捻挫の復習 総復習</p> <p>[備考] ワークシート提出 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 予習：授業予定である教科書内容を熟読すること。 2. 復習：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。</p>
教科書	<p>1. 四肢のモーション・パルペーション（上巻） 下肢編 中川貴雄編著 科学新聞社 2. 四肢のモーション・パルペーション（下巻） 上肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー 2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○中川達雄 研究室 : メールアドレス : tatsu-naka@tumh. ac. jp オフィスアワー :</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
木村 篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>柔道整復師が対象とする急性外傷の受傷者は、急性期では損傷部の局所安静（固定、免荷）ののち、後療法を経て日常生活に復帰する。従って、急性期では局所安静を確実に保ちながら、安全に日常生活を過ごすためのアプローチが必要であり、後療法では元々の日常生活に出来るだけ早期に復帰するためのアプローチが必要である。</p> <p>本科目の授業目標は、柔道整復師が対象とする急性外傷疾患患者に対して必要とされる日常生活動作に関連するアプローチについて、運動学的な基礎知識、臨床的な知識、それらの実践について講義と実習を通じて理解することにある。</p>		
授業計画	第1回	日常生活動作とは？ [授業概要] 日常生活動作について学習するとともに、我々が普段行っている日常生活にはどのような行為が含まれ、それらの行為を遂行するためにどのような動作を行っているのかをグループで話し合う。 [到達目標] 話し合った内容をまとめて発表することができる。	
	第2回	柔道整復師が対象とする急性外傷疾患患者の日常生活動作の考え方 ～総論～ [授業概要] 急性期における局所安静（関節固定、免荷）の状況での日常生活動作の行い方、後療法における日常生活動作の再獲得までの全体像について学習する。 [到達目標] 上記の授業内容を理解し、口頭で簡潔に説明することができる。	
	第3回	急性期の日常生活動作について～関節固定の状況での日常生活動作の行い方：上肢編～ [授業概要] 上肢の関節固定を守るための日常生活動作の行い方、自助具について実習を通じて学習する。[到達目標] 上記の授業内容を理解し、口頭で簡潔に説明することができる。	
	第4回	急性期の日常生活動作について～関節固定の状況での日常生活動作の行い方：下肢・体幹編～ [授業概要] 下肢・体幹の関節固定を守るための日常生活動作の行い方について実習を通じて学習する。 [到達目標] 上記の授業内容を理解し、口頭で簡潔に説明することができる。	
	第5回	急性期の日常生活動作について～免荷状況での日常生活動作の行い方：松葉杖 その1～ [授業概要] 松葉杖の適合判定についての実習を通じて学習する。 [到達目標] 被験者に対して松葉杖の適合判定を適切に行うことができる。	
	第6回	急性期の日常生活動作について～免荷状況での日常生活動作の行い方：松葉杖 その2～ [授業概要] 松葉杖による免荷歩行の基本的な指導方法について実習を通じて学習する。 [到達目標] 被験者に対して松葉杖による免荷歩行を適切に指導することができる。	
	第7回	急性期の日常生活動作について～免荷状況での日常生活動作の行い方：松葉杖 その3～ [授業概要] 松葉杖による免荷歩行での応用動作（屋外歩行、階段昇降など）について実習を通じて学習する。 [到達目標] 松葉杖による免荷歩行を応用動作場面で行うことができる。	
	第8回	急性期の日常生活動作について～松葉杖以外の免荷のための歩行補助具、車椅子の紹介～ [授業概要] 松葉杖以外の免荷のための歩行補助具、車椅子について実習を通じて学習する。 [到達目標] 歩行補助具、車椅子を使用することができる。	
	第9回	後療法における日常生活動作の獲得について～歩行・姿勢制御の運動学 その1～ [授業概要] 歩行についての学習①	
	第10回	後療法における日常生活動作の獲得について～歩行・姿勢制御の運動学 その2～ [授業概要] 歩行についての学習②	
	第11回	後療法における日常生活動作の獲得について～歩行・姿勢制御の運動学 その3～ [授業概要] 歩行についての学習③ [到達目標] 第9回～第11回について、歩行のメカニズムについて口頭で簡潔に説明することができる。	
	第12回	後療法における日常生活動作の獲得について～歩行能力の再獲得のための評価 その1～ [授業概要] 歩行能力の再獲得に必要な「評価」について実習を通じて学習する。	

	<p>第13回 [到達目標] 実習にてお互い評価を行うことができる。 後療法における日常生活動作の獲得について～歩行能力の再獲得のための評価 その2～</p> <p>第14回 [授業概要] 歩行能力の再獲得に必要な「評価」について実習を通じて学習する。 [到達目標] 実習にてお互い評価を行うことができる。 後療法における日常生活動作の獲得について～歩行能力の再獲得のためのアプローチ～</p> <p>第15回 [授業概要] 歩行能力の再獲得のためのアプローチや指導方法について実習を通じて学習する。 [到達目標] 歩行能力の再獲得のための方法を適切に選択することができる。 試験の実施 第1回～第14回の講義内容を踏襲した試験を実施。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	日常生活動作を理解するためには「動作」を遂行するために必要な「運動機能」の理解が必須である。「運動機能」を理解するための、解剖学、生理学（特に運動器に関連する箇所）と運動学について事前学習を十分にしておく必要がある。
教科書	・「観察による歩行分析」キルステン・ゲッツ・ノイマン著（月城慶一・山本澄子・江原義弘・盆小原秀三訳）（医学書院）
参考書	・「基礎運動学 第6版」中村隆一著（医歯薬出版株式会社）
成績評価	学年末試験の得点から、正当な理由のない欠席は10点、遅刻は5点をその回数分減点し、その点数により成績を評価する。その結果、合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村 篤史 研究室 : なし（附属病院 総合リハビリテーションセンターまで） メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡し、随時調整する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦 濱口 夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	体育・スポーツの現場における柔道整復師として行える各種手技的アプローチを理解する。特にスポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法の理論を習得する。		
授業計画	1回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解	
	2回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解	
	3回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅲ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解	
	4回目	4回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅳ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解	
	5回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足部の機能解剖の理解	
	6回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足部の機能解剖の理解	
	7回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（下腿部） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 下腿部の機能解剖の理解	
	8回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 膝関節の機能解剖の理解	
	9回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 膝関節の機能解剖の理解	
	10回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰部） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 大腿部・腰部の機能解剖の理解	
	11回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 肩関節の機能解剖の理解	
	12回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘関節） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 肘関節の機能解剖の理解	
	13回目	スポーツ外傷・障害発生メカニズム（手指部） 【到達目標】	

	<p>エピソードとアプローチ 【備考】 手指部の機能解剖の理解 総合復習</p> <p>14回目</p> <p>15回目 総合評価（まとめ）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	各関節・周辺部位の機能解剖を理解する。授業時に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載して次の授業までに自習または教員に聞き、理解する。
教科書	「テーピングナビ」DVD： 著者 長尾淳彦、（有）ラウンドフラット
参考書	「スポーツ・テーピング」： 著者 長尾淳彦、池田書店 「柔整師のためのテーピングの理論と実践」： 著者 長尾淳彦、からだサイエンス 「柔道整復師のための運動療法」： 著者 長尾淳彦、からだサイエンス
成績評価	出席を充たした者に筆記試験・実技試験を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 ：長尾 淳彦 研究室 ： 8号館4階 メールアドレス ： a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー ： 授業終了後</p> <p>担当教員名 ：濱口 夏花 研究室 ： 8号館4階講師室 メールアドレス ： n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー ： 授業終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦 松元 隆司 濱口 夏花			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	講義および実技において、スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、スポーツ障害との結びつきを理解させる。また、各関の損傷や障害に対して行う手技について基本理念を理解すると共に知識と技術の熟成を目指す。
授業計画	<p>1回目 下腿～足関節の機能解剖を理解する。 下腿～足関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>2回目 下腿～足関節のコンディショニング① 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>3回目 下腿～足関節のコンディショニング② 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>4回目 大腿～膝関節の機能解剖を理解する。 大腿～膝関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>5回目 大腿～膝関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>6回目 腰部～股関節の機能解剖を理解する。 腰部～股関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>7回目 腰部～股関節のコンディショニング① 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>8回目 腰部～股関節のコンディショニング② 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>9回目 肩関節の機能解剖を理解する。 肩関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>10回目 肩関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>11回目 肘関節の機能解剖を理解する。 肘関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>12回目 肘関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>13回目 手関節～手指の機能解剖を理解する。 手関節～手指の筋と運動・外傷と障害</p> <p>14回目 手関節～手指のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>15回目 総合評価（まとめ）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	機能解剖学は臨床において必要な知識であるため、事前学習をしておくこと。
教科書	指定なし
参考書	指定なし
成績評価	出席基準を充たした者に筆記または実技の評価を行う。 必要に応じて小テストを行う場合がある。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : メールアドレス : pochimatamoto@yahoo.co.jp オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。 本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。 学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 生活習慣病予防と改善のための運動療法を実践学習する。 ボール運動、シート・ウォーキングを体験する。</p> <p>2回目 健康ウォーキング1 健康ウォーキング理論と屋外ウォーキングの実践（校内コースA） ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 健康ウォーキング2 屋外ウォーキングの実践（校内コースB） 心肺持久力機能の向上と、生活習慣病予防と改善の運動を理解する。</p> <p>4回目 運動療法1（筋力・巧緻性） ボール運動1 布ボール・軽量ボール・1～3kgメディシンボール他 筋力と巧緻性向上のボール運動を理解する。</p> <p>5回目 運動療法2（筋力・巧緻性・骨粗鬆症予防） ボール運動2 キック、バッティング、バターゴルフ系他 筋力・巧緻性・骨粗鬆症予防運動を理解する。</p> <p>6回目 運動療法3（持久力・転倒予防・認知症予防） シートウォーキング、スクエアシート他 持久力向上・転倒予防・認知症予防運動を理解する。</p> <p>7回目 運動療法4（対人型運動） 風船バドミントン、ミニ・テニス、卓球 継続させたい楽しい健康づくり運動を理解する。</p> <p>8回 生活習慣病概論</p> <p>9回 高血圧</p> <p>10回 脂質異常症</p> <p>11回 糖尿病</p> <p>12回 肥満、メタボリックシンドローム</p> <p>13回 学生による生活習慣病に関する発表とディスカッション</p> <p>14回 学生による生活習慣病に関する発表とディスカッション</p> <p>15回 期末試験 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点不明な点は参考書での復習や教員に質問するように。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員の基本情報 担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院内科部長 教授室：病院2階 オフィスパワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	私語は厳に慎むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック実習の選択科目であり、テニス・バドミントンならびにグウンドゴルフの合理的実践を通して、身体や身体運動の幅広い知識を教授するとともに、知的・道徳的・身体的教養を育成し、心身ともに健康でゆとりある生活を実現する能力や態度を育てることを目標とする。また、初心者および中級者を対象として、基礎的ならびに応用技術の練習や試合形式のゲームを通して生涯にわたって楽しめる技術やルール、マナーの修得、体力の向上を実践的に学習するとともに、コミュニケーション能力の向上も図る。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習の目的と評価の方法や各種履修にあたっての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 テニス（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、ラケットイング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。 また、グラウンドストローク（フォア・バック）の動作をそれぞれ説明し、反復練習させる。</p> <p>3 テニス（2）基本・基礎技術の練習 グラウンドストローク（フォア・バック）の動作をそれぞれ説明し、反復練習させる。</p> <p>4 テニス（3）基本・基礎技術の練習 サービス、ロブ、サービス&レシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>5 テニス（4）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスの簡易ゲームを行なわせる。</p> <p>6 テニス（5）応用技術とゲーム チーム分けを行い、戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>7 テニス（6） 応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>8 バドミントン（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、基本ストロークならびにサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>9 バドミントン（2）基本・基礎技術の練習 ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピン、プッシュ、スマッシュ、レシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>10 バドミントン（3）ルールと簡易ゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、併せてダブルスの簡易ゲームを行わせる。（半面シングルスでショットを制限して）</p> <p>11 バドミントン（4）応用技術とゲーム チーム分けを行い、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>12 バドミントン（5）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームをおこなわせる。</p> <p>13 バドミントン（6）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>14 グラウンド・ゴルフ（1）基本・基礎技術の練習とルール グリップと構え、基本ストロークの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、併せて簡易ラウンドを行わせる。</p> <p>15 グラウンド・ゴルフ（2）応用技術とラウンド チーム分けを行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたラウンドゲーム（16ホール）を行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度40%、授業への貢献度20%、実技評価40%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：西尾庄平 研究室：本館2階 メールアドレス：s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メールでも受け付ける。</p> <p>担当教員名：中才幸樹</p>

	研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
糸井 啓純			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ医学基礎は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。特に、本科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本体育協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。		
授業計画	1回目	1. ガイダンス、 2. 指導者の役割（スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について） [到達目標] 1. 講義ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を知る。 2. 指導者の役割を理解し、概要の説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	2回目	文化としてのスポーツ [到達目標] 1. スポーツの概念と歴史を理解し、説明ができる。 2. 文化としてのスポーツを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	3回目	トレーニング論（1） [到達目標] 1. 体力の概念を理解し、説明ができる。 2. トレーニングの進め方を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	4回目	トレーニング論（2） [到達目標] トレーニングの種類を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	5回目	指導者に必要な医学的知識（1） [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気（内科系）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	6回目	指導者に必要な医学的知識（2） [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気（外科系）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	7回目	指導者に必要な医学的知識（3） [到達目標] 1. スポーツ活動中に多いケガや病気（外科系）を理解し、説明ができる（その2）。 2. 救急処置（外科的応急処置：RICEと傷の手当て）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	8回目	指導者に必要な医学的知識（4） [到達目標] 救急処置（救急蘇生法）を理解し、説明・実践ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	9回目	スポーツと栄養について [到達目標] 五大栄養素の役割や、スポーツ選手の栄養補給と水分摂取などを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	10回目	指導計画と安全管理 [到達目標]	

	<p>1. 指導計画の立て方を理解し、説明できる。 2. スポーツ活動と安全管理を理解し、説明できる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 ジュニア期のスポーツ (1)</p> <p>[到達目標] 1. 発育発達期の身体的特徴を理解し、説明ができる。 2. 発育発達期の心理的特徴を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 ジュニア期のスポーツ (2)</p> <p>[到達目標] 1. 発育発達期に多いケガや病気を理解し、説明ができる。 2. 発育発達期のプログラムを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 地域におけるスポーツ振興</p> <p>[到達目標] 1. スポーツ振興方策と行政との関わりを理解し、説明ができる。 2. 統合型地域スポーツクラブの必要性を理解し、説明ができる。 3. スポーツ少年団と指導者との関わりを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。</p> <p>14回目 まとめ</p> <p>15回目 評価 (筆記試験)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。 ・2020年に日本でオリンピックが開催されることが決定し、世間でのスポーツにおける関心が高まっています。スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I」 (財) 日本体育協会編 (財) 日本体育協会)
参考書	特記なし
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 ・評価方法は筆記試験で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 7号館 2F教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 片山憲史 研究室 : 7号館 1F教授室 メールアドレス : k_katayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 7号館 2F教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2F教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
糸井 啓純			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>スポーツ医学応用は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。また、今後開設される、健康とスポーツに関連する科目を理解するための基礎知識を習得する。</p> <p>特に、本科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、日本体育協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、スポーツと運動機能(1) [到達目標] 1. 講義ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を知る。 2. 上肢の運動学（握る）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>2回目 スポーツと運動機能(2) [到達目標] 1. 上肢の運動学（投げる）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>3回目 スポーツと運動機能(3) [到達目標] 1. 下肢の運動学（歩行）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>4回目 スポーツと運動機能(4) [到達目標] 1. 下肢の運動学（走行）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>5回目 社会の中のスポーツ [到達目標] 1. 社会の中のスポーツについて理解し、説明ができる。 2. 日本におけるスポーツプロモーションについて理解し、概要の説明ができる。</p> <p>6回目 スポーツの心理（1） [到達目標] 1. スポーツと心について理解し、説明ができる。</p> <p>7回目 スポーツの心理（2） [到達目標] 1. スポーツにおける動機づけについて理解し、概要の説明ができる。</p> <p>8回目 対象に合わせたスポーツ指導（1） [到達目標] 1. 成長期とスポーツについて理解し、説明ができる。</p> <p>9回目 対象に合わせたスポーツ指導（2） [到達目標] 1. 中高年者とスポーツについて理解し、説明ができる。</p> <p>10回目 対象に合わせたスポーツ指導（3） [到達目標] 1. 女性とスポーツ（身体的・心理的特徴）について理解し、説明ができる。</p> <p>11回目 対象に合わせたスポーツ指導（4） [到達目標] 1. 女性とスポーツ（トレーナビリティとプログラム）について理解し、説明ができる。</p> <p>12回目 トレーナー活動の実際（1） [到達目標] 1. 第一線で活躍しているスポーツトレーナーを招聘し、現状などを理解する。</p> <p>13回目 トレーナー活動の実際（2） [到達目標] 1. 第一線で活躍しているスポーツトレーナーを招聘し、現状などを理解する。</p> <p>14回目 まとめ [到達目標] スポーツ医学応用についてのまとめ（試験の傾向と対策）</p> <p>15回目 評価 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。 ・スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目II」 日本体育協会編（日本体育協会）
参考書	特記無し
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 ・評価は筆記試験（100%）で行う。

<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 片山憲史 研究室 : 7号館1F教授室、2F教員室 メールアドレス : k_katayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2F教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:10-16:40</p>
<p>備考</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。
授業計画	<p>第1講 トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。</p> <p>第2講 体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。</p> <p>第3講 トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。</p> <p>第4講 ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。</p> <p>第5講 トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。</p> <p>第6講 全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。</p> <p>第7講 筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。</p> <p>第8講 柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。</p> <p>第9講 筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。</p> <p>第10講 筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。</p> <p>第11講 筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p> <p>第13講 トレーニングプログラムを作成するための要点② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②></p> <p>第14講 トレーニングプログラムを作成するための要点③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③></p> <p>第15講 トレーニングプログラムを作成するための要点④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<④></p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	筆記試験による評価とする。（ただし、授業態度および欠席時数等により、減点対象になる場合がある。）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階（非常勤講師室） メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後

備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標]	
	第4講	身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 各種トレーニングのための動き作り② [到達目標]	
	第5講	身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標]	
	第6講	関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践 調整力を高めるためのトレーニング [到達目標]	
	第7講	バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践 全身持久力トレーニング [到達目標]	
	第8講	全身持久力トレーニングの実践 筋持久力トレーニング [到達目標]	
	第9講	筋持久力トレーニングの実践 トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標]	
	第10講	トレーニング機器の安全管理および使用法について。 トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標]	
	第11講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標]	
	第12講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標]	
	第13講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践④ [到達目標]	
	第14講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践⑤ [到達目標]	
	第15講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践⑥ [到達目標]	
	第16講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習		
教科書	授業毎に配布する資料により実施。		
参考書	特に指定はなし。		
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階 (非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
東 あかね			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目は、健康を維持・増進するための正しく、かつ合理的な食物摂取のあり方について学ぶ。さらに、食事と運動との関連や、運動の効果を最大限に引き出すために必要な食事のあり方や必要に応じたサプリメントの利用法などを、最新の情報を取り入れながら、基礎事項と関連づけて解説する。		
授業計画	1	スポーツと保健栄養学入門 栄養学の歴史を踏まえ、人間の健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。	
	2	エネルギーと栄養のバランス、食事バランスガイド バランスの良い食事を科学的に理解する。	
	3	栄養素のはたらき 糖質の栄養 糖質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。	
	4	脂質の栄養 脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。	
	5	タンパク質の栄養 タンパク質の種類と代謝を知り、それぞれの役割を理解する。	
	6	ビタミンの栄養、ミネラルの栄養 各種ビタミンおよびミネラルの働きと必要性を把握し、欠乏症との関係を理解する。	
	7	日本人の食事摂取基準 日本人の食事摂取基準の概要を理解する。	
	8	水分補給 水分の役割を知り、水分補給の重要性を理解する。	
	9	生体リズムと栄養 生体リズムが食欲や体調、身体能力をコントロールしていること理解し、食事や運動のタイミングを調節する必要性を把握する。	
	10	運動とウエイトコントロール エネルギー収支バランスの調整が体重をコントロールすることを理解し、運動時のエネルギー消費量と適切なエネルギー摂取量を知る。	
	11	運動における栄養素の働き 運動時の各栄養素の代謝を理解する。	
	12	ライフステージと栄養①ジュニア期 ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。	
	13	ライフステージと栄養②シニア期 シニア期のスポーツと栄養・食生活についても理解する。	
	14	サプリメントの利用 サプリメントが必要な理由を知り、その正しい利用方法を把握する。	
	15	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内容を復習すること		
教科書	栄養科学シリーズNEXT 「スポーツ・運動栄養学」第3版 加藤秀夫 著（講談社サイエンティフィク）		
参考書	指定しない		
成績評価	定期試験70%、出席30%		
担当教員の基本情報	担当教員名：東 あかね（非常勤講師）、岩佐真代（非常勤講師） オフィスアワー：講義終了後		
備考			

講義科目名称：キャリアデザイン

授業コード：2H401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
神内 伸晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	キャリアとは何かを学び、卒業後の進路や生涯設計に関連する知識を学ぶ。また、社会規範となるマナーや現代において問題となっている情報化社会でのマナーを含めて社会人としての第一歩を踏み出すための知識を学ぶ。		
授業計画	第1講義	キャリアとは何か？なぜ働くのか？ キャリアとは何か？なぜ働くのか？ということについて考え、これから自分が卒業後に働く意義について考える能力を養う。講義ではキャリアビジョンの描き方や自己分析の方法に学ぶ。	
	第2講義	生涯年収と高齢者の経済問題 現代における経済の問題と世帯収入の各年代ごとからどのように今まで移り変わってきたのかを学ぶ。	
	第3講義	グローバル化と情報化社会による問題 現代におけるグローバル化と情報化社会による問題をグループディスカッションにより問題の提示と解決方法について討論する。	
	第4講義	職業とその役割 各グループで職業とその役割について調べグループ発表を行う。	
	第5講義	ビジネスマナーと就職活動 就職活動におけるビジネスマナーについて学び、グループ内で職業マナーについて理解を深める。	
	第6講義	キャリアプランの作成とPDCAサイクル キャリアプランを作成し、どのように実行していくのを学ぶ。また、各個人のキャリアプランの概要をグループ内で口答発表を行う。	
	第7講義	総合討論 キャリアプランを実行していくために必要なことは何かというテーマで総合討論を各グループで行う。	
	第8講義	(総合復習) まとめ 授業時間内に課題を与え、各自で小論文を作成し提出する。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業時間内に指示をする。		
教科書	キャリアデザイン入門1 基礎力編 第2版 著：大久保幸夫 出版社：日本経済新聞社		
参考書	大学生のためのキャリアデザイン入門 編集：岩上真珠 大槻奈巳 出版社：有斐閣		
成績評価	出席点(30%)、課題レポート(70%)によって総合評価をする。		
担当教員の基本情報	オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館4F講師室		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医療面接法では、基礎医学、現代医学、柔道整復学などを基礎とし、実際の診療に即した問診や医療面接の方法を適切かつ効果的に行える技能を修得する。あわせて医療人としての心構えや医療倫理などについての理解を深める。
授業計画	<p>1回目 医療面接とは 〔 授業概要 〕 オリエンテーション 医療面接の授業方針・概略の説明を行う。 〔 到達目標 〕 医療面接の目的が説明できる。 問診と医療面接の違いが説明できる。 医療面接の必要性を説明できる。</p> <p>2回目 医療面接の基本・導入（1） 〔 授業概要 〕 初診患者への面接 〔 到達目標 〕 診察項目について理解する。 カルテ記載方法について理解する。 〔 備考 〕 診察項目について学習する。 初診患者の病態を理解する情報収集が説明できる。 主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症が説明できる。</p> <p>3回目 医療面接の基本・導入（2） 〔 授業概要 〕 再診患者への面接 医療面接の目的と構造 〔 到達目標 〕 再診患者の一般的な評価方法が説明できる。 再診患者における情報収集が説明できる。</p> <p>4回目 医療面接 〔 授業概要 〕 コミュニケーションの実際 質問法について説明 面接技法について説明 面接の流れについて説明 〔 到達目標 〕 医療に患者が求めるものについて説明できる。 柔整師と患者の関係について説明できる。 コミュニケーションについて説明できる。 柔整師に必要な非言語的コミュニケーションについて説明できる。</p> <p>5回目 医療面接に求められる態度・姿勢 〔 授業概要 〕 患者さんに対する態度、診察環境、位置関係を説明する。 〔 到達目標 〕 医療面接を行う際の態度、姿勢、診察環境、位置関係を理解する。</p> <p>6回目 医療面接の実際（1） 〔 到達目標 〕 ロールプレイを通じて医療面接が実践できる。 〔 備考 〕 授業を復習し、教科書、ノートを見なくても面接できる準備をしておくこと。</p> <p>7回目 医療面接の実際（2） 〔 到達目標 〕 ロールプレイを通じて医療面接が実践できる。 まとめ 試験に関する説明 〔 備考 〕 授業を復習し、教科書、ノートを見なくても面接できる準備をしておくこと。</p> <p>8回目 試験 成績評価</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>本授業は、初診患者、再診患者から聞き出す内容（問診）と患者さんの良好な関係を築くためのコミュニケーション（態度を含む）の2つの柱から構築される。それに加えて正確なカルテ記載などについても学習する。</p> <p>1）初診患者・再診患者から聞き出す内容、カルテ記載 参考資料を熟読して学習、理解すること。これを修得しておかなくては実際の患者さんを目の前にした際、何を質問してよいのかわからなくなる。問診は、患者さんと接する最初の医療行為である。</p> <p>2）コミュニケーション法 授業で学習した内容を日常生活で意識することが重要である。実際のコミュニケーション能力は、授業で学習</p>

	<p>したのみでは向上しない。日常生活でも意識して実践することが重要である。</p> <p>3) 基本と応用 本授業では、問診と医療面接に必要な基本事項を学習する。臨床現場では、患者さんの病態や性格に応じた面接（コミュニケーションを含む）が求められる。本授業で学習した内容を省略する場合もあれば。さらに深い面接が必要になることもある。現代医学的知識、柔道整復学的知識を活かしながら各患者に応じた面接を応用として学習する。</p> <p>上記項目について予習・復習を行うこと。</p>
教科書	とくに指定はしない。 適時、プリント、資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> よくわかる医療面接と模擬患者 鈴木富雄, 阿部恵子 (名古屋大学出版会) 授業中配付したプリントなどを参考資料とする。
成績評価	出席、平常点、提出物（レポートなど） = 20% 筆記試験 = 80%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 川村 茂 研究室 : 8号館4F 講師室 メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後</p> <p>担当教員名 : 濱口夏花 研究室 : 8号館4F 講師室 オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>法律は難解なもの、専門家だけのものではありません。確かに法律用語は親しみ難いかも知れませんが、もっと身近なものとして法律に親しんでくださることを願っています。</p> <p>すべての法律の基本法である日本国憲法の概要を学び、併せて柔道整復師国家試験の出題に対応できるようにします。</p> <p>医療制度の中核をなす医療法、医師法等の医事法規、およびこれらと関連する社会保険法規、福祉法規、労働法規等について知識を深めます。</p> <p>患者の権利、インフォームドコンセント等、独立して医療を行う者の法的・社会的責任を理解し、広い観点から医療を考え、実践できる習慣を培ってください。</p> <p>これらを踏まえて、医療人としての広い知識を身につけることを目的として可能な限り判例、具体事例を示しながら講義を行いますから、興味をもって受講してください。</p>
授業計画	<p>1回目 法の意義、法体系。 インフォームドコンセント [到達目標] わが国における法体系、法令の優劣順位を学ぶ。 インフォームドコンセントの必要性和患者の権利を実感する。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 1～ p 4） ※改訂第 2 版のページを示す（以下に同じ）</p> <p>2回目 日本国憲法（天皇・基本的人権） [到達目標] 過去に出題された国家試験問題を参考に免許制度・広告制限・施術所立入検査の合憲性を学ぶ。</p> <p>[備考] プリント 事前に配付するので通読しておくこと。</p> <p>3回目 日本国憲法（国会・内閣・裁判所・地方自治・最高法規） [到達目標] 国会・内閣・裁判所の構成、特別区の意義を学ぶ。</p> <p>[備考] プリント</p> <p>4回目 医師法 [到達目標] 医師法の絶対的欠格事由・相対的欠格事由を覚える。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 41～ p 46）</p> <p>5回目 医師法 [到達目標] 臨床研修制度、再教育研修制度の意義を理解する。</p> <p>[備考] 予習（同上）</p> <p>6回目 医師法 [到達目標] 医師の業務と柔道整復師法との関連を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（同上）</p> <p>7回目 医事法規（保健師助産師看護師法・診療放射線技師法） [到達目標] 免許付与者、各医療従事者の業務の特徴を覚える。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 46～ p 49）</p> <p>8回目 医事法規（臨床検査技師法・理学療法士及び作業療法士法、救急救命士法） [到達目標] 医療従事者のそれぞれの業務の特徴を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 49～ p 54）</p> <p>9回目 医事法規（歯科衛生士法、歯科技工士法、薬剤師法） [到達目標] 女性のみ認められる医療免許を覚える。 薬剤師の業務を学ぶ。</p> <p>[備考]</p>

	<p>10回目 予習（教科書 p 55～ p 56） 医療法 [到達目標] 医療法の目的，医療提供の理念，医師等の責務を学び，柔道整復師の業務との関連を考える。</p> <p>[備考]</p> <p>11回目 予習（教科書 p 57～ p 58） 医療法 [到達目標] 病院・診療所等の医療施設の区分・概要を覚える。</p> <p>[備考]</p> <p>12回目 予習（教科書 p 59～ p 66） 医療法 [到達目標] 病院等の開設と施術所の開設との違いを覚える。</p> <p>[備考]</p> <p>13回目 予習（教科書 p 67～ p 74） 社会福祉法規 [到達目標] それぞれの法律の目的・概要を学ぶ。</p> <p>[備考]</p> <p>14回目 予習（教科書 p 75～ p 79） 社会保険関係法規 [到達目標] 柔道整復師の療養費支給申請の根拠，労災保険・雇用保険と施術所経営との関連を学ぶ。</p> <p>[備考]</p> <p>15回目 予習（教科書 p 80～ p 89） まとめ</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	予習が大切です。必ず事前に疑問をもって熟読し、講義に臨んでください。 前期、後期とも国家試験の出題範囲であり、法令は社会に適應するための解釈、運用が大切ですから、真剣に受講されることを期待しています。
教科書	『関係法規（改訂第2版）』前田和彦編著（医歯薬出版株式会社） ※後期の「柔道整復師法」でも使用しますから必ず購入してください。 昨年度の教科書でも大丈夫です。 最新年度版『療養費の支給基準』社会保険研究所
参考書	教科書の補足、重要事項のまとめとして「柔整医学演習テキスト」を使用します。 授業で使用しますから、教科書と一緒に持ってきてください。
成績評価	筆記試験を中心に評価しますが、出席状況、受講態度（私語、無断退出、居眠り）も20%の範囲で考慮することがあります。 筆記試験については、本学の規則に則って実施します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.skb285@gmail.com メールによる質問を歓迎します。2、3日以内に返信します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業内容は、教科書に基づいて、柔道整復師に係る「柔道整復師法」「医療法」さらに免許取得後の実務に関し判例、具体事例を示してわかりやすく展開します。</p> <p>同時に、柔道整復師の療養費受領委任取扱いの具体事例を理解する。施術録、支給申請書の記載についても理解する。</p>			
授業計画	1回目	<p>法の体系・総則</p> <p>[到達目標]</p> <p>法令遵守の精神の取得</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P4～P6）</p>	2回目	<p>柔道整復師法（総則・免許）</p> <p>[到達目標]</p> <p>柔道整復師法、免許の重要性・社会的意義を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P7～P15）</p>
	3回目	<p>柔道整復師国家試験</p> <p>[到達目標]</p> <p>国家試験の概要、受験手続、合格証書を学ぶ、不正行為（カンニング）者への処分を知る。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P16～P19）</p>	4回目	<p>柔道整復師の業務（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>柔道整復師の業務独占の意味、業務範囲・施術の限界と医師の同意をしっかりと理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P20～P23）</p>
	5回目	<p>柔道整復師の業務（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>守秘義務の重要性、知事の「指示」を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P23～P24）</p>	6回目	<p>施術所（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>施術所の開設届・廃止届・休止届・再開届・変更届の提出先、手続きを学ぶ。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P25～P26）</p>
	7回目	<p>施術所（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>施術所の構造設備基準・衛生上必要な措置を覚え、都道府県知事の「監督」の意義を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>予習（教科書P26～P28）</p>	8回目	<p>まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>必ず事前に教科書を熟読し、講義に臨んでください。</p> <p>「柔道整復師法」は必修問題1問、一般問題は10問中概ね6問が出題されるのでそれを念頭に置き受講。</p>			
教科書	<p>「関係法規（改訂第2版）」前田和彦著（医歯薬出版株式会社）</p> <p>「平成26年度版柔道整復師のための保険請求の手引き」長尾淳彦著（進行社）</p>			
参考書	教科書の補足、重要事項のまとめとしてプリントを配布。			
成績評価	筆記試験			
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：長尾淳彦</p> <p>研究室：8号館4階</p> <p>メールアドレス：a_nagao@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業終了後</p>			
備考				

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
納谷 佳男			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p><泌尿器科> 腎、上部尿路、下部尿路、男性生殖器の各疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p><皮膚科> 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの皮膚疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p><眼科> 眼及び周辺組織の解剖学的、組織学的構造とその機能を理解する。代表的な眼科疾患の病態生理と治療を理解する。全身疾患の眼合併症、コメディカルとして接する眼科疾患を学ぶ。</p> <p><歯科> 口腔の基礎知識を理解し、口腔と全身疾患の関連を学ぶ。柔道整復師に必要な、顎骨骨折、顎関節脱臼の治療法を修得する。</p>
授業計画	<p>第1講 泌尿器科 [授業概要] 泌尿器解剖学、生理学、症候学、検査法 [到達目標] 泌尿生殖器の解剖学、生理学、泌尿器症候学、検査法について理解できる。</p> <p>第2講 皮膚科 [授業概要] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、主な皮膚疾患 [到達目標] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの主な皮膚疾患について理解できる。</p> <p>第3講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する総論 [到達目標] 加齢に伴う眼疾患、視機能(解剖・神経支配や麻痺・斜視など)、全身疾患との関連(移植免疫・ぶどう膜炎)について理解できる。</p> <p>第4講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する各論 [到達目標] 眼光学(屈折・眼鏡など)、角膜結膜疾患、水晶体疾患、緑内障、後眼部疾患(網膜疾患など)について理解できる。</p> <p>第5講 歯科 [授業概要] 口腔解剖、顎関節解剖、歯周炎と全身疾患、口腔外科疾患 [到達目標] 主な口腔病変を知り、顎骨骨折、脱臼の整復法を修得する。</p> <p>第6講 聴覚、中耳、内耳、平衡覚 聴覚概論、聴器解剖、聴覚生理 中耳疾患および伝音難聴の診断と治療 内耳疾患および感音難聴の診断と治療 平衡覚概論 めまいと平衡障害</p> <p>第7講 鼻アレルギー、副鼻腔、外傷 鼻アレルギーの基礎と臨床 鼻副鼻腔の解剖・生理と疾患 鼻出血・顎顔面外傷</p> <p>第8講 解剖と生理、婦人科疾患 1. 女性生殖器を列挙し、その働きを説明できる。 2. 女性ホルモンのフィードバック機構を理解し、説明できる 3. 外陰、膣の疾患について説明できる 4. 子宮腫瘍と不正出血の関連について説明できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	頻度が高く泌尿器科的に重要な疾患について、事前に理解しておくこと。 特に排尿障害に該当する膀胱、前立腺疾患は鍼灸治療の対象ともなるため、よく学習すること。また授業後は知識を速やかに整理できるよう復習すること。
教科書	『チーム医療従事者ための臨床医学全科』渡辺 決 ほか(金芳堂)
参考書	なし
成績評価	筆記試験により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 納谷佳男(泌尿器・皮膚科) 研究室 : 泌尿器科学(附属病院2階)

	<p>メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 山田 潤 (眼科) 研究室 : 附属病院 2 階 メールアドレス : j_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 9:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 大森秀昭 (歯科) 研究室 : 附属病院 2 階 メールアドレス : h_oyabu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:30~16:30</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 (婦人科) 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 坂口博史 (耳鼻咽喉科) 研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 安田誠 (耳鼻咽喉科) 研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	この科目では、運動器における外傷の発生メカニズムおよび、診察から治療までの過程を自分で考えられる能力を養うことを目的とする。		
授業計画	第1講義	肩腱板損傷について 〔 授業概要 〕 肩腱板損傷における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 肩腱板損傷における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第2講義	肩腱板損傷について 〔 授業概要 〕 肩腱板損傷における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 肩腱板損傷における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第3講義	野球肘について 〔 授業概要 〕 野球肘における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 野球肘における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第4講義	野球肘について 〔 授業概要 〕 野球肘における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 野球肘における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第5講義	橈骨遠位端骨折について 〔 授業概要 〕 橈骨遠位端骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 橈骨遠位端骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第6講義	橈骨遠位端骨折について 〔 授業概要 〕 橈骨遠位端骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 橈骨遠位端骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第7講義	頸部疾患について 〔 授業概要 〕 頸部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 頸部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第8講義	頸部疾患について 〔 授業概要 〕 頸部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 頸部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第9講義	腰部疾患について 〔 授業概要 〕 腰部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 腰部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第10講義	腰部疾患について 〔 授業概要 〕 腰部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 腰部疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第11講義	大腿骨頸部骨折について 〔 授業概要 〕 大腿骨頸部骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。 〔 到達目標 〕 大腿骨頸部骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。	
	第12講義	大腿骨頸部骨折について	

	<p>〔 授業概要 〕 大腿骨頸部骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。</p> <p>〔 到達目標 〕 大腿骨頸部骨折における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。</p> <p>第13講義 膝関節疾患について 〔 授業概要 〕 膝関節疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。</p> <p>〔 到達目標 〕 膝関節疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。</p> <p>第14講義 膝関節疾患について 〔 授業概要 〕 膝関節疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを教授する。</p> <p>〔 到達目標 〕 膝関節疾患における症例問題を読み解きどのような治療アプローチが必要であるかを説明できる。</p> <p>第15講義 まとめ 講義全体を通じて理解不十分な部分について、再度教授する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	該当する過去の国家試験を解き、その解説を記憶しておくこと。
教科書	柔道整復学・理論編 監修：全国柔道整復学校協会 改訂第5版 南江堂
参考書	特になし
成績評価	授業出席点 (50%)、課題レポート (50%) によって総合的評価を行う。
担当教員の基本情報	オフオイスアワー：講義日程が決定し次第、講義において連絡する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
秋津 知宏・神内 伸晃・並川 一利・濱口 夏花・池内 隆治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>目標1：柔道整復学領域において頻繁に遭遇する軟部組織損傷の発生機転・病態・特徴的所見などを習得する。</p> <p>目標2：傷害部位や傷害の程度を知るための基本的な診察の流れと病態・傷害鑑別のための徒手検査法を習得する。</p> <p>目標3：からだの傷害部所および傷害の状況に応じた包帯法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 授業概要・オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の構成 2. 授業の目的・目標 3. 授業の内容 4. 成績・評価について説明する。 <p>2回目 肩関節の軟部組織損傷1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節の構造と機能について 2. 腱板および腱板損傷について 3. 腱板損傷の観察法の流れを習得する。 <p>3回目 肩関節の軟部組織損傷2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腱板損傷の鑑別のための検査法を習得する。 2. 腱板損傷の鑑別検査法の評価法を習得する。 <p>4回目 肩関節の軟部組織損傷3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上腕二頭筋長頭腱損傷について 2. 上腕二頭筋長頭腱損傷の観察法の流れを習得する。 <p>5回目 肩関節の軟部組織損傷4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上腕二頭筋長頭腱損傷の鑑別のための検査法を習得する。 2. 上腕二頭筋長頭腱損傷の鑑別検査法の評価法を習得する。 <p>6回目 大腿部軟部組織損傷1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿部の構造と機能について 2. 大腿部軟部組織損傷の観察法の流れを習得する。 <p>7回目 大腿部軟部組織損傷2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハムストリングスの損傷を鑑別する検査法を習得する。 <p>8回目 膝部軟部組織損傷1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膝関節の構造と機能について 2. 膝部軟部組織損傷の評価法を習得する。 <p>9回目 膝部軟部組織損傷2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膝部の構造と機能について 2. 膝部軟部組織損傷（側副靭帯）の観察法について 3. 側副靭帯損傷の鑑別検査法と評価法を習得する。 <p>10回目 膝部軟部組織損傷3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膝部の構造と機能について 2. 膝部軟部組織損傷（十字靭帯）の観察法について 3. 十字靭帯損傷の鑑別検査法と評価法を習得する。 <p>11回目 膝部軟部組織損傷4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膝部の構造と機能について 2. 膝部軟部組織損傷（膝半月板）の観察法について 3. 膝半月板損傷の鑑別検査法と評価法を習得する。 <p>12回目 下腿部軟部組織損傷1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下腿部の構造と機能について 2. 下腿部軟部組織損傷（腓腹筋肉離れ）の観察法について 3. 腓腹筋肉離れの鑑別検査法と評価法を習得する。 <p>13回目 下腿部軟部組織損傷2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アキレス腱断裂の観察法について 2. アキレス腱断裂の鑑別検査法と評価法を習得する。 <p>14回目 臨床シミュレーション</p> <p>膝部・下腿部の軟部組織損傷の観察法と鑑別法について、各傷害の観察法・整復法の習熟度を査定する。</p> <p>15回目 中間評価</p> <p>軟部組織損傷に関する解剖学などの基礎的知識および各軟部組織損傷の発生機転、症状、所見などの臨床的知識の習熟度を査定する。</p> <p>16回目 前半部分の復習1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節の軟部組織損傷（肩腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷）について <p>17回目 前半部分の復習2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿部の軟部組織損傷（ハムストリングス損傷）について <p>18回目 足部の軟部組織損傷1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足関節の機能や構造について

19回目	2. 足関節外側側副靭帯損傷の観察法や流れについて習得する。 足部の軟部組織損傷 2
20回目	1. 足関節外側側副靭帯損傷の鑑別のための検査法を習得する。 2. 足関節外側側副靭帯損傷の鑑別検査法の評価法を習得する。 足部の軟部組織損傷 3
21回目	1. 足関節外側側副靭帯損傷の固定法について習得する。 頸部の損傷 1
22回目	1. 頸椎の機能や構造について 2. むちうち損傷・頸椎症の観察法・検査法・評価法について習得する。 頸部の損傷 2
23回目	1. 頸部・胸部の構造について 2. 胸郭出口症候群の観察法・検査法・評価法について習得する。 腰部の損傷
24回目	1. 腰部の機能や構造について 2. 腰部椎間板ヘルニアの観察法・検査法・評価法について習得する。 股関節・仙腸関節の疾患
25回目	1. 股関節・仙腸関節の機能や構造について 2. 股関節疾患の観察法・検査法・評価法について習得する。 3. 仙腸関節疾患の観察法・検査法・評価法について習得する。 期末評価
26回目	軟部組織損傷に関する解剖学などの基礎的知識および各軟部組織損傷の発生機転、症状、所見などの臨床的知識の習熟度を査定する。 まとめ
27回目	臨床シミュレーション シミュレーション実習として、足関節外側側副靭帯損傷の患者の治療法の一つとして固定法について習得度を査定する。
28回目	臨床シミュレーション シミュレーション実習として、肩部軟部組織損傷の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の鑑別検査法およびその評価法を正しく理解し、柔道整復術の実践的技能を習熟する。
29回目	臨床シミュレーション シミュレーション実習として、頸部軟部組織損傷の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の鑑別検査法およびその評価法を正しく理解し、柔道整復術の実践的技能を習熟する。
30回目	臨床シミュレーション シミュレーション実習として、腰部疾患および股関節疾患の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の鑑別検査法およびその評価法を正しく理解し、柔道整復術の実践的技能を習熟する。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	整復学および整復学実習等で学習した内容について復習しておく。
教科書	柔道整復学 理論編 改訂第5版 (南江堂) 柔道整復学 実技編 (南江堂)
参考書	包帯固定学 (南江堂) 必要に応じて資料プリントを配布する。
成績評価	1. 中間試験と口述を含めた実技による試験で80%評価する。 2. また出席点と受講態度等による評価を20%としそれぞれの合計点100%として評価する。 3. 合格基準はそれらの合計点数が60点以上の者とする。 4. ただし規定の出席日数に満たない者は評価の対象とはしない。
担当教員の基本情報	担当教員名 1 : 池内隆治、基礎柔道整復学講座 (8号館 4 F 教授室)、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名 2 : 秋津知宏、臨床柔道整復学講座 (8号館 4 F 講師室)、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名 3 : 神内晃伸、臨床柔道整復学講座 (8号館 4 F 講師室)、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名 4 : 濱口夏花、スポーツ科学講座 (8号館 4 F 講師室)、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名 5 : 並川一利、非常勤講師 (8号館 4 F 非常勤講師室) ほか
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
秋津 知宏・神内 伸晃・池内 隆治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>目標1：柔道整復学領域において頻繁に遭遇する骨折・脱臼の発生機転・病態・特徴的所見などを習熟する。</p> <p>目標2：骨折や脱臼の患者に対する基本的な観察の流れと整復法および固定法を実践的にシミュレーションをとうして習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 授業概要・オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の構成 2. 授業の目的・目標 3. 授業の内容 4. 成績・評価について説明する。 <p>2回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節の構造と機能について 2. 鎖骨について 3. 鎖骨骨折の観察法の流れの習得 <p>3回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転位を有する定型的鎖骨骨折の整復法 <p>4回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転位を有する定型的鎖骨骨折の固定法 <p>5回目 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上腕部の構造と機能について 2. 上腕骨について 3. 上腕骨外科頸骨折の観察法の流れの習得 <p>6回目 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復法 <p>7回目 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の固定法 <p>8回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前腕部の構造と機能について 2. Colles 骨折（転位を有する骨折）について 3. Colles 骨折（転位を有する骨折）の観察法について <p>9回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Colles 骨折（転位を有する骨折）の整復法 <p>10回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Colles 骨折（転位を有する骨折）の固定法 <p>11回目 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節部の構造と機能について 2. 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）について 3. 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）の観察法について <p>12回目 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）の整復法 <p>13回目 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）の固定法 <p>14回目 中間評価</p> <p>対象としてきた骨折および脱臼に関する解剖学などの基礎的知識と各骨折および脱臼の発生機転、症状、所見などの臨床的知識の習熟度を確認する。</p> <p>15回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の模擬患者を想定したシミュレーション実習</p> <p>シミュレーション実習として、鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的スキル習熟度を確認する。</p> <p>16回目 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の模擬患者を想定したシミュレーション実習</p> <p>シミュレーション実習として、上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的スキル習熟度を確認する。</p> <p>17回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）の模擬患者を想定したシミュレーション実習</p> <p>シミュレーション実習として、Colles 骨折（転位を有する骨折）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的スキル習熟度を確認する。</p> <p>18回目 肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）の模擬患者を想定したシミュレーション実習</p> <p>シミュレーション実習として、肩関節脱臼（前方脱臼：烏口下脱臼）の模擬患者を想定し、一連</p>

	<p>のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的技能習熟度を確認する。</p> <p>19回目 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度） 1 1. 肩鎖関節部の構造と機能について 2. 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度）について 3. 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度）の観察法について</p> <p>20回目 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度） 2 1. 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度）の整復法 2. 肩鎖関節脱臼（上方脱臼：Tossy の分類第2～3度）の固定法</p> <p>21回目 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼） 1 1. 肘関節部の構造と機能について 2. 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）について 3. 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の観察法について</p> <p>22回目 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼） 2 1. 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の整復法 2. 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の固定法</p> <p>23回目 股関節脱臼（外傷性股関節後方脱臼） 1 1. 股関節部の構造と機能について 2. 股関節脱臼（後方脱臼）について 3. 股関節脱臼（後方脱臼）の観察法について</p> <p>24回目 股関節脱臼（外傷性股関節後方脱臼） 2 1. 股関節脱臼（後方脱臼）の整復法 2. 股関節脱臼（後方脱臼）の固定法</p> <p>25回目 膝蓋骨脱臼（側方脱臼） 1. 股関節脱臼（後方脱臼）の整復法 2. 股関節脱臼（後方脱臼）の固定法</p> <p>26回目 期末評価</p> <p>対象としてきた骨折および脱臼に関する解剖学などの基礎的知識と各骨折および脱臼の発生機転、症状、所見などの臨床的知識の習熟度を確認する。</p> <p>27回目 肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の模擬患者を想定したシュミレーション実習 シュミレーション実習として、肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的技能習熟度を確認する。</p> <p>28回目 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の模擬患者を想定したシュミレーション実習 シュミレーション実習として、肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的技能習熟度を確認する。</p> <p>29回目 股関節脱臼（外傷性股関節後方脱臼）の模擬患者を想定したシュミレーション実習 シュミレーション実習として、股関節脱臼（外傷性股関節後方脱臼）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的技能習熟度を確認する。</p> <p>30回目 膝蓋骨脱臼（側方脱臼）の模擬患者を想定したシュミレーション実習 シュミレーション実習として、膝蓋骨脱臼（側方脱臼）の模擬患者を想定し、一連のながれにしたがって発生機転、全身状態および局所症状・所見の確認、鑑別の根拠などについて口述するとともに観察実技をすすめながら、当損傷の整復法および固定法を施術する。柔道整復術の実践的技能習熟度を確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	整復学および整復学実習等で学習した内容について復習しておく。
教科書	柔道整復学 理論編 改訂第5版（南江堂） 柔道整復学 実技編 （南江堂） 必要に応じて資料プリントを配布する。
参考書	標準整形外科学（医学書店） 包帯固定学 （南江堂） 必要に応じて資料プリントを配布する。
成績評価	1. 中間試験と口述を含めた実技による試験で80%評価する。 2. また出席点と受講態度等による評価を20%としそれぞれの合計点100%として評価する。 3. 合格基準はそれらの合計点数が60点以上の者とする。 4. ただし規定の出席日数に満たない者は評価の対象とはしない。
担当教員の基本情報	担当教員名1：池内隆治、基礎柔道整復学講座（8号館4F教授室）、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名2：秋津知宏、臨床柔道整復学講座（8号館4F講師室）、オフィスアワーは随時とする。 担当教員名3：神内晃伸、臨床柔道整復学講座（8号館4F講師室）、オフィスアワーは随時とする。 ほか
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
林 知也 他			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した人体の構造学、人体の機能学を中心に基礎医学系科目と関係法規について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：基礎医学系科目と関係法規の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～7回 人体の構造学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第8～14回 人体の機能学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第15回 前期のまとめ 到達目標：柔道整復師に必要な人体の構造学と人体の機能学の基本的な内容を、総合的に説明することができる。</p> <p>第16回 知識の確認（実力試験） 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、「臨床系総合演習」の内容とどの程度リンクできているか確認する。</p> <p>第16～18回 人体の構造学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、人体の構造学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 人体の機能学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、人体の機能学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 運動学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、運動学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26, 27回 衛生学・公衆衛生学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、衛生学・公衆衛生学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第28, 29回 関係法規の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、関係法規の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 後期のまとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	当該授業で演習した内容について、十分に復習し、理解することを期待する。 分からない点があれば質問等にて、積極的に解決すること。
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社） 「柔道整復師イエロー・ノート 臨床編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「2018 第16回～第25回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）一―7月頃刊行予定
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 前期は課題に対するレポートと小テスト（20%）、及び期末試験（80%）で評価する。</p> <p>(3) 後期は実力試験と期末試験の両方で評価する。実力試験受験に際しては、別途指示する基準を超えることを条件とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名 : 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、林（知）が調整する。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
林 知也 他			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
------	---

授業計画	<p>第1～14回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第15回 前期のまとめ 到達目標：柔道整復師に必要な柔道整復学の基本的な内容を、総合的に説明することができる。</p> <p>第16回 知識の確認（実力試験） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第17～19回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26～29回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 後期のまとめ 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるのと同時に、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
------	--

授業時間外の学習（準備学習等）について	当該授業で演習した内容について、十分に復習し、理解することを期待する。 分からない点があれば質問等にて、積極的に解決すること。
---------------------	--

教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社） 「柔道整復師イエロー・ノート 臨床編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
-----	---

参考書	「2018 第16回～第25回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）一～7月頃刊行予定
-----	--

成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 前期は課題に対するレポートと小テスト（20%）、及び期末試験（80%）で評価する。</p> <p>(3) 後期は実力試験と期末試験の両方で評価する。実力試験受験に際しては、別途指示する基準を超えることを条件とする。</p>
------	--

担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○林 知也 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：月曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、林（知）が調整する。</p>
-----------	---

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
樋口 正宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ(学校協会柔道整復理論編の全内容)までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、膝関節、足関節における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。		
授業計画	第1回	足関節果部骨折に対する所見・整復 足関節果部骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。	
	第2回	足関節果部骨折SEFstageⅡに対する固定 足関節果部骨折SEFstageⅡに対する固定について理解し、実践する。	
	第3回	腓骨先端裂離骨折に対する所見・整復 腓骨先端裂離骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。	
	第4回	腓骨先端裂離骨折に対する固定 腓骨先端裂離骨折に対する固定について理解し、実践する。	
	第5回	中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復 中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。	
	第6回	中足骨骨折に対する固定 中足骨骨折に対する固定について理解し、実践する。	
	第7回	趾骨骨折に対する所見・整復 趾骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。	
	第8回	趾骨骨折に対する固定 趾骨骨折に対する固定について理解し、実践する。	
	第9回	アキレス腱断裂に対する所見・処置 アキレス腱断裂に対する所見・処置について理解し、実践する。	
	第10回	アキレス腱断裂に対する固定 アキレス腱断裂に対する固定について理解し、実践する。	
	第11回	膝関節軟部組織損傷に対する所見 膝関節軟部組織損傷に対する所見について理解し、実践する。	
	第12回	膝関節側副靭帯・半月板損傷等に対する固定 膝関節側副靭帯・半月板損傷等に対する固定について理解し、実践する。	
	第13回	足関節軟部組織損傷に対する所見 足関節軟部組織損傷に対する所見について理解し、実践する。	
	第14回	前距腓靭帯Ⅲ度損傷に対する固定 前距腓靭帯Ⅲ度損傷に対する固定について理解し、実践する。	
	第15回	総合評価(試験) 授業で作成した固定具を巻軸包帯でモデルに装着する。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	基本的には授業後の復習を行う。 復習方法は、わからない用語や文章は調べてノートに書き加えるような方法を行う。		
教科書	柔道整復学(理論編)改訂第5版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂		
参考書	標準整形外科学第10版 監修：国分正一 医学書院 図解 四肢と脊椎の診かた 監訳者 野島元雄 医歯薬出版 図解 整形外科診察の進め方 監訳 小野啓郎 医学書院		
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。評価は期末試験と出席点を加味し、総合的に評価を行う。		
担当教員の基本情報	樋口正宏：ヒグチ整骨院院長、非常勤講師		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション [授業概要] 様々な外傷・障害を想定した関節評価法、エコー観察、徒手検査法、整復法、指導管理など実際の臨床現場で役立つ知識・技能を総合的に学習する。また、運動器外傷・障害のエコー画像について読影ポイントの学習を交え、より実践的な診察・治療技術の向上を目的とする。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。 [備考] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。</p> <p>2回目 肩関節の画像観察法 (1) [授業概要] 肩関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>3回目 肩関節の画像観察法 (2) [授業概要] 肩関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>4回目 肘関節の画像観察法 (1) [授業概要] 肘関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>5回目 肘関節の画像観察法 (2) [授業概要] 肘関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>6回目 膝関節の画像観察法 (1) [授業概要] 膝関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>7回目 膝関節の画像観察法 (2) [授業概要] 膝関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>8回目 足関節の画像観察法 (1) [授業概要] 足関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>9回目 足関節の画像観察法 (2) [授業概要] 足関節に関する関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>10回目 手指・手関節の画像観察法 (1) [授業概要] 手指・手関節の関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標] シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>11回目 手指・手関節の画像観察法 (2) [授業概要] 手指・手関節の関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 [到達目標]</p>

	<p>1 2 回目 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。 体幹・脊柱の画像観察法 (1) 〔 授業概要 〕 体幹・脊柱の関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 〔 到達目標 〕 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>1 3 回目 体幹・脊柱の画像観察法 (2) 〔 授業概要 〕 体幹・脊柱の関節評価法、徒手検査法、エコー観察法、病態把握を理解する。 〔 到達目標 〕 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>1 4 回目 まとめ・総合復習 〔 授業概要 〕 いままで講義した内容の総復習およびポイント整理 〔 到達目標 〕 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。</p> <p>1 5 回目 定期試験 レポート指導 〔 授業概要 〕 レポート課題、授業態度、出席日数による成績評価を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	参考資料などを使用して、事前に与えられたテーマについて予習すること。 予習・復習ノートを作成して学習した事項を管理すること。 ノートの提出義務はありません。
教科書	運動器のエコー観察症例集 (中村辰三、増田雅保、川村 茂) 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第5版 (学校協会監修)
参考書	とくに指定しない。
成績評価	出席、授業態度、小テスト = 20% レポート = 80%
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 川村 茂 研究室 : 8号館4F講師室 メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後
備考	参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。 ノートの提出義務はありませんが、チェックや指導を行う場合があります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
並川 一利			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	臨床の場において傷害に遭遇した際、柔道整復施術の適応疾患か否かを的確に把握できる鑑別能力が要求される。 傷害鑑別診断法では、骨・関節・軟部組織傷害を対象とし、柔道整復施術の適応・禁忌の症例を的確に把握できる能力を身につけるための知識・技術を教授する。 また、各傷害に対する観血的治療、非観血的施術の判断に必要な事項、応急処置についての事項を教授する。学生は、これら事項の習得を目指し、担当教員は、本教育目標達成のために必要な知識および技術を教授する。
授業計画	<p>第1回 頸・腰部における鑑別診断 頸部・腰部における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（頸・腰椎ヘルニアと脊柱管狭窄症、後縦靭帯硬化症、筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛症）について特徴的な所見や鑑別方法について学ぶ</p> <p>第2回 肩関節部および周辺部における鑑別診断 肩関節周辺部における主要な骨・関節・軟部組織領域（肩関節脱臼と上腕骨外科頸骨折における臨床的な症状の違い、腱板断裂と肩関節周囲炎の違い）を把握し鑑別方法について学ぶ。</p> <p>第3回 肘関節部における鑑別診断 肘関節周辺における主要な骨・関節・軟部組織領域（肘関節脱臼・上腕骨外科頸骨折、外側上顆炎と内側上顆炎の違いなど）の疾患について特徴的な所見や鑑別方法について学ぶ</p> <p>第4回 手関節・手指部における鑑別診断 手関節・手指部における主要な骨・関節・軟部組織領域（コーレス骨折とスミス骨折の違い、手指の変形）の疾患について特徴的な所見や鑑別方法について学ぶ</p> <p>第5回 股関節部における鑑別診断 股関節における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（ペルテス病・骨頭すべり症・股関節インピンジメント症候群）について特徴的な所見や鑑別方法について学ぶ。</p> <p>第6回 膝関節部における鑑別診断 膝関節の外傷における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（前十字靭帯損傷・後縦靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷、ランナー膝、ジャンパー膝、鷲足炎など）について特徴的な所見（疼痛発生部位）や鑑別方法について学ぶ。</p> <p>第7回 足関節部における鑑別診断 足関節部の外傷における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（靭帯損傷における圧痛部位、足部・足趾の主な骨折など）について特徴的な所見（疼痛発生部位）や鑑別方法について学ぶ。</p> <p>第8回 総合評価（試験）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内で指示する。
教科書	柔道整復学（理論編）第5版 社団法人 全国柔道整復学校協会編 南江堂
参考書	詳解国家試験問題集柔道整復師用 明治東洋医学院編集委員会編 医道の日本社 ペインクリニック 診断・治療ガイドー痛みからの解放とその応用 大瀬戸 清茂（監修）日本医事新報社
成績評価	出席を満たした者に対して期末試験を行い優・良・可の三段階で評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワーについて授業内で指示する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
神内伸晃 五反田重夫 宮越亮典			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	柔道整復術における伝統的な技法である整復法、固定法、後療法について学び、技術の応用力を養うことを目的とする。
授業計画	<p>第1講義 泥湿布の作成 1 柔道整復師が昔から使用している泥湿布を作成し、各部位に湿布を貼付し、市販の湿布と違いを体験する。</p> <p>第2講義 泥湿布の作成 2 柔道整復師が昔から使用している泥湿布を作成し、各部位に湿布を貼付し、市販の湿布と違いを体験する。</p> <p>第3講義 すだれ副子の作成 1 柔道整復師が昔から使用していたすだれ副子を作成し固定力を体験する。</p> <p>第4講義 すだれ副子の作成 2 柔道整復師が昔から使用していたすだれ副子を作成し固定力を体験する。</p> <p>第5講義 三角副子による固定方法 上腕部における骨折では古くから三角副子が用いられている。その副子の固定方法を学ぶ。</p> <p>第6講義 三角副子による固定方法 上腕部における骨折では古くから三角副子が用いられている。その副子の固定方法を学ぶ。</p> <p>第7講義 腰部の固定包帯とその応用 厚紙副子による腰部の固定方法を学ぶ。</p> <p>第8講義 肋骨骨折における固定包帯とその応用 厚紙副子による肋骨骨折の固定方法を学ぶ。</p> <p>第9講義 コーレス骨折の整復法と固定方法 伝統的なコーレス骨折の整復方法・固定方法について学ぶ。</p> <p>第10講義 コーレス骨折の整復法と固定方法 伝統的なコーレス骨折の整復方法・固定方法について学ぶ。</p> <p>第11講義 関節部における手技療法 1 膝関節・足関節における手技療法を学ぶ。</p> <p>第12講義 関節部における手技療法 2 肘関節・手関節における手技療法を学ぶ。</p> <p>第13講義 石膏ギプスによる固定方法 1 前腕部における骨折を想定した石膏ギプスによる固定法を学ぶ</p> <p>第14講義 石膏ギプスによる固定方法 2 前腕部における骨折を想定した石膏ギプスによる固定法を学ぶ</p> <p>第15講義 総合評価 第1回～第14回までの講義・演習で学んだことを評価する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業時間内に指示をする
教科書	授業内にプリントを配布するため教科書指定はしない。
参考書	参考書の指定なし
成績評価	授業出席 (20%)、口答試験・実技試験 (80%) によって総合評価を行う
担当教員の基本情報	オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館 4F講師室または非常勤講師室
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業内容は、教科書に基づいて、柔道整復師の接骨院運営・経営に係る免許取得後の実務に関し判例、具体事例を示してわかりやすく展開します。 同時に、柔道整復師の療養費受領委任取扱いの具体事例を理解する。施術録、支給申請書の記載についても理解する。</p>		
授業計画	1回目	現状把握 [到達目標] 現状を把握し法令遵守の精神の取得 [備考] 予習（教科書P4～P6）	
	2回目	経営管理 [到達目標] 運営と経営の違い、経営する上での注意点 [備考] 予習（教科書P7～P15）	
	3回目	ホスピタリティ [到達目標] ホスピタリティの概念、マネージメント [備考] 予習（教科書P16～P19）	
	4回目	柔道整復師の業務（1） [到達目標] 業務範囲・施術の限界と医師の同意をしっかりと理解する。 [備考] 予習（教科書P20～P23）	
	5回目	柔道整復師の業務（2） [到達目標] 守秘義務の重要性、知事の「指示」を理解する。 [備考] 予習（教科書P23～P24）	
	6回目	施術所（1） [到達目標] 施術所の開設届・廃止届・休止届・再開届・変更届の提出先、手続きを学ぶ。 [備考] 予習（教科書P25～P26）	
	7回目	施術所（2） [到達目標] 施術所の構造設備基準・衛生上必要な措置を覚え、都道府県知事の「監督」の意義を理解する。 [備考] 予習（教科書P26～P28）	
	8回目	まとめ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	必ず事前に教科書を熟読し、講義に臨んでください。		
教科書	「平成28年度版柔道整復師のための接骨院運営・経営」長尾淳彦著（進行社）		
参考書	教科書の補足、重要事項のまとめとしてプリントを配布。		
成績評価	筆記試験		
担当教員の基本情報	担当教員名：長尾淳彦 研究室：8号館4階 メールアドレス：a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考			

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
岡本 武昌 赤澤淳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ現場において傷害に遭遇した場合、競技中断か続行かの判断はスポーツ種目により異なる。競技者の速度、体重、道具を使用する種目か否か、衝突の可能性の高い種目か否かあるいはオーバー・ユースになりやすい種目か否かなどを検証する必要がある。スポーツバイオメカニクスでは、スポーツ種目別にエネルギーが生体のどの部分に加わることで傷害になりやすいか、また傷害の発生を防止するためのトレーニング方法を生体力学的観点から必要な事項を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 スポーツバイオメカニクスの力学的基礎1 バイオメカニクスの領域、用語、定義および基礎と応用について理解できる。</p> <p>第2回 スポーツバイオメカニクスの力学的基礎2 ニュートンの法則、ベクトル、力学的エネルギーについて理解できる。</p> <p>第3回 スポーツ力学・1（力） 重力、作用力、摩擦力および筋力について理解できる。</p> <p>第4回 スポーツ力学・2（重心・慣性） 身体重心について 慣性モーメントについて理解できる。</p> <p>第5回 バイオメカニクスの実際・立つ 立位姿勢と脊柱弯曲、姿勢の安定性と重心、身体重心について理解できる。</p> <p>第6回 バイオメカニクスの実際・歩く 歩行サイクル、重心移動、歩行の力学的エネルギーについて理解できる。 歩行時の加速度波形現象と視診による歩行観察から臨床やスポーツ現場に必要な観察眼を養う基礎を身につけることができる。</p> <p>第7回 バイオメカニクスの実際・走る 疾走のキック力と力学的エネルギー、疾走の関節トルクとパワーについて理解できる。</p> <p>第8回 バイオメカニクスの実際・跳ぶ1 反動作用の効果、走り高跳び、走り幅跳びについて理解できる。 垂直跳び時の動作分析を視診と画像・加速度波形等からスポーツ現場に必要な観察眼を養う基礎を身につけることができる。</p> <p>第9回 バイオメカニクスの実際・跳ぶ2 高跳びの力学、反動作用の効果、走り高跳び、棒高跳び、走り幅跳びについて理解できる。</p> <p>第10回 中間評価 今までの授業内容の中間評価を行う。</p> <p>第11回 バイオメカニクスの実際・蹴る サッカーのキック、ラグビーなどのバイオメカニクスについて理解する。</p> <p>第12回 バイオメカニクスの実際・打つ1 野球のバットスイング、ゴルフなどのバイオメカニクスについて理解する。</p> <p>第13回 バイオメカニクスの実際・打つ2 剣道、空手などのバイオメカニクスについて理解する。</p> <p>第14回 総合復習1 11回から13回までの授業内容の復習を行う。</p> <p>第15回 総合評価（まとめ） これまでの授業内容について総合復習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時間外の学習（準備学習等）について 配付資料等について精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。
教科書	授業プリント使用の為、なし。
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 金子 公有 杏林書院 目でみる動きの解剖学 金子公有・松本柚子訳 大修館書店
成績評価	出席基準を満たした者について、試験期間中に試験を行い評価する。 出席状況（10%程度）、授業態度（10%程度）等も加味し総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡本 武昌 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 授業の終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 授業の終了後1時間</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、アスレチックリハビリテーションを理解する。また、各関節毎のコンディショニング、エクササイズの基本理念を理解することにより臨床時の状況判断の向上を最終目的とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] アスレチックリハビリテーションの定義を理解する。</p> <p>2回目 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価などの基礎知識を理解する。</p> <p>3回目 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>4回目 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>5回目 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>6回目 膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>7回目 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>8回目 股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>9回目 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>10回目 腰部、腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部、腹部のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>11回目 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>12回目 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション基礎知識を理解する。</p> <p>13回目 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>14回目 肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>15回目 総合復習 [到達目標] 全範囲に関して基礎知識の理解を深める。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習し理解を深める。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験、小テスト、レポート、授業態度、出席などを総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。またコンディショニング、エクササイズの基本技術を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] 概要を理解，習得する。	
	2回目	基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価を理解，習得する。	
	3回目	足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	4回目	下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	5回目	膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	6回目	膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズを理解，習得する。	
	7回目	股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	8回目	股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズを理解，習得する。	
	9回目	腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	10回目	腰部，腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部，腹部のエクササイズを理解，習得する。	
	11回目	手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	12回目	肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションズを理解，習得する。	
	13回目	肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	14回目	肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズを理解，習得する。	
	15回目	総合復習 [到達目標] 全範囲に関して基礎知識の理解を深める。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習をし理解を深める。		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
成績評価	実技テスト，授業態度・出席（減点）を総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：松元 隆司 研究室：トレーナールーム メールアドレス：t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	ジュニア期（幼児期～青年前期）の心身の特性を理解し、その特性に合ったスポーツのあり方と指導方法に沿った各種の指導プログラムが作成できる能力を習得する。また、ジュニアスポーツ指導実習と連動させ、より実際的な内容を習得する。
授業計画	<p>1回目 ジュニアスポーツ指導員の役割について（1） 〔到達目標〕 ジュニアスポーツ指導員養成の経緯・歴史を把握する</p> <p>〔備考〕 それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく</p> <p>2回目 ジュニアスポーツ指導員の役割について（2） 〔到達目標〕 ジュニアスポーツ指導員像と、活動の場の状況を把握する</p> <p>〔備考〕 前回の小テストについて、十分理解を深めること（以降、毎時同じ）</p> <p>3回目 ジュニア期のスポーツの考え方について（1） 〔到達目標〕 ジュニア期の子供の現状の把握と対応について考える</p> <p>4回目 ジュニア期のスポーツの考え方について（2） 〔到達目標〕 ジュニア期のスポーツ実態の把握と運動発達の実態を理解する</p> <p>5回目 ジュニア期のスポーツの考え方について（3） 〔到達目標〕 生涯発達から見たジュニアスポーツの特徴とジュニア期のスポーツ指導のあり方を理解する</p> <p>6回目 子供の発達とコミュニケーションスキルについて（1） 〔到達目標〕 ジュニア期のスポーツ指導者の心構えと子供とのコミュニケーションの重要性を理解する</p> <p>〔備考〕 コミュニケーションの取り方のポイントを整理しておく</p> <p>7回目 子供の発達とコミュニケーションスキルについて（2） 〔到達目標〕 コミュニケーションの具体的な方法について理解する</p> <p>8回目 動きの発達とスキルの獲得について（1） 〔到達目標〕 乳幼児期から児童前期の運動指導の要点を熟知・理解する</p> <p>9回目 動きの発達とスキルの獲得について（2） 〔到達目標〕 児童後期から青年前期の要点を熟知・理解する</p> <p>10回目 動きの発達とスキルの獲得について（3） 〔到達目標〕 青年前期の運動指導の要点を熟知・理解する</p> <p>11回目 スポーツスキルの獲得と実際について（1） 〔到達目標〕 児童後期の具体的な指導内容を理解する</p> <p>12回目 スポーツスキルの獲得と実際について（2） 〔到達目標〕 青年前期の具体的な指導内容を理解する</p> <p>13回目 コーディネーション能力を高める運動の必要性について（1） 〔到達目標〕 コーディネーション能力の必要性を理解する</p> <p>14回目 コーディネーション能力を高める運動の必要性について（2） コーディネーション能力の実際等を理解する</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	適時実施の予定
教科書	財団法人日本体育協会編（平成21年度版）；ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（理論編）
参考書	特になし

成績評価	出席状況や受講態度、小テストやレポート（指導案）等を参考に、総合的に評価する。 （試験80%、授業内小テストやレポート等および出席20%）
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>(1) ジュニア期（幼児期～青年前期）の心身の健康やスポーツ活動に結びつく「あそび運動」を体験する。これらを基にし、各期の発育や発達上の留意事項に加味した運動プログラムの作成が行える。これらは、「ジュニアスポーツ指導論」の理論に沿った実践の機会として実習する。</p> <p>(2) スポーツスキルの指導方法を習得する。 ア、児童後期の「走る、跳ぶ、投げる」等のスポーツの基本動作の指導方法を習得する。 イ、スポーツスキル向上のための実践的手法を習得する。 ウ、各期に適したコーディネーション能力を高める運動を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 幼児期の運動あそびとゲームの実際（1） 〔到達目標〕 幼児期の運動あそび・ゲームを体験する</p> <p>2回目 幼児期の運動あそびとゲームの実際（2） 〔到達目標〕 幼児期の運動あそび・ゲームを組み立てる</p> <p>〔備考〕 「幼児期のあそび」30分程度の実施計画を作成</p> <p>3回目 児童前期の運動あそびとゲームの実際（1） 〔到達目標〕 児童前期の運動あそび・ゲームを体験する</p> <p>4回目 児童前期の運動あそびとゲームの実際 〔到達目標〕 児童前期の運動あそび・ゲームを組み立てる</p> <p>〔備考〕 「児童前期のゲーム」3～5種目を作成</p> <p>5回目 児童後期のスポーツスキル獲得の実際（1） 〔到達目標〕 児童後期のスポーツスキルを獲得するための過程を体験する</p> <p>6回目 児童後期のスポーツスキル獲得の実際（2） 〔到達目標〕 児童後期のスポーツスキルを獲得するための過程を作成する</p> <p>7回目 児童後期のスポーツスキル獲得の実際（3） 〔到達目標〕 児童後期のスポーツスキルを獲得するための新たな方法を考える</p> <p>8回目 児童後期のスポーツスキル獲得の実際（4） 〔到達目標〕 児童後期のスポーツスキルを獲得するための新たな方法を作成する</p> <p>9回目 青年前期のスポーツスキル獲得の実際（1） 〔到達目標〕 青年前期のスポーツスキルを獲得するための手順を体験する</p> <p>10回目 青年前期のスポーツスキル獲得の実際（2） 〔到達目標〕 青年前期のスポーツスキルを獲得するための新たな手順を作成する</p> <p>11回目 コーディネーション能力を高める運動例（1） 〔到達目標〕 幼児期の「コーディネーション能力を高める運動」を作成する</p> <p>12回目 コーディネーション能力を高める運動例（2） 〔到達目標〕 児童前期の「コーディネーション能力を高める運動」を作成する</p> <p>〔備考〕 11回目終了以降に、ジュニア対象のスポーツ教室（陸上競技教室）で、ジュニア指導を実際に体験する。 ・実施回数；1～2回 ・実施時数；約2～4時間</p> <p>13回目 コーディネーション能力を高める運動例（3） 〔到達目標〕 児童後期の「コーディネーション能力を高める運動」を作成する</p> <p>14回目 コーディネーション能力を高める運動例（4） 〔到達目標〕 青年前期の「コーディネーション能力を高める運動」を作成する</p> <p>15回目 まとめ</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	適時実施の予定
教科書	財団法人日本体育協会編（平成21年度版）；ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（実践編）
参考書	特になし
成績評価	出席状況や受講態度、学外での指導実習等を参考に、総合的に評価する (出席80%、指導実習レポート10%、受講態度10% ※(注)学外での指導実習は必修とする)
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	